

裾野市スポーツ推進計画 (平成28～32年度)



平成28年3月
裾野市教育委員会

はじめに

スポーツは、スポーツ基本法にもうたわれているとおり、世界共通の人類の文化であり、わたしたちが健康で文化的な生涯を送るうえで欠かすことのできないものです。スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、年齢や性別、障がいのあるなしに関わらず、すべての人々に平等に与えられた権利です。

スポーツ基本法では、スポーツに関する基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務やスポーツ団体の努めるべきことを明らかにし、スポーツに関する基本となる事項を定めています。その中で、地方公共団体は、国との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、実施する責務を有するとされています。

一方、裾野市教育委員会では、平成27年3月に「裾野市教育振興基本計画」を策定し、この中でスポーツ推進体制整備のための重点施策、主要施策を定め、裾野市民のスポーツ活性化のため、「スポーツ推進計画」を策定する旨を定めました。

これらのことから、市教育委員会では、平成16年に策定した「裾野市スポーツ振興計画」を見直し、このたび「裾野市スポーツ推進計画」を策定しました。計画は、誰もがスポーツに親しめる環境に留意し、体力づくりやレクリエーション、競技性だけではなく、観るあるいは支えるといったスポーツの新しい概念も念頭に策定しました。

裾野市には、2002 FIFAワールドカップでウルグアイチームのキャンプ地として使われ、また第58回国民体育大会でラグビー少年の部が行われた運動公園や、同国体でバレーボール成年女子の部が行われ、平成28年にリニューアルオープンする市民体育館など、スポーツに親しめる環境が整っています。これらの資源を活用し、市民の皆様や関係団体の皆様との連携・協力により「健康文化都市」、また「田園未来都市」の実現に力を注いでまいります。

結びに、本計画策定にあたりご尽力いただきました「裾野市スポーツ推進審議会」の皆様、パブリックコメントに貴重なご意見をお寄せいただきました多くの市民の皆様をはじめ、関係各位に厚く御礼を申し上げますとともに、計画の実現に向けて、市民の皆様の一層のご理解とご協力を賜れますよう、お願い申し上げます。

平成28年3月

裾野市教育委員会

教育長 風間 忠純

<目次>

序章

1	裾野市スポーツ推進計画策定の主旨.....	1
2	計画の位置づけ	1
3	計画の期間.....	2

第1章 裾野市におけるスポーツの現状と課題

4

1	体力向上と健康増進の現状と課題	4
(1)	運動習慣の定着と拡大	4
(2)	児童生徒の体力・身体の育成	5
2	スポーツ・レクリエーション の現状と課題	5
(1)	少年スポーツと生涯スポーツ	5
(2)	競技スポーツ	6
(3)	スポーツ施設	6
(4)	地域スポーツと学校体育スポーツ	7
(5)	スポーツ活動人口	7
3	スポーツツーリズム の現状と課題.....	8
(1)	スポーツイベント等の誘致	8
(2)	スポーツ観光	8

第2章 目標と課題項目の設定

9

1	基本構想	9
2	課題項目	9
(1)	体力づくりと健康な身体づくり	9
(2)	スポーツ活動の推進.....	9
(3)	スポーツツーリズムの促進.....	10
3	計画目標	10
(1)	30分以上の運動を週1回以上行う市民の割合 50%	10
(2)	市内の公共スポーツ施設の年間利用者数 40万人.....	11
(3)	市内年間宿泊者数 13万人	11
4	進行管理	11

第3章	施策の展開	12
1	体力づくりと健康な身体づくり	12
	(1) 運動習慣の定着と拡大	12
	(2) 子どもたちの体力向上	13
2	スポーツ活動の推進	17
	(1) 世代や、障がいの程度等に応じたスポーツ機会の創出、充実	17
	(2) 地域スポーツ環境の整備	20
	(3) スポーツ選手の育成と競技力の向上	21
3	スポーツツーリズムの促進	23
	(1) スポーツイベントの開催、誘致による交流機会の創出	23
	(2) スポーツ観光の促進とシティプロモーション	25

<資料集>

1	用語集	30
2	平成26年度裾野市市民意識調査抜粋	33
3	平成26年度裾野市教育に関するアンケート抜粋	52
4	平成24～26年全日本少年サッカー大会来場者アンケート集計	83
5	裾野市営スポーツ施設の利用状況推移	85
	(1) 裾野市営スポーツ施設の利用状況	85
	(2) 裾野市民体育館の利用状況	88
	(3) 裾野市総合グラウンド利用状況	91
	(4) 裾野市運動公園の利用状況	94
	(5) 学校体育施設の利用状況	97
	(6) 市立水泳場の利用状況	100
6	裾野市のスポーツイベント（平成25～27年度）	103
7	裾野市スポーツ推進審議会条例	104
8	裾野市スポーツ推進委員設置規則	106
9	写真一覧	108
10	図表一覧	109

序章

1 裾野市スポーツ推進計画策定の主旨

平成23年6月、日本スポーツの根幹であった「スポーツ振興法」が50年ぶりに全部改正され、「スポーツ基本法」が制定されました。平成24年3月には、「スポーツ基本法」の理念を実現するため、国の「スポーツ基本計画」が策定され、平成24年度から10年間のスポーツ推進の基本方針と、総合的かつ計画的に取り組むべき5年間の施策が示されました。

「スポーツ基本法」では、「スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」であると定義されています。これに示されるように、スポーツは、運動競技のみならず、広く身体運動を対象とし、心身の健全な発達を図るためにされるもの、と解釈されます。

また、文部科学省が平成22年に策定した「スポーツ立国戦略」では、スポーツを「するスポーツ」「観るスポーツ」「支えるスポーツ」に大別し、「人（する人、観る人、支える（育てる）人）の重視」を基本的な考えとし、だれもがスポーツに親しめる機会を確保することや、スポーツによってもたらされる人とのつながりが重視されています。

新しいスポーツのあり方に対しては、人々がスポーツに、より親しみ積極的に関わることができるような環境の整備が求められます。

「スポーツ基本法」には、都道府県および市町村の教育委員会は、「スポーツ基本計画」を参酌し、地方の実情に即したスポーツ推進に関する計画を定めるよう努める旨の規定があり（第10条）、静岡県においても平成26年7月、「静岡県スポーツ振興計画」が9年ぶりに見直され、「静岡県スポーツ推進計画」が策定されました。

「静岡県スポーツ推進計画」でも、「ライフステージに応じたスポーツ環境の整備」、「スポーツ界における好循環の創出」という、だれもがスポーツに親しめることを目指した策定がされています。

スポーツを巡るこれらの動きや国県の計画を受け、今後の裾野市のスポーツ推進の基本的な方向性を示すため、平成16年3月に策定された「裾野市スポーツ振興計画」を見直し、「裾野市スポーツ推進計画」を策定します。

2 計画の位置づけ

現在推進している「第4次裾野市総合計画」の教育分野においては、『成長するよろこびと地域のつながりでこころの豊かさを育む「すその」』を目標としています。これを実現すべく、教育に関するビジョンをより明確にするため、平成27年3月に策定した「裾

野市教育振興基本計画」においては、スポーツ推進計画の策定と推進を重要施策に掲げています。

「裾野市スポーツ推進計画」は、「静岡県スポーツ推進計画」を参酌し、「裾野市教育振興基本計画」の主旨に従って、スポーツ推進体制を整備するための目標と施策を指し示すものです。

3 計画の期間

本計画は、「第4次裾野市総合計画」、「裾野市教育振興基本計画」に合わせ、平成28年度から平成32年度までの5年間の計画とします。

なお、本計画は教育環境の変化等に柔軟に対応するため、計画期間中でも見直しを図ることがあります。



第4次裾野市総合計画

「みんなの元気と調和でつくる暮らし満足都市」

- ・だれもが将来にわたってすこやかに暮らせる健康と福祉の「すその」
- ・成長するよこびと地域のつながりでこころの豊かさを育む「すその」
- ・市民と行政が手を携えてつくる安心と活力のある「すその」
- ・豊かな自然と暮らしやすさが調和した「すその」
- ・健全な行政をみんなが実感できる市民と未来に開かれた「すその」

裾野市教育振興基本計画

「学びあい、高めあいながら、人間性豊かに未来を目指す人づくり」

- ・豊かな心を育む教育を進める
- ・学校の教育力を高める
- ・安全安心な学校づくりを進める
- ・自ら学び活動する生涯学習を支援する
- ・心の豊かさと、ふるさと「すその」への愛着心を育む
- ・学校、地域、家庭の連携により、社会全体の教育力を高める

スポーツ推進体制の整備

裾野市スポーツ推進計画

静岡県スポーツ推進計画

スポーツ基本法

スポーツ基本計画

裾野市スポーツ推進計画策定フロー図

図表 1

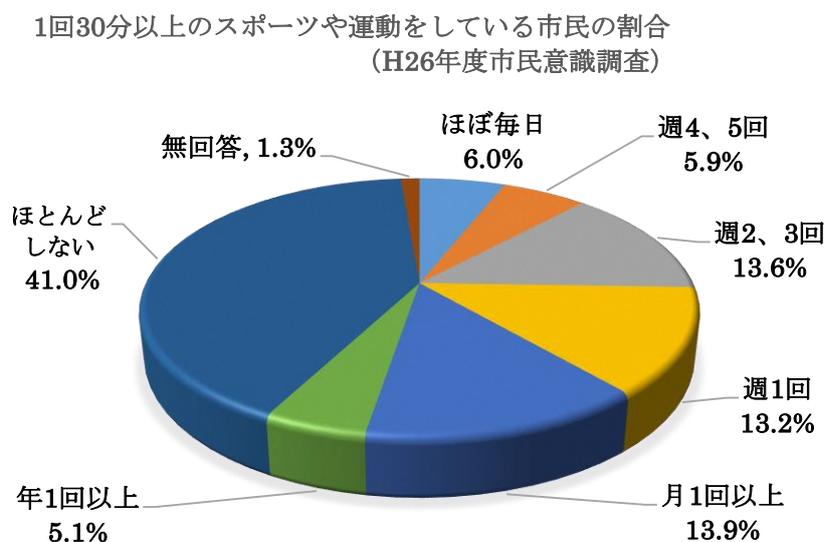
第1章 裾野市におけるスポーツの現状と課題

1 体力向上と健康増進の現状と課題

(1) 運動習慣の定着と拡大

平成26年度実施の「裾野市市民意識調査」（以下市民意識調査）によると、回答者の78.9%が大いに健康またはまあまあ健康と回答しています。また、自分の体力について63.5%の人が、普通以上であると回答しています。運動習慣と健康・体力の関係を見ると、週1回30分以上の運動をしている人の88.0%が大いに健康またはまあまあ健康と回答し、78.7%の人が体力に自信があるまたは普通であると回答しています。また、週1回30分以上の運動をしている人の87.7%が、習慣的な運動により健康を保つことができていると回答しています。

一方、週1回30分以上の運動をしている人の割合はわずか38.7%で、今後さらなる運動習慣の定着を図っていくことが求められます。



図表2

(2) 児童生徒の体力・身体の育成

平成26年度実施の「裾野市教育に関するアンケート調査」(以下アンケート調査)によると、小学5年生の40.5%、中学2年生の52.0%がスポーツや体力づくりを毎日1時間以上行っていると回答しています。一方、小学5年生の18.2%、中学2年生の22.6%が、スポーツや体力づくりをまったく行っていないと回答しており、子ども*によって体を動かす頻度に差があることがわかります。

運動不足によるさまざまな健康への不安や、子どもが成長する過程における体力・運動能力の低下の解消が求められます。

2 スポーツ・レクリエーション*の現状と課題

(1) 少年スポーツと生涯スポーツ

本市では、14のスポーツ少年団が登録されており、活発にスポーツ活動が行われています。しかし、少子化、ライフスタイルの変化・価値観の多様化により、スポーツ少年団への加入率は近年減少傾向にあります。

アンケート調査(一般市民)では、「子どもの生涯学習に不足しているもの」で、「気軽にスポーツ活動を行える場」が43.1%ともっとも高くなっています。また、「市が特に力を入れて行う必要があるスポーツ活動に関する施策」として、「年齢層にあったスポーツの開発普及」が33.9%ともっとも高くなっています。

子どもときからスポーツに親しむ環境、そして、生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境を構築する必要があります。



© 裾野市

(「*」については、巻末資料集に用語集あり)

(2) 競技スポーツ

現在、競技力の向上においては、各競技団体やスポーツ団体の取り組みに期待するところが多く、各競技団体や各種団体が行う事業活動に対し支援を行っています。具体的には、中学校の部活動を通じての選手育成や、全国大会等に出場する団体や選手に対する奨励金、広報等による市内外へのPR活動を行っています。

東京オリンピック・パラリンピックをはじめ、国内において世界的なスポーツイベントが数多く開催されようとしている今日、さらなるスポーツ振興の契機として、本市における競技スポーツ全体の活性化と競技力向上を目指し、各種団体や企業との連携を図りながら継続した強化体制を構築するとともに、各種団体が実施する選手強化事業に対する支援の一層の充実を図ることが求められます。

(3) スポーツ施設

市内の公共スポーツ施設*は、運動公園や、陸上競技場、市民体育館、総合グラウンド、市立水泳場等があり、長年、市民スポーツの拠点として親しまれています。しかし、年数の経過により建物や設備は老朽化が進むため、計画的な改修等が必要であるとともに、現在の利用状況に合わせた機能向上、障がい者スポーツの振興を視野に入れたユニバーサルデザイン*の導入等が求められます。

アンケート調査（一般市民）で、「市が特に力を入れて行う必要があるスポーツ活動に関する施策」として、「年齢層にあったスポーツの開発普及」に次いで「スポーツ活動施設の整備」が30.5%と高く、市民が快適にスポーツを楽しむことができるよう既存施設の効率的な利用を推進し、より利用しやすい環境整備を図ることが求められています。



写真1 裾野市立水泳場

(4) 地域スポーツと学校体育スポーツ

市内学校施設で行っている学校体育施設開放事業は、市民の自発的なスポーツ活動の拠点として、また、住民によるまちづくり活動の場として多くの利用があります。利用者による自主管理を推進するとともに、限られた開放時間・施設容量の中で、増大する需要を調整し、だれもが利用しやすい運営体制の整備に取り組む必要があります。

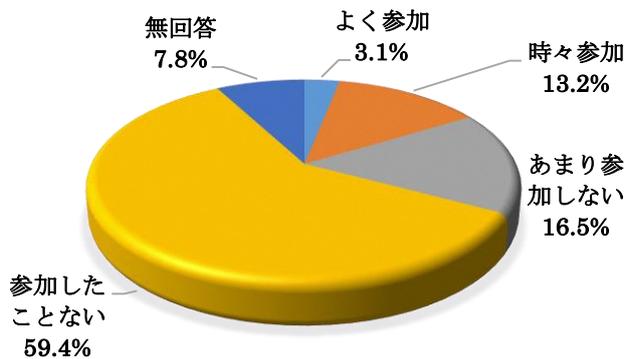
中学校では、指導を地域の方に協力していただいている部活動が増えています。運動部活動の充実のため、指導者の養成や活用等、学校と地域が連携したスポーツ環境の整備を推進することが求められます。

(5) スポーツ活動人口

現在、学校体育施設の開放や企業が持つ施設の活用等も進めながら、体育施設の整備、充実を図り市民のスポーツ活動を支援しています。また、スポーツ推進委員や各地区の体育委員会、スポーツ関係団体により、競技スポーツからレクリエーションスポーツまで、幅広いスポーツ大会や教室が開催されています。

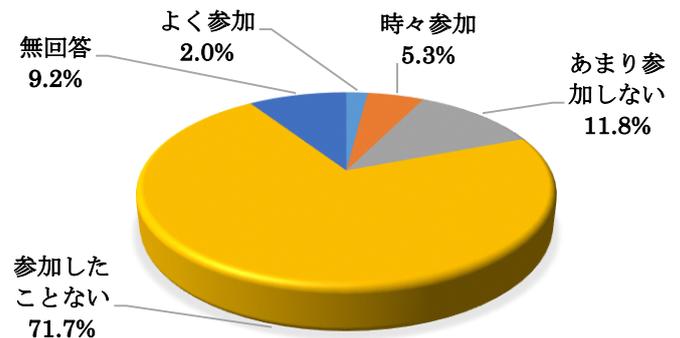
しかし、アンケート調査では、20歳以上の市民の59.4%が各種スポーツ大会に、71.1%が各種スポーツ教室に「参加したことがない」と答えており、参加者が固定化し、広がりを見せていない現状がうかがえます。官民連携で種目や運営方法等の改善を図りながら、市民のニーズを把握し、参加者数の増加につなげていく必要があります。

20歳以上の市民の各種スポーツ大会参加率
(H26年度裾野市教育に関するアンケート調査)



図表3

20歳以上の市民の各種スポーツ教室参加率
(H26年度裾野市教育に関するアンケート調査)



図表4

3 スポーツツーリズム*の現状と課題

(1) スポーツイベント等の誘致

平成24年から毎年開催されているウルトラトレイル・マウントフジ*、平成23年から26年まで開催された全日本少年サッカー大会などの、国際大会や全国大会が裾野市で開催されています。今後、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催決定を機に、市民が高レベルの競技にふれる機会を増やし、市民のスポーツへの興味を高めていく必要があります。

(2) スポーツ観光*

現在、裾野市には、富士裾野高原マラソンやウルトラトレイル・マウントフジなどに、年間約6000人の参加者が訪れています。また、旅行会社主催のウォーキングや、須山口登山道からの富士登山客等、多くの愛好家が裾野市を訪れています。国際競技大会やキャンプ等の積極的な誘致により、裾野市の魅力をスポーツによっても広く知らしめ、さらなる観光客誘致につなげていく取り組みが求められます。



写真2 富士裾野高原マラソン大会

第2章 目標と課題項目の設定

1 基本構想

平成27年3月策定の「裾野市教育振興基本計画」でうたわれた基本理念「学びあい、高めあいながら、人間性豊かに未来を目指す人づくり」を実現するため、だれもが生涯を通じて潤いのある充実した生活を実感でき、生きがいを持って健全に過ごせるよう、幼少期からの体力づくりや、健康な身体づくりに努めます。

また、世代を問わずだれもが気軽にスポーツに取り組むことができる環境づくりを進めるため、スポーツ・レクリエーション活動の振興を図ります。

さらに、スポーツによる他地域・世界との交流や、観光・経済振興のため、スポーツツーリズムを促進します。

2 課題項目

上記の基本構想を達成するため、三つの課題項目を定めます。また、各課題項目達成のため、それぞれ小項目を設定します。

(1) 体力づくりと健康な身体づくり

市民へのさまざまな情報発信を通じて、スポーツに対する関心を高め、市民の体力向上と健康増進を図るとともに、子どもたちのすこやかな成長と体力の向上のため、以下の小項目を設定します。

- ・運動習慣の定着と拡大
- ・子どもたちの体力向上

(2) スポーツ活動の推進

市民一人ひとりが自ら進んでスポーツ活動を行うことにより、個々人の生きがいと地域社会のふれあいを創出するため、以下の小項目を設定します。

- ・世代や、障がいの種類や程度に応じたスポーツ機会の創出、充実
- ・地域スポーツ環境の整備
- ・スポーツ選手の育成と競技力の向上
- ・競技団体の育成・支援

(3) スポーツツーリズムの促進

スポーツイベントによる交流拡大、観光・経済振興のため、以下の小項目を設定します。

- ・スポーツイベントの開催、誘致による交流機会の創出
- ・スポーツ観光の促進とシティプロモーション*



写真3 裾野市運動公園から望む富士山

3 計画目標

平成32年度までに以下目標の達成を目指します。また、この目標を達成するために、第3章の各項目において具体目標を設定します。

(1) 30分以上の運動を週1回以上行う市民の割合 50%

(平成26年度 38.7%)

競技スポーツや激しい有酸素運動に限らず、簡単なストレッチやウォーキングでも、定期的続けることにより体力向上と健康増進につながります。子どもたちからスポーツや運動に親しむ機会を充実し、手軽な運動方法や運動ができる場所の情報を発信することで、市民の運動習慣の定着、拡大を目指します。

(2) 市内の公共スポーツ施設の年間利用者数 40万人

(平成26年度 384,077人)

市内の公共スポーツ施設を積極的に活用し、スポーツ教室やイベント、人材育成を通じて市民のスポーツ活動の支援を行い、すべての市民が、世代や障がいの有無にかかわらず、スポーツに親しめる環境の創出を目指します。

(3) 市内年間宿泊者数* 13万人

(平成26年度 125,187人)

裾野市の立地や観光資源のPR、ボランティア等の人材育成への取り組みにより、スポーツイベントやキャンプの誘致を図り、スポーツによる観光・経済振興を目指します。

4 進行管理

目標の「30分以上の運動を週1回以上行う市民の割合」については毎年度行われる市民意識調査にて、「市内の公共スポーツ施設の年間利用者数」については年度ごとの各施設の延べ利用者数の合計にて、また「市内年間宿泊者数」については静岡県で行っている「観光交流客数調査」にて目標達成度を判断、進行具合に鑑み具体的な施策を展開していきます。



©裾野市

第3章 施策の展開

1 体力づくりと健康な身体づくり

(1) 運動習慣の定着と拡大

① 自宅で簡単にできる運動や、レクリエーション運動についての情報を積極的に提供します。

短い時間に行える簡単な運動やレクリエーション運動、読書やテレビを見ながらでもできる手軽なフィットネス*等の情報を、積極的に提供することで、運動する時間がなかなか取れない市民も体を動かせるよう、支援を行います。

また、市ウェブページ等に動画や写真を掲載することで、視覚的にもわかりやすい情報の提供を目指します。

② ウォーキングコース、サイクリングコース等市民がスポーツを安心して行える場所についての情報を提供します。

ひとりでも気軽に楽しめるウォーキングやサイクリング、筋力トレーニング、また、近年人気を集めているヨガ、ピラティス*など、市民が安全に安心してスポーツを楽しめるよう、市内施設および近隣市町の施設についての情報を提供し、市民の運動への取り組みを支援します。

●具体目標

- ・市ウェブページ等に情報紹介ページを平成29年度までに設け、年間アクセス数毎年5000件以上を目指します。



写真4 ピラティス（裾野市運動公園）

（2）子どもたちの体力向上

- ① 各種団体と連携し、子どもが自分のレベル・目標に合わせた運動やトレーニングが行える場の充実を目指します。

技術の向上を目的としたスポーツ少年団やクラブチーム、楽しみながら体を動かし、スポーツに取り組むきっかけを提供するスポーツ教室等の活動を支援し、子どもが自身のレベル・目標に合わせて活動することができる場の充実を目指します。また、子ども向けのさまざまなトレーニング手法や先進的事例の情報収集に努め、研究するなどし、子どもたちの健康増進に取り組み、同時に健康な心を培い、頑張る力、持続する力を養います。

② 幼児期のスポーツ体験機会の充実を目指します。

子どもたちが運動習慣を身につけるために、スポーツ団体や各種団体、民間事業者と連携し、幼児期から遊びを通じ身体を動かす楽しさを知ってもらえるような、運動遊び等のスポーツ体験機会の充実を目指します。

③ 学校や幼稚園・保育園等と連携し、子どもたちの握力や投能力、走能力、跳能力という基礎的運動能力の向上を目指します。

握る力、投げる力、走る力、跳ぶ力という、すべてのスポーツの基礎にして人間が生活するうえでも重要な能力の向上を図るため、学校や幼稚園・保育園と連携し、基礎的技術を習得するための教室や指導者講習会を企画します。

④ 地域子ども会等と連携し、スポーツにふれる機会を増やすことで、スポーツ活動の活発化を図ります。

他の地域の子どもたちとスポーツを通して関わり合い、刺激を受けることで、子どものスポーツに対する興味が増進することが期待できます。地域子ども会等と連携し、市内大会や教室等の開催を充実させる等、スポーツにふれる機会を増やすことで、子どものスポーツ活動の活性化を図ります。

⑤ ニュースポーツ*を積極的に取り入れ、スポーツを行う習慣が少ない子どもでも自然に体を動かせる機会の創出に努めます。

アルティメット*やドッジビー*等、近年注目を集めているニュースポーツを積極的に取り入れたり、裾野市の子どもたちに合ったニュースポーツを研究します。ニュースポーツに関する情報提供や、啓発をすることで、子どもたちが興味を持ち、自然に体を動かせる機会の創出に努めます。

⑥ 子ども一人ひとりに対し適切な指導が行える人材の育成を目指し、指導者講習会等を実施し、指導者育成に努めます。

子どもたち一人ひとりに対し、それぞれ適切な指導が行える人材は多くあ

りません。地域やスポーツ団体等と連携し、適切な知識を身につけた指導者の育成を目的とした講習会の開催等、指導者育成に努めます。

⑦ 子どもたちが「観るスポーツ」に親しむ機会の創出に努めます。

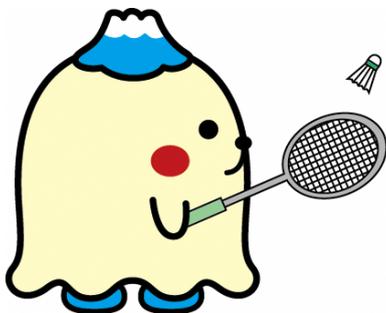
「ほんもの」に触れ合う機会を創出し、子どもたちから一流アスリートのプレーを間近に体験することで、スポーツに対して興味関心が持てるよう努めます。

●具体目標

- ・平成28年度から、地域やスポーツ団体と連携し、子ども向けのトレーニングの調査、研究を始め、裾野市に見合ったトレーニングの選定を目指します。
- ・平成29年度までに、子どもの基礎的運動能力の向上を目指すための教室や指導者講習会を企画し、定期的な開催を目指します。
- ・平成28年度から、裾野市の子どもに合ったニュースポーツの研究を始め、提案、普及を目指します。
- ・平成29年度までに、指導者が子ども一人ひとりに適切な指導を行うための講習会等を企画し、定期的な開催を目指します。
- ・平成29年度以降、「ほんもの」に触れ合うイベントを、年間1回程度開催することを目指します。



写真5 ファミリーバドミントン（駿東地区レクスポ大会）



© 裾野市



© 裾野市

2 スポーツ活動の推進

(1) 世代や、障がいの程度等に応じたスポーツ機会の創出、充実

- ① 幅広いニーズに対応するスポーツ教室を実施し、さまざまな年齢層の市民がスポーツを通して交流できる場の創出を目指します。

現在、スポーツの場においてもさまざまな要望やニーズが生まれています。スポーツ教室に関しては、内容、実施日時、周知方法等を工夫した複数の教室を開催し、幅広い年齢層の市民がスポーツを通じて交流できる場の創出を目指します。

- ② スポーツを通じた仲間づくりを目的にイベントを開催し、市民が楽しみながらスポーツを行い、社会参加できるよう支援します。

スポーツをともに行う仲間をつくることは、スポーツをより楽しみながら行えるだけではなく、社会参加や地域コミュニティの形成にもつながります。スポーツの仲間づくりを支援することで、スポーツの輪、地域の輪が広がるよう努めます。

- ③ 介護予防サロンや高齢者向けの教室などを開催し、高齢者の運動機能の維持向上に努めます。

高齢者が転倒による骨折や閉じこもりによる機能低下をおこさないようにするため、介護予防サロンや運動教室等を展開し、高齢者の運動機能の維持向上に努めます。

- ④ 65歳までを対象とした健康づくり教室等を開催します。

若いころから運動を行うことは、高齢になった際にも健康な体を維持するために非常に重要です。そのため、市民体育館に設置してあるトレーニングマシンを使用した教室やウォーキング教室等、65歳までを対象にした健康づくり教室を開催します。また、将来の運動機能低下を予防するための教室等も継続して開催します。

⑤ 障がいの程度等に合わせた指導が行える人材の育成に取り組みます。

障がい者スポーツを行ううえで、それぞれの障がいの程度等に合わせた指導が行える人材を確保することは、障がい者が安心してスポーツに取り組み、競技を楽しむために必要です。それぞれの障がいの程度等に合わせ、適切な指導が行える人材の育成に取り組みます。

⑥ 障がい者スポーツを推進するため、安全な運動場所や運動機会の確保に努めます。

障がい者スポーツを推進するため、障がい者が安心、安全にスポーツに取り組める運動環境の整備を目指します。障がい者を含めさまざまな人が利用できるよう整備されている運動公園や市民体育館を積極的に広報し、障がい者の利用を促進します。

また、運動機会確保のため障がい者団体等と協力し、障がいのある人がひとりでも多く運動やスポーツに参加できるよう努めます。

⑦ 障がい者と健常者のスポーツを通じた交流を支援します。

バリアフリー社会*、あるいはユニバーサル社会*の実現が叫ばれている現在、障がい者と健常者がともに手を取り合い、協力して社会をつくり上げていくことは、今後取り組むべき重要な課題のひとつとなっています。

また、障がい者スポーツはパラリンピックの開催などによって周知されつつあり、裾野市でも身体障がい者野球大会ドリームカップ*が開催され、年々注目を集めています。

よりよい社会の実現に向け、地域や関係団体と協力し、ドリームカップのように障がい者と健常者のスポーツを通しての交流をさらに支援できるよう努めます。



© 裾野市

●具体目標

- ・平成29年度までに、65歳までを対象とした講座、教室の年間延べ参加者数4500人、65歳以上を対象とした介護予防サロン、運動教室等の年間130回の開催を目指します。
- ・平成29年度までに、障がい者スポーツ指導者講習会を企画し、定期的な開催を目指します。
- ・上記指導者講習会の成果を活用するため、平成32年度までに、障がい者団体等と協力し、身体障がい者向けの新たなスポーツ教室をひとつ新設することを目指します。
- ・障がい者と健常者の交流を支援できるよう、第3項に記載するスポーツボランティア数の増加を目指します。



写真6 ドリームカップ（裾野市運動公園野球場）

(2) 地域スポーツ環境の整備

① 市民が快適にスポーツを楽しむことができる環境の整備を目指します。

体育施設の需要は年々増加しています。市内の公共スポーツ施設の稼働状況を研究しつつ有効な利用を促進し、市民が快適にスポーツを楽しむことができる環境の整備を目指します。また、民間の体育施設との連携も研究していきます。

② 総合型地域スポーツクラブ*の活動を支援し、市民が自主的にスポーツに取り組める環境の整備を行います。

総合型地域スポーツクラブ（以下地域スポーツクラブ）は、市民がスポーツを行う機会や場所を提供するという大きな役割を担っています。そこで、スポーツクラブの情報の提供や活動を支援し、市民が自主的にスポーツに取り組めるような環境の整備に取り組みます。

●具体目標

- ・平成32年度までに、市内の公共スポーツ施設の稼働率を分析し公開するシステムを構築することを目指します。また、ウェブ予約システムについても研究を進めます。
- ・市内企業等と連携し、市内のスポーツ施設をとりまとめ、市ウェブページ等への公開を目指します。また、利用状況の可視化についても研究します。
- ・平成32年度までに、地域スポーツクラブと連携し、また、地域スポーツクラブ同士の連携を図り、地域スポーツクラブ加入者10%増加を目指します（平成26年現在998人）。

(3) スポーツ選手の育成と競技力の向上

- ① **スポーツ選手のモチベーションアップや技術向上を目的とし、各競技のトップアスリートや現役引退選手を招聘し、講演会や実技講習会を行う機会を創出します。**

競技力を向上させ、スポーツ選手を育成するためには、競技技術だけではなく、メンタルトレーニングやモチベーションアップの方法も合わせて指導していくことが求められます。

選手のモチベーションアップや技術の向上を目的とし、各競技のトップアスリートや、現役を引退し現在はセカンドキャリアを歩んでいるアスリートを招聘し、講演会や実技講習会、交流会等を開催することで「ほんもの」と触れ合う場を創出します。

- ② **スポーツ団体等と連携し、市内外の指導者を登録し、各団体で必要な指導者を呼べる「人材バンク制度」の整備に努めます。**

スポーツを行ううえで、適切なアドバイスを受けることは競技力向上のための重要な要素のひとつですが、各団体で指導者を確保することは容易ではありません。

そこで、市内や近隣市町で活躍するスポーツ指導者を登録し、団体が指導を受けられる「人材バンク制度」を整備し、指導を受けられる環境の整備に努めます。また、さまざまな選手を指導することにより、指導者のスキルアップも期待されます。

- ③ **指導者育成のため、大学や企業から外部講師を招聘するなど、指導技術向上を図る指導者研修会を行います。**

スポーツ選手の持つ能力を引き出し、伸ばしていくためには、その競技に通じた指導者の存在が不可欠です。そのような指導力のある人材を育成していくために、外部から講師を招聘し指導者向けの講習会、講演会等を行います。

また、経験豊富な指導者が他の指導者にアドバイスをするような研修を計画し、地域の指導者育成・確保に努めます。

④ スポーツ団体や企業等に所属するスポーツ選手の活動を応援し、トップアスリートの育成を目指します。

裾野市発のトップアスリートを輩出するため、スポーツ選手を擁する団体や企業等に協力し、所属する市内在住スポーツ選手の競技力向上の応援をします。

●具体目標

- ・平成29年度以降、「ほんもの」と触れ合うための講演会や講習会等のイベントを、年間1回開催することを目指します。
- ・平成32年度までに、「人材バンク制度」を整備し、登録人数10人以上を目指します。
- ・平成29年度までに、指導者講習会を企画し、定期的な開催を目指します。
- ・平成28年度以降、スポーツ選手を擁する団体、企業等と調整し応援できる体制を、順次整えていきます。



© 裾野市

3 スポーツツーリズムの促進

(1) スポーツイベントの開催、誘致による交流機会の創出

- ① 裾野市の立地や今ある施設をPRし、スポーツイベントやキャンプの誘致に注力します。

裾野市は首都圏からのアクセスも比較的良好、世界遺産である「富士山」をはじめ自然が豊富であり、大会に向けて競技や練習に集中するのに適した環境です。とくに裾野市運動公園は雄大な富士山を間近に見ながらスポーツに取り組み、平成15年に行われた第58回国民体育大会においては、ラグビー少年の部の競技会場となった実績があります。こうした環境や実績を活かし、全国的な大会、国際大会等のスポーツイベントやキャンプの誘致や、スポーツ少年団やクラブチームなどの合宿誘致に努めます。また、近年注目を浴びているモータースポーツやファンラン*等のイベントや、サイクリングコース等の新たな観光資源の創出についても研究します。

とくに2020年の東京オリンピック・パラリンピックについて、また2019年のラグビーワールドカップについても、参加チームの大会事前キャンプの誘致を目指し、活動していきます。

- ② 市民がボランティア等で積極的にイベントに関わり、選手や観客との交流が行える場の創出に努めます。

「支えるスポーツ」においては、市民が積極的に大会に関わることで地域の活性化が期待されます。そのため、各種団体と連携し、ボランティア登録制度の整備等、市民が活躍しやすい環境を整え、市民がスポーツボランティアとして選手や観客と交流できる場の創出に努めます。

- ③ 通訳や食事、ロングステイ対応など、海外選手を受け入れる基盤の整備を検討します。

国際大会やキャンプの誘致を進めるうえで、海外の選手の受け入れ態勢の整備は重要です。

通訳や複数言語での案内の作成、ロングステイ対応など、海外スポーツ選手がスポーツに集中して取り組める環境の整備を進め、国際スポーツイベントの誘致を推進します。

●具体目標

- ・ 2019年のラグビーワールドカップおよび2020年の東京オリンピック・パラリンピックについて、参加チームの事前合宿誘致を目指します。
- ・ 平成32年までに、スポーツ団体と連携し、スポーツボランティア登録数50人以上を目指します（平成26年現在18人）。
- ・ 平成29年度までに、海外スポーツ選手受け入れのための研究を始め、環境整備に取り組みます。



写真7 第58回国体ラグビー少年の部（裾野市陸上競技場）

(2) スポーツ観光の促進とシティプロモーション

① 近隣市町と連携し、宿泊地や観光地の案内を積極的に行うことで、スポーツ等で訪問する人々に対し、裾野市を観光していただけるように努めます。

近隣市町と連携し、スポーツ観光の案内を積極的に発信します。また、トレッキングやサッカー、スキー、ゴルフ、あるいは大会参加等、スポーツを目的として裾野市や近隣市町を訪れる方に対し、スポーツ観光に加え宿泊地や地域観光を紹介し、スポーツだけではない裾野市や地域の魅力に触れていただけるよう努めます。

裾野市には、「富士山」や「五竜の滝*」、「景ヶ島溪谷*」、「アシタカツツジ原生群落*」等、自然が豊富であり、世界かんがい施設遺産「深良用水*」や、大型観光施設「富士サファリパーク*」、「ぐりんぱ*」、温泉施設「ヘルシーパーク裾野*」等、観光資源も豊富です。スキー場「スノータウンイエティ*」や多くのゴルフ場等の民間スポーツ施設も数多くあり、「時之栖スポーツセンター裾野グラウンド*」や「帝人アカデミー富士*」のように、スポーツ合宿や研修を実施することができる施設もあります。これらの資源を最大限に活用し、観光ツアーの誘致、イベント創出等を目指します。

② スポーツ団体や観光事業者等と連携し、スポーツツーリズムについて専門知識を有する人材の育成に取り組みます。

裾野市にある多くの観光資源を、スポーツで訪れる旅行者へ効果的にアピールするためには、スポーツ・観光・経済といった分散している知識を集約し、専門知識を有する人材を育成することが重要です。

各種スポーツ団体や、観光、商工事業者、団体と連携し、スポーツツーリズムやシティプロモーションに通じた人材の育成に取り組みます。

③ 情報発信のため、インターネットコンテンツ*を整備し、また大会等で裾野市のPRに努めます。

スポーツ団体や観光団体等と協力し、スポーツを通じた裾野市の魅力を世界に向けて発信すべく、ウェブページやSNS*等のインターネットコンテンツ*の整備、運営を図ります。

また、国内のみならず世界中から参加者が集まる富士裾野高原マラソンやウルトラトレイル・マウントフジ等のイベントにおいて、裾野市のPRを図

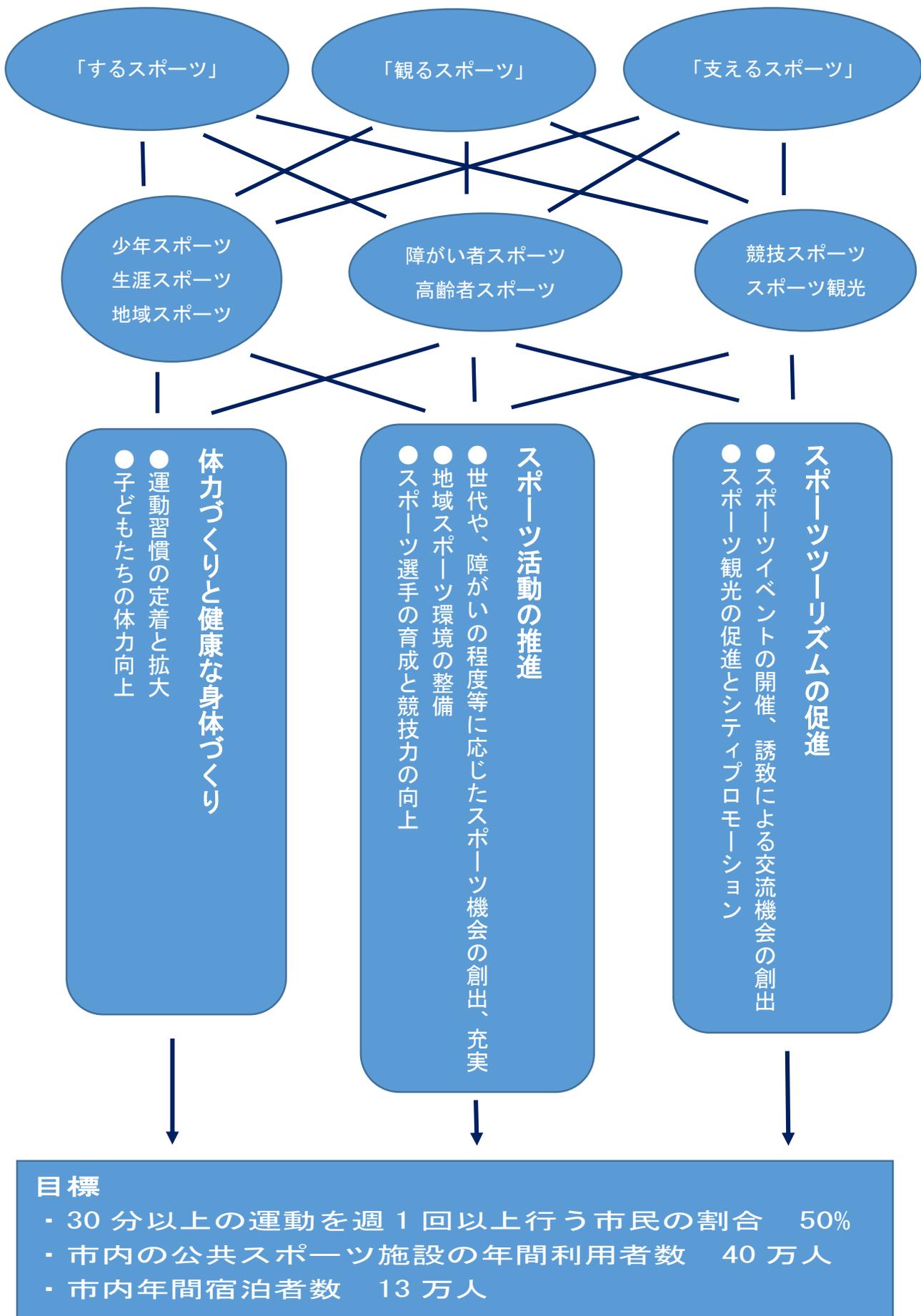
ります。

●具体目標

- ・平成29年度までに、産業振興団体や各種スポーツ団体、観光団体と協力し、スポーツ観光ツアーをひとつ企画することを目指します。
- ・平成28年度以降、産業振興団体等と連携し、毎年1回以上の勉強会等を開催することで、人材育成に努めます。
- ・平成29年度までに、スポーツ団体等と協力し、裾野市のスポーツ観光情報を発信するインターネットコンテンツについて、整備、運営することを目指します。



写真8 ヘルシーパーク裾野から望む富士山



裾野市スポーツ推進計画目標フロー図

図表 5

〈 資 料 集 〉

1 用語集

アシタカツツジ原生群落 (25 頁)

市内十里木地先にあるアシタカツツジの原生群落。アシタカツツジは雄しべの数が10本ある愛鷹山に自生する珍しいツツジ。裾野市指定「市の花」。

アルティメット (14 頁)

7人対7人で、ディスクをパスしながら敵陣を目指すゲーム。

インターネットコンテンツ (25,26 頁)

インターネットを通じて発信されるさまざまな情報やサービスの内容のこと。

ウルトラトレイル・マウントフジ (8,25 頁)

静岡・山梨両県にまたがる富士山周辺11市町を、登山道や遊歩道を使って1周走破するマラソンレース。平成24年から開催。

SNS (25 頁)

エスエヌエス。ソーシャルネットワーキングサービスの略。人と人とのつながりを促進することを目的としたウェブ上のコミュニケーションサービス。

ぐりんぱ (25 頁)

富士山2合目、標高1250メートルという、雄大なロケーションに位置する遊園地。数多くのアトラクション、冬季にはスケートも楽しめる。

景ヶ島溪谷 (25 頁)

黄瀬川の支流佐野川が玄武岩溶岩流を約600メートルにわたって浸食した溪谷。裾野市指定文化財。溪谷内には、屏風状に広がる柱状節理「屏風岩」もある（静岡県指定天然記念物「景ヶ島溪谷屏風岩の柱状節理」）。

子ども (5,9,10,13,14,15 頁)

本計画における「子ども」とは、概ね18歳までの乳幼児期、学童期、思春期の発達段階を想定。

五竜の滝 (25 頁)

裾野市中央公園内にある五条からなる高さ約13メートルの滝。静岡県指定天然記念物。

スポーツ観光 (8,10,25,26 頁)

スポーツイベントを通じて、試合等を観戦する「観るスポーツ」、自らが体験する「するスポーツ」、またボランティア等として関わる「支えるスポーツ」、それぞれの需要に応え、また喚起し、スポーツを活用した観光振興を目指す取り組み。

スポーツツーリズム (8,9,10,23,25,27 頁)

スポーツ観光を通じ、スポーツイベントの観戦者や参加者と、開催地周辺の観光を融合して、交流人口の拡大や経済波及効果を目指す取り組み。

シティプロモーション（10,25,27 頁）

住みやすさや観光資産など地域の魅力を高め、地域住民の愛郷意識を形成し、地域の売り込みや知名度の向上を目指そうという取り組み。

市内の公共スポーツ施設（6,11,20,27 頁）

市内の公共スポーツ施設のうち、市営の物とする。民間等のスポーツ施設との協働により、スポーツ人口の増進を目指すのは本計画の主旨であるが、年ごとの比較の都合、目標管理は市営施設にて行う。

スノータウンイエティ（25 頁）

富士山2合目、標高1300～1450メートルに位置するスキー場。人工造雪機により、屋外ゲレンデでは日本一早く、例年10月から営業を始める。

総合型地域スポーツクラブ（20 頁）

地域住民自らが、多世代、多種目にわたり、さまざまな指向、レベルに合わせて、身近な地域でスポーツを楽しむことを目指して運営する地域密着型のスポーツクラブ。平成7年度から文部科学省が進めている。裾野市には現在4団体が登録され、平成26年度現在998人が所属している。

帝人アカデミー富士（25 頁）

公益財団法人日本サッカー協会と帝人株式会社が平成27年に創設した人材育成拠点。スポーツ合宿や宿泊研修を行うことが可能。JFAアカデミー福島に所属する女子サッカー選手の活動拠点になっている。

時之栖スポーツセンター裾野グラウンド（25 頁）

市内下和田地先にある大型スポーツ施設。サッカーグラウンド10面と宿泊施設を備える。平成23年から26年まで開催された全日本少年サッカー大会の会場となった。

ドッチビー（14 頁）

ボールの代わりに布製のディスクを使った、ドッジボールのように相手にディスクを当てるゲーム。

ドリームカップ（18 頁）

平成13年から裾野市運動公園野球場等で開催されている身体障がい者野球大会。参加チームは全国から集まり、市民ボランティアによる実行委員会により運営されている。

ニュースポーツ（14,15 頁）

近年、我が国で行われるようになった比較的新しいスポーツ種目の総称。触れ合いと楽しみを追求し、体力差、技術差、性別、年齢によらず誰とでもでき、ルールに弾力性があるなどの特徴がある。海外から紹介されたものなども含め100種を超えるニュースポーツがあるとされる。

年間宿泊者数（11,27 頁）

静岡県で行っている「観光交流客数調査」による年間宿泊客数。平成26年度宿泊者数12万5187人。

バリアフリー社会（18 頁）

高齢者や障がい者等に配慮した、社会全体のバリアフリー化を実現する社会。

ピラティス（12,13 頁）

ヨガや座禅、体操、武道などの要素を取り入れたエクササイズ。体幹を鍛え、体の歪みを矯正する。医療現場でもリハビリテーションに取り入れられている。

ファンラン（23 頁）

カラーパウダーを浴びながら走るカラーランや、泡まみれになりながら走るバブルラン、トイガン等を使い与えられたミッションをクリアしながら走るサバイバルランなど、楽しむことを目的としたランニングイベント。裾野市でも平成 26 年にスノータウンイエティにてカラーランが、また平成 27 年には裾野市を含む富士山周辺市町で第 1 回富士山一周国際駅伝が行われた。

フィットネス（12 頁）

健康を保つこと。そのために行う運動。

深良用水（25 頁）

江戸時代前期につくられたかんがい用水。箱根山湖尻峠に 1 2 8 0 メートルにおよぶ隧道を掘り抜き、芦ノ湖の水を静岡県側に導いた。現在においてもなお地域に多大な恩恵をもたらしている。国際かんがい排水委員会指定世界かんがい施設遺産。農林水産省疎水百選。

富士サファリパーク（25 頁）

市内十里木地先にある、約 8 0 種 1 0 0 0 点からなる自然動物公園。マイカーでのサファリドライブや金網張りのジャングルバスでのエサあげが楽しめる。

ヘルシーパーク裾野（25 頁）

裾野市営温泉。高張性の弱アルカリ性で、ナトリウム、カルシウムを主成分とする塩化物温泉。

ユニバーサルデザイン（6 頁）

年齢や障がいの有無などにかかわらず、できるだけ多くの人が利用可能であるようにデザインすること。

ユニバーサル社会（18 頁）

年齢や障がいの有無などにかかわらず、できるだけ多くの人たちが安全で快適な生活を送ることができる社会。

レクリエーション（5,7,9,12 頁）

楽しみとして行われる娯楽、余暇活動。

用語集凡例

- ・ 用語集は、本文中に「*」を記した語句につき、解説するものである。
- ・ 用語の掲載順は 5 0 音順とした。
- ・ 用語の後に付した（ 頁）は、用語の掲載ページを示した。

2 平成26年度裾野市市民意識調査抜粋

I 調査の概要

1 調査の目的

平成26年度の裾野市民の市政に対する認識や要望、市民生活に関する意識を調査し、諸施策推進のための基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査対象

本調査は、20歳以上の市民から無作為に抽出した1,000人を対象に実施した。

3 調査期間

平成26年8月26日に調査票を発送し、平成26年9月10日を投函締切とした。

4 調査方法

郵送配布、郵送回収

5 回収状況

配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
1,000	547	546	54.6%

*有効回収数：回収数から全く回答がないもの（白票）を除いた数

図表6

6 調査結果の表示方法

- ・集計結果の%表示は、小数点以下第2位を四捨五入してあるので、内訳の合計がちょうど100.0%にならない場合がある。
- ・複数回答が可能な設問の場合、すべての比率の合計がちょうど100.0%にならない場合がある。
- ・当該質問に回答した人の実数（回答母数）を表記する場合は「N」と表示した。
- ・100%積み上げグラフでは0.0%は非表示としている。
- ・クロス集計の場合、分析軸では無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答者数の合計と単純集計（全体）の有効回答者数が合致しないことがある。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法である。
- ・当該質問に回答した人の実数（回答母数）が10人未満の場合は、原則として図示するに留め、本文ではふれていない。

II 調査結果のまとめ

<< 特集調査 >>

■健康でないと感じる人が 18.3%、体力に不安のある人は 33.9%。

自分が「健康でない」と感じる人の割合は 18.3%と前回調査から増加している。また、自分の体力に不安がある人の割合は、平成 22 年度調査から約 3 割と横ばいである。

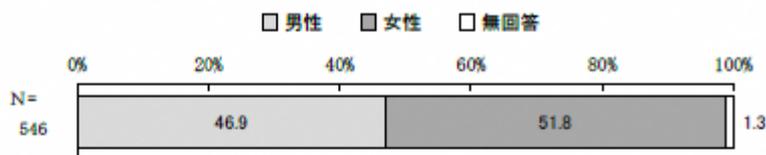
■スポーツ活動をしていない人は約 4 割。

この 1 年間にスポーツや運動をほとんどしていない人の割合は 41.0%である。運動をしていない主な理由としては「仕事などで忙しく時間がない」「場所や施設が近くにない」などが挙げられている。

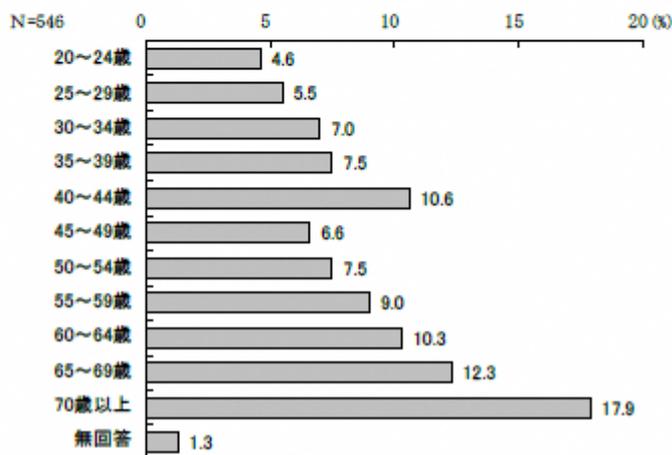
III 調査結果

回答者の属性

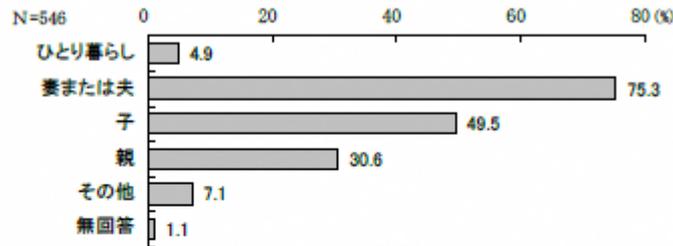
性別



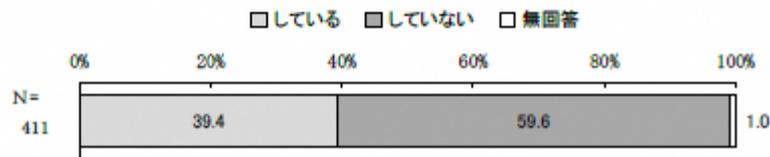
年齢



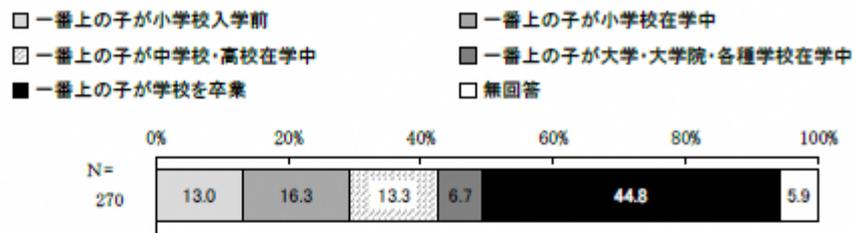
同居の状況



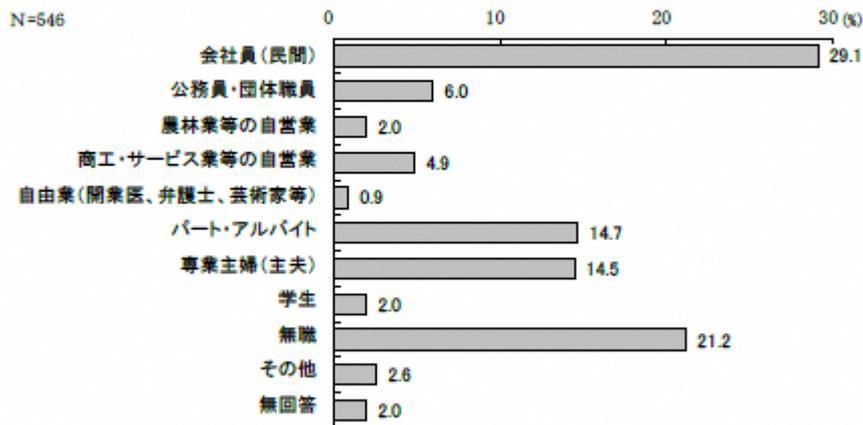
共働きの状況



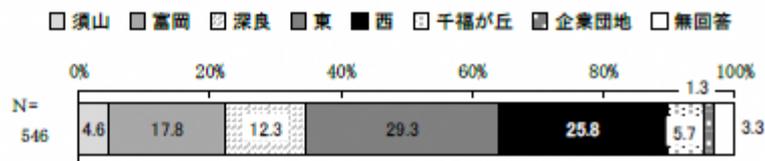
子どもの状況



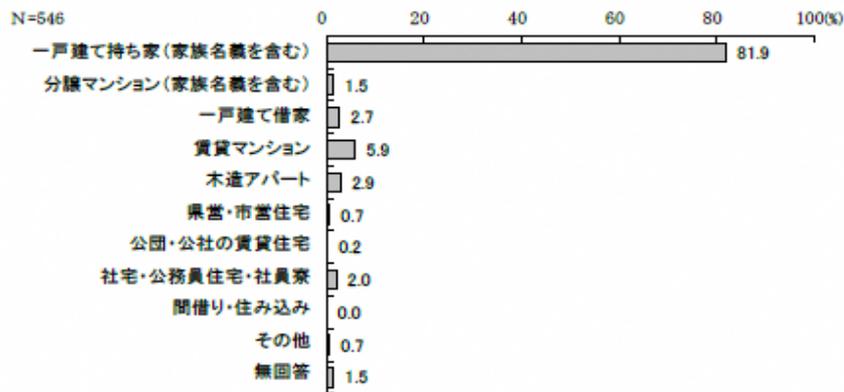
職業



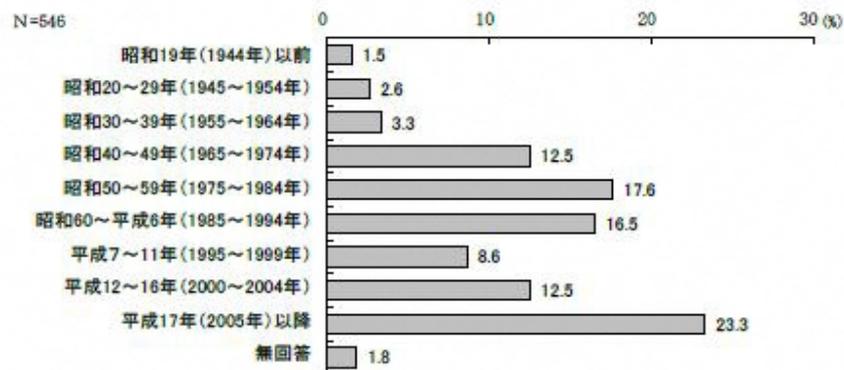
居住地区



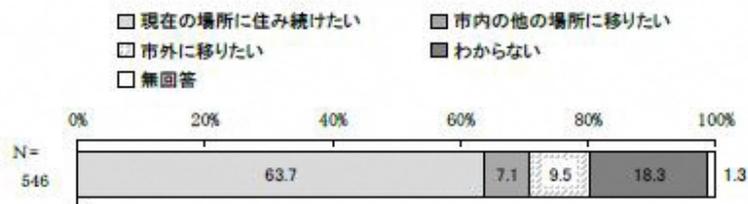
住居形態



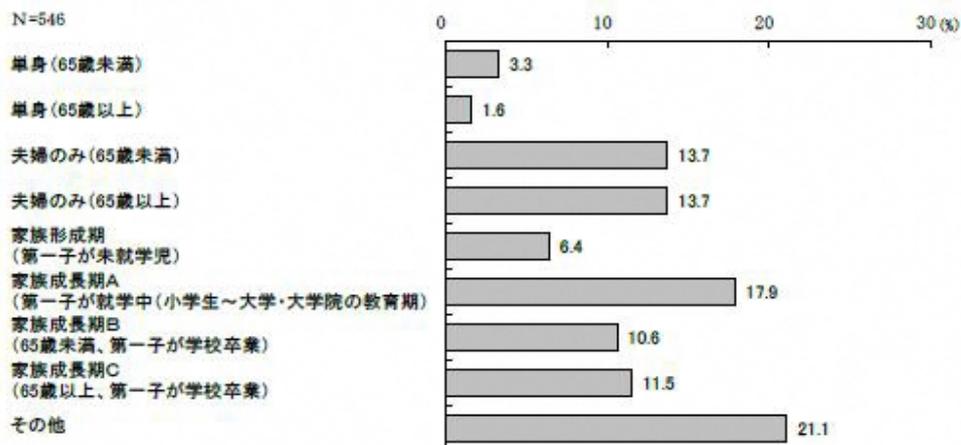
居住年数



定住意向



ライフステージ



図表 7

6 スポーツ活動について

問8 ご自分の健康についてどのように感じていますか。(〇は1つ)

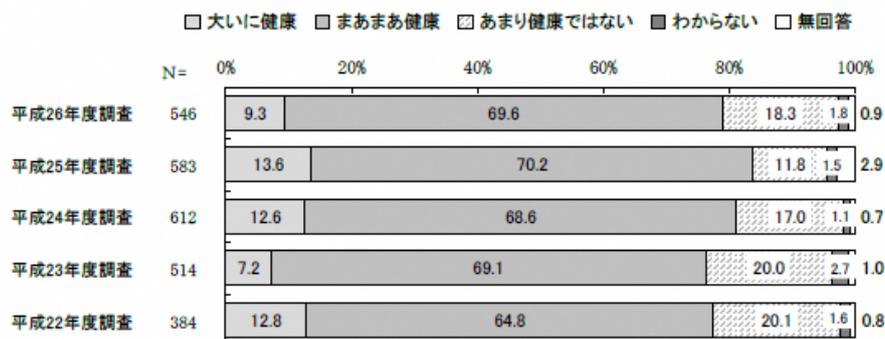
自分の健康については、「まあまあ健康」の割合が 69.6%と最も高く、次いで「あまり健康ではない」の割合が 18.3%、「大いに健康」の割合が 9.3%などとなっている。

経年比較をすると、最近5年間で多少の増減はみられるが、ほぼ横ばいとなっている。

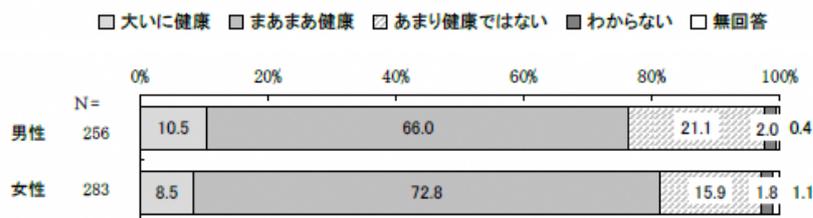
性別でみると、女性に比べ、男性で「あまり健康ではない」の割合が高くなっている。



【経年比較】



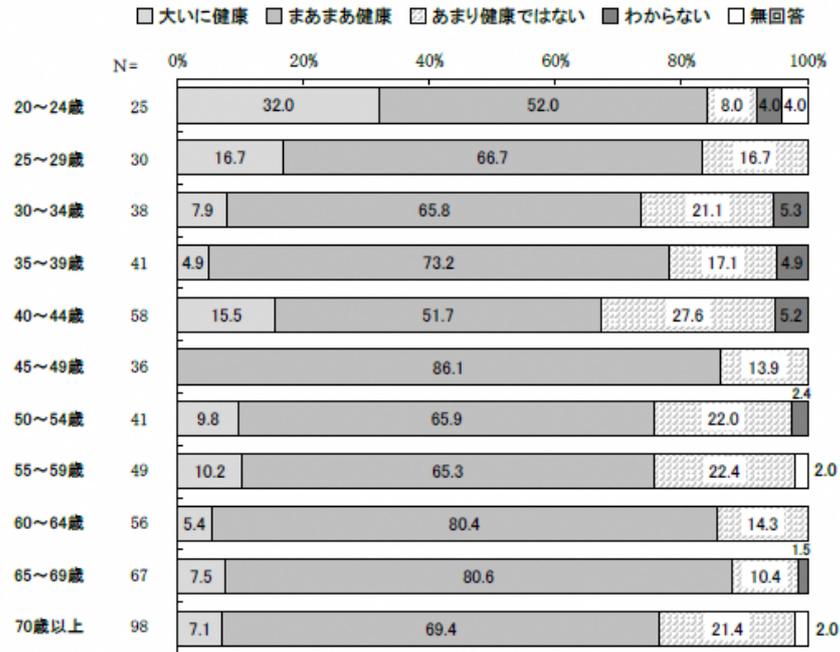
【性別】



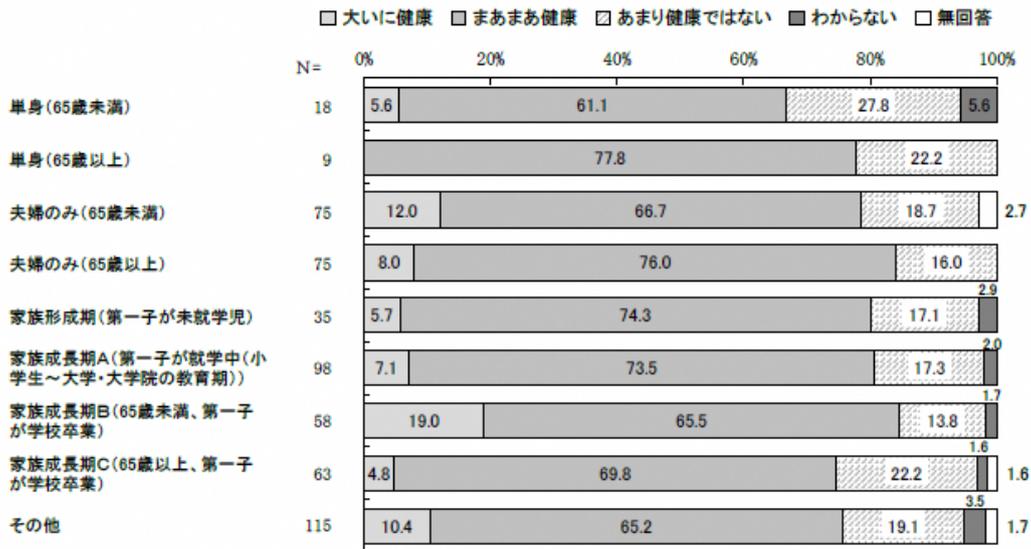
年代別でみると、他の年代に比べ、20～24歳で「大いに健康」の割合が高く、3割以上となっている。また、45～49歳で「大いに健康」と回答した方はいなかった。

ライフステージ別でみると、他に比べ、単身(65歳未満)で「あまり健康ではない」の割合が高く、約3割となっている。

【年代別】



【ライフステージ別】



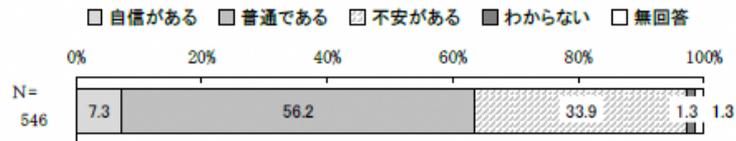
図表 8

問9 ご自分の体力についてどのように感じていますか。(○は1つ)

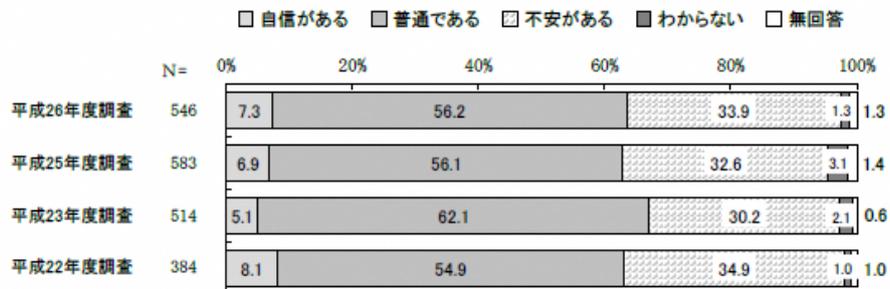
自分の体力については、「普通である」の割合が56.2%と最も高く、次いで「不安がある」の割合が33.9%、「自信がある」の割合が7.3%などとなっている。

経年比較をすると、多少の増減はみられるが、いずれの割合もほぼ横ばいとなっている。

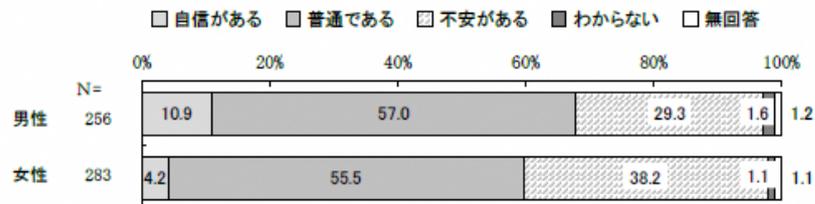
性別でみると、男性に比べ、女性で「不安がある」の割合が高くなっている。



【経年比較】



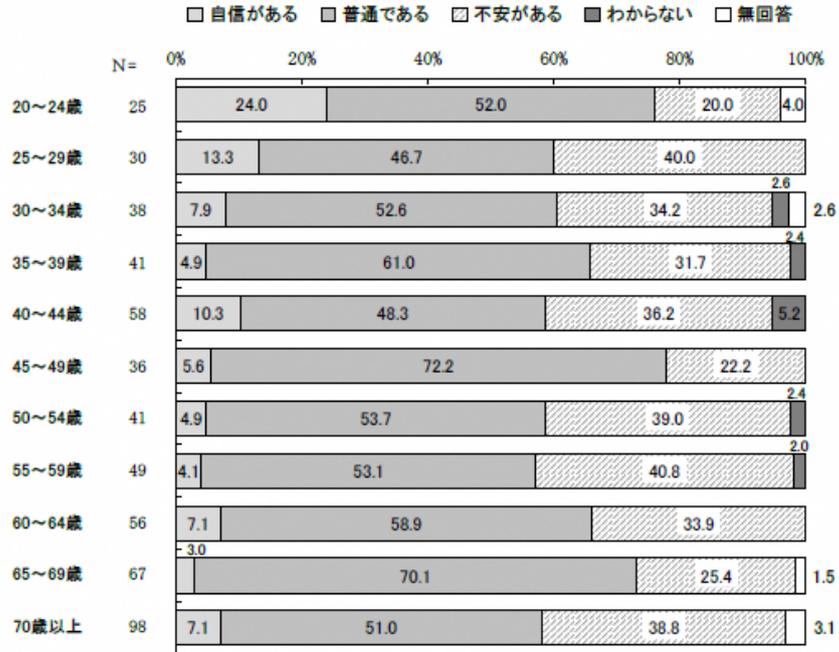
【性別】



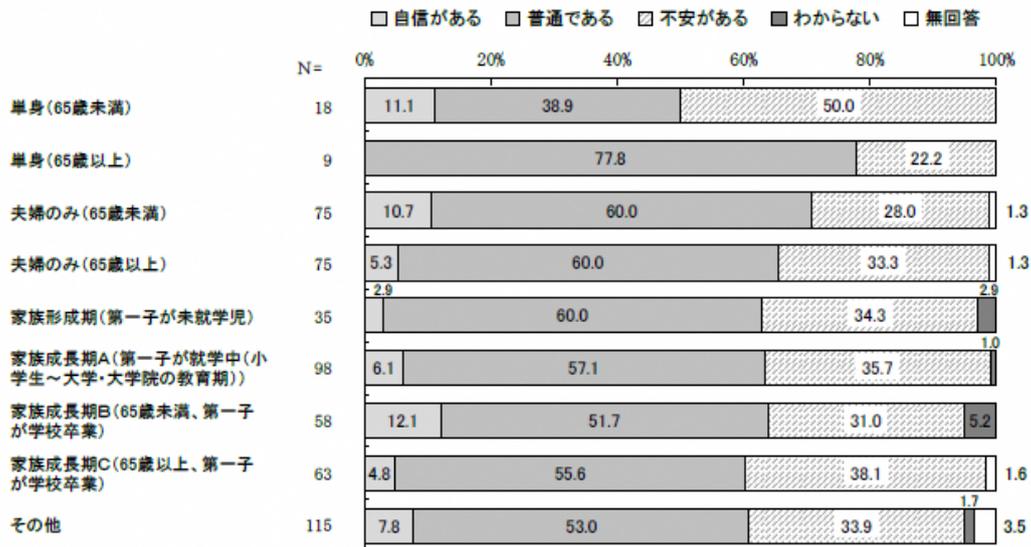
年代別でみると、他の年代に比べ、20～24歳、45～49歳で「不安がある」の割合が低く、約2割となっている。

ライフステージ別でみると、他に比べ、単身（65歳未満）で「不安がある」の割合が高く、5割となっている。

【年代別】



【ライフステージ別】



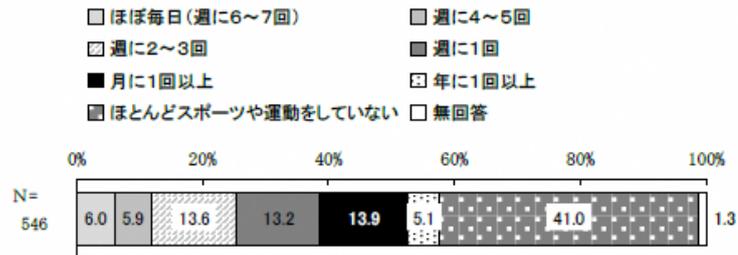
図表 9

問 10 この1年間でスポーツや運動(1回あたり 30 分程度以上)をどれくらいの頻度で行いましたか。
(〇は1つ)

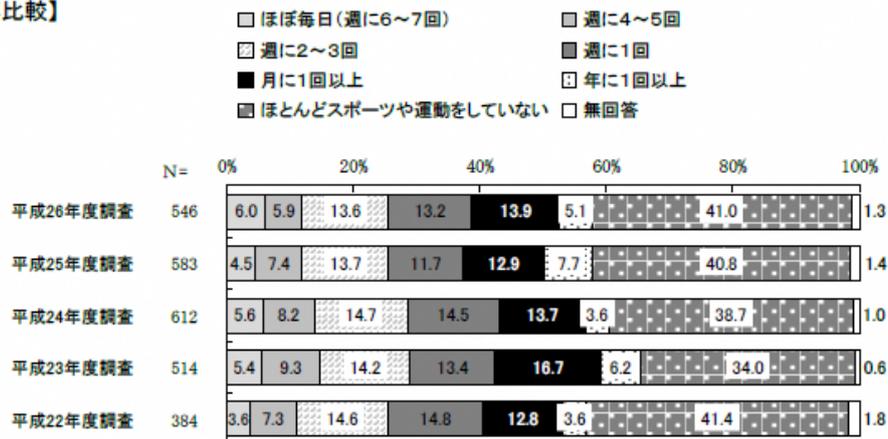
この1年間のスポーツや運動(1回あたり 30 分程度以上)の頻度は、「ほとんどスポーツや運動をしていない」の割合が41.0%と最も高く、次いで「月に1回以上」の割合が13.9%、「週に2～3回」の割合が13.6%などとなっている。

経年比較をすると、最近5年間で多少の増減はみられるが、ほぼ横ばいとなっている。

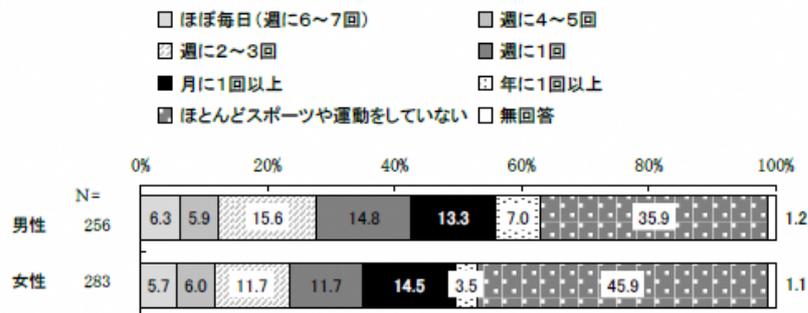
性別でみると、男性に比べ、女性で「ほとんどスポーツや運動をしていない」の割合が高くなっている。



【経年比較】



【性別】

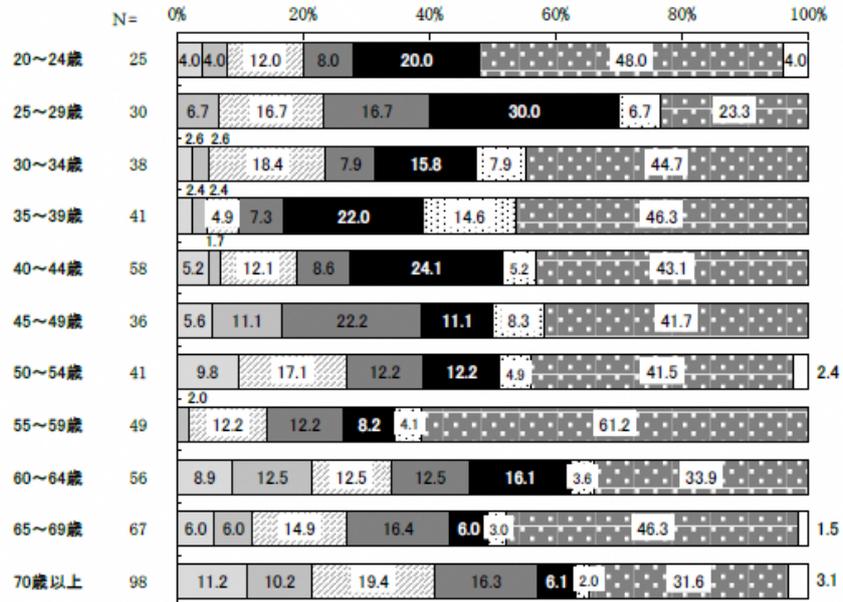


年代別でみると、他の年代に比べ、25～29歳で「月に1回以上」の割合が高く、3割となっている。また、55～59歳で「ほとんどスポーツや運動をしていない」の割合が高く、約6割となっている。

居住地区別でみると、他の地区に比べ、須山で「ほとんどスポーツや運動をしていない」の割合が高く、約6割となっている。

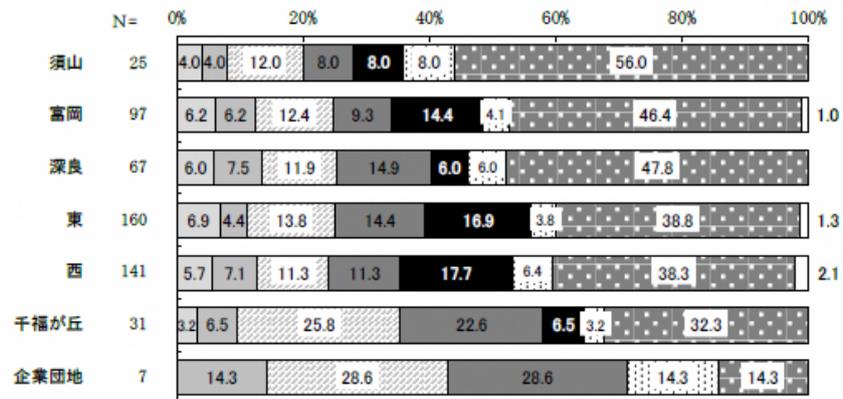
【年代別】

- ほぼ毎日(週に6~7回)
- 週に4~5回
- ▨ 週に2~3回
- ▩ 週に1回
- 月に1回以上
- ▤ 年に1回以上
- ほとんどスポーツや運動をしていない
- 無回答



【居住地区別】

- ほぼ毎日(週に6~7回)
- 週に4~5回
- ▨ 週に2~3回
- ▩ 週に1回
- 月に1回以上
- ▤ 年に1回以上
- ほとんどスポーツや運動をしていない
- 無回答



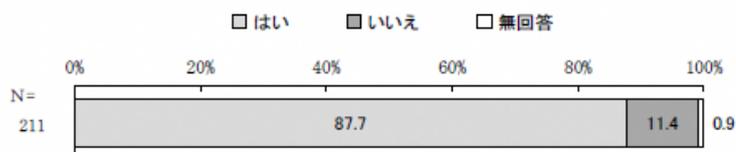
図表 10

問 10-1 問 10 で「1～4」を選んだ方にお聞きます。習慣的な運動によって、自分が健康を保つことができていると感じますか。(〇は1つ)

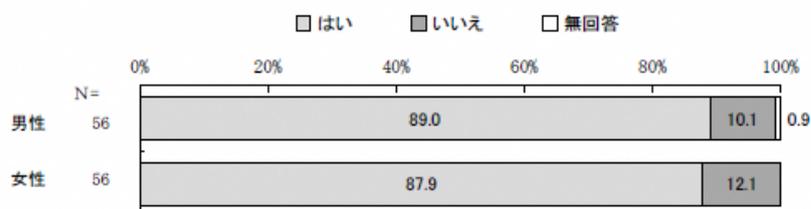
習慣的な運動で自分が健康を保つことができているかは、「はい」の割合が 87.7%、「いいえ」の割合が 11.4%となり、「はい」の割合の方が高くなっている。

性別でみると、大きな差異はみられない。

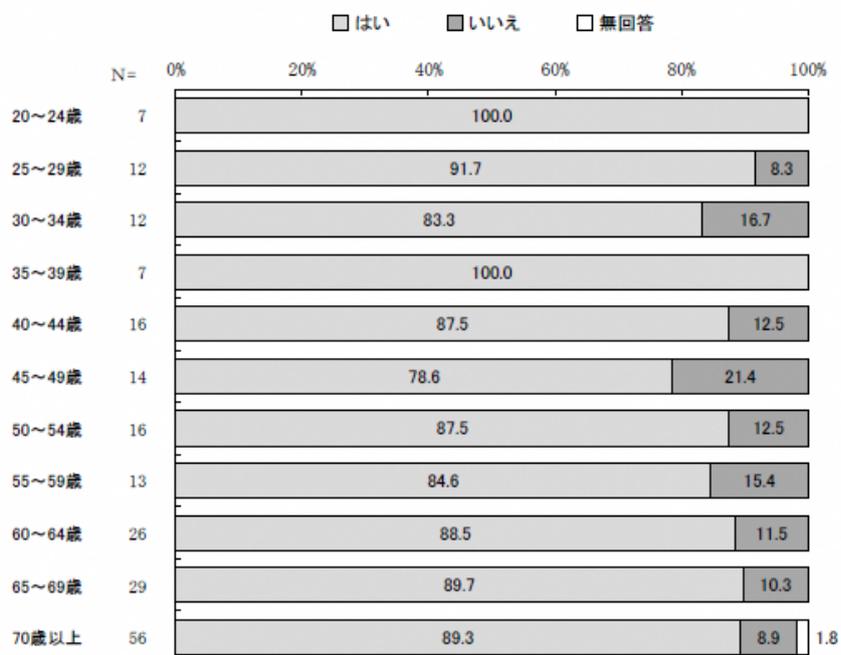
年代別でみると、他の年代に比べ、45～49 歳で「いいえ」の割合が高く、2 割以上となっている。



【性別】



【年代別】

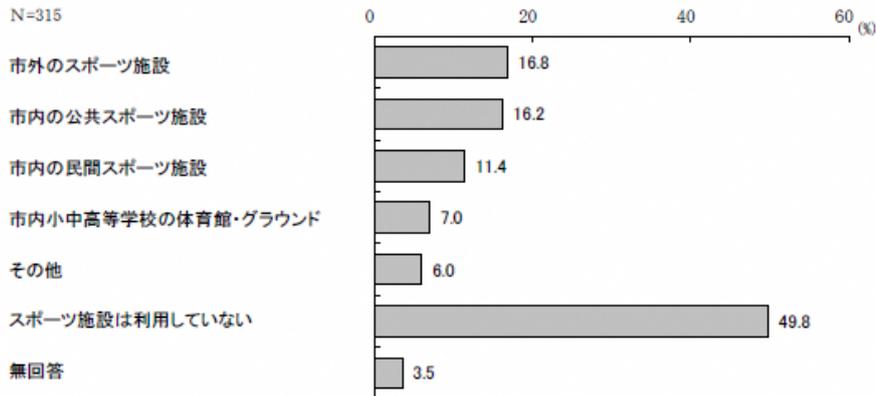


図表 11

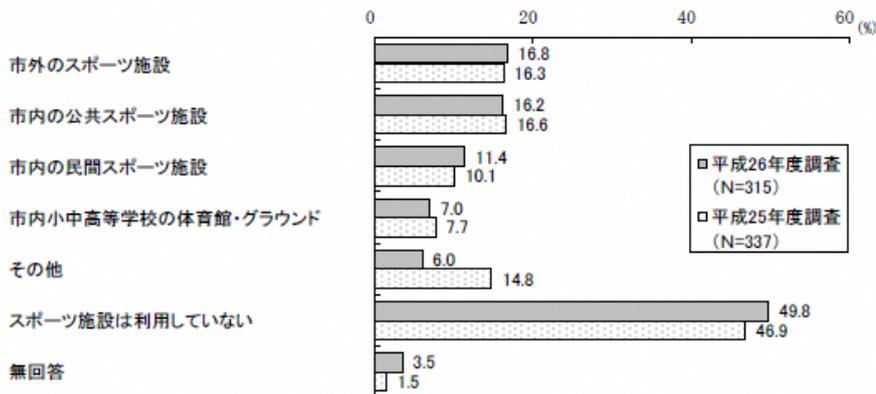
問 10-2 問 10 で「1～6」を選んだ方にお聞きます。ふだん利用するスポーツ施設は次のどれですか。(〇はいくつでも)

ふだん利用するスポーツ施設は、「スポーツ施設は利用していない」の割合が 49.8%と最も高く、次いで「市外のスポーツ施設」の割合が 16.8%、「市内の公共スポーツ施設」の割合が 16.2%などとなっている。

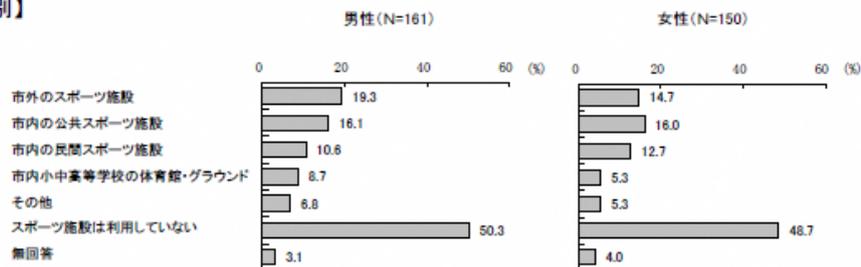
経年比較をすると、平成 25 年度調査から大きな増減はみられず、ほぼ横ばいとなっている。性別でみると、大きな差異はみられない。



【経年比較】

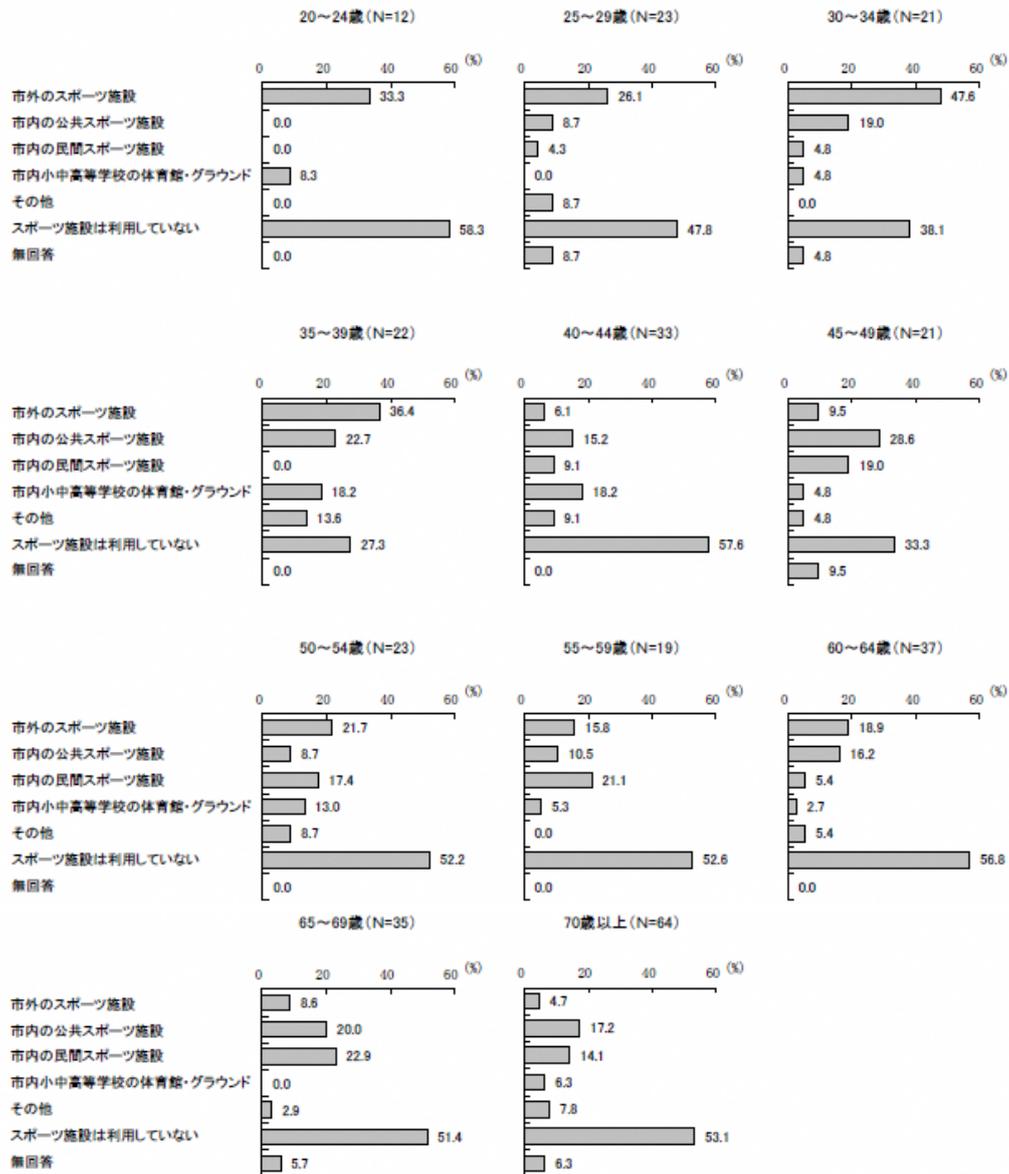


【性別】



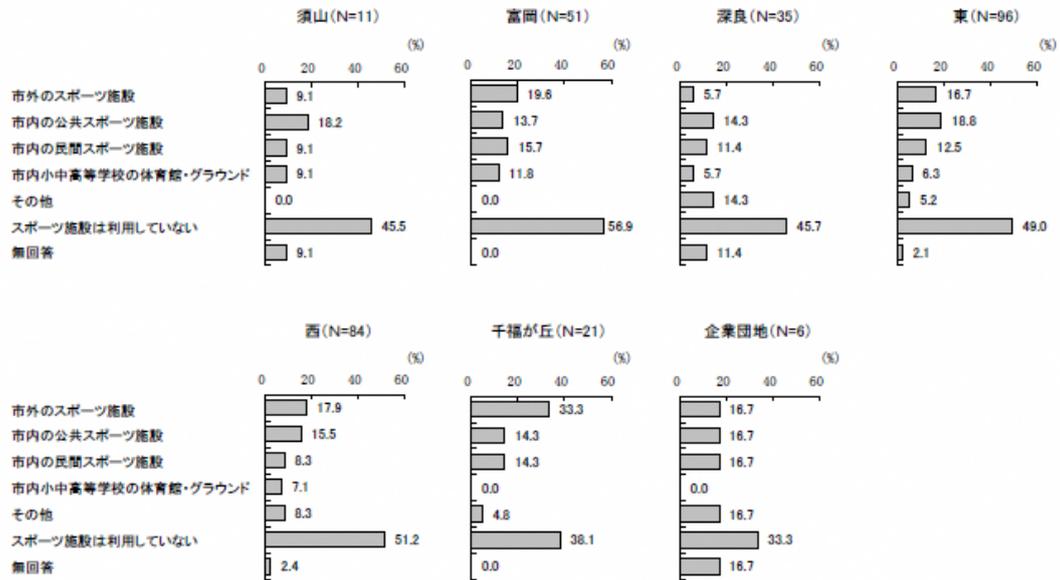
年代別でみると、他の年代に比べ、30～34歳、35～39歳で「市外のスポーツ施設」の割合が高くなっている。一方、35～39歳、45～49歳で「スポーツ施設は利用していない」の割合が低く、約3割となっている。

【年代別】



居住地区別でみると、他の地区に比べ、千福が丘で「市外のスポーツ施設」の割合が高く、約3割となっている。

【居住地区別】

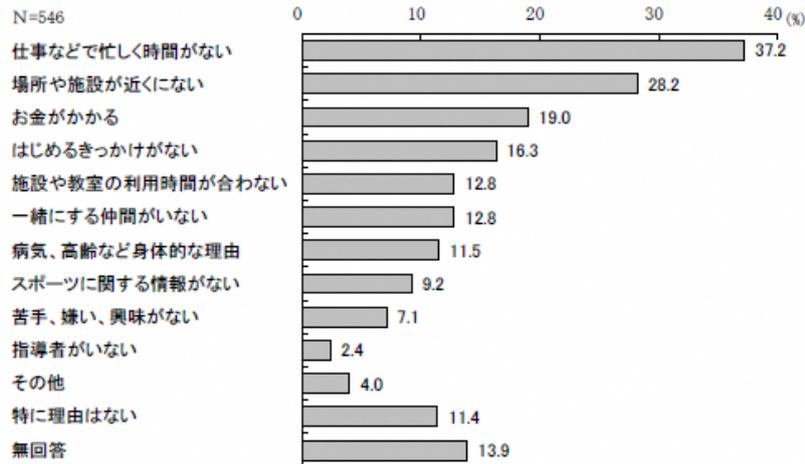


図表 12

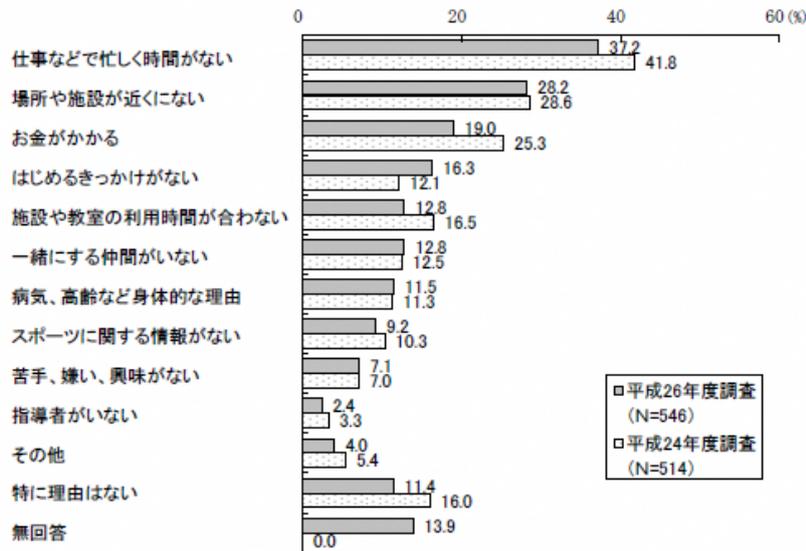
問11 スポーツや運動を頻繁に行うために、障害となっている理由はありますか。(〇はいくつでも)

スポーツや運動を頻繁に行うために障害となっている理由は、「仕事などで忙しく時間がない」の割合が37.2%と最も高く、次いで「場所や施設が近くにない」の割合が28.2%、「お金がかかる」の割合が19.0%などとなっている。

経年比較をすると、「お金がかかる」の割合が平成24年度調査からやや減少している。

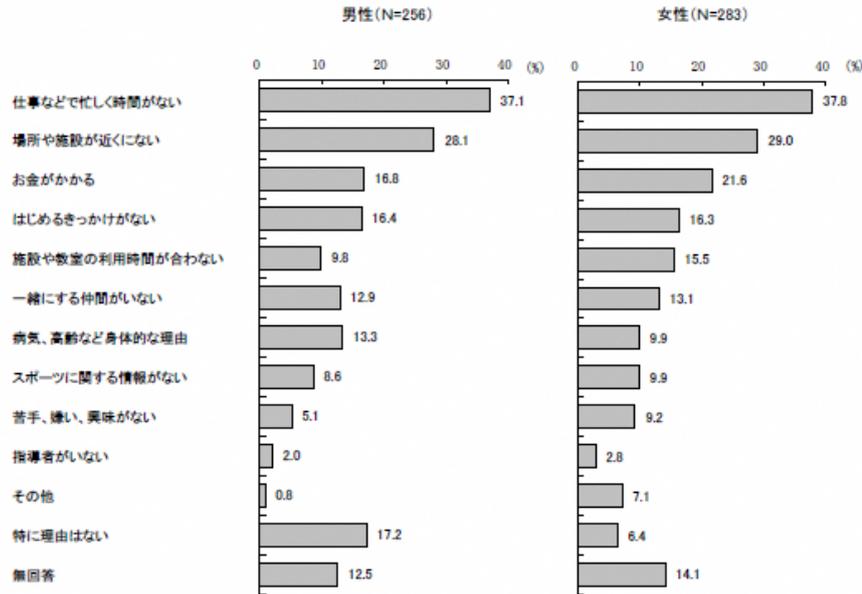


【経年比較】



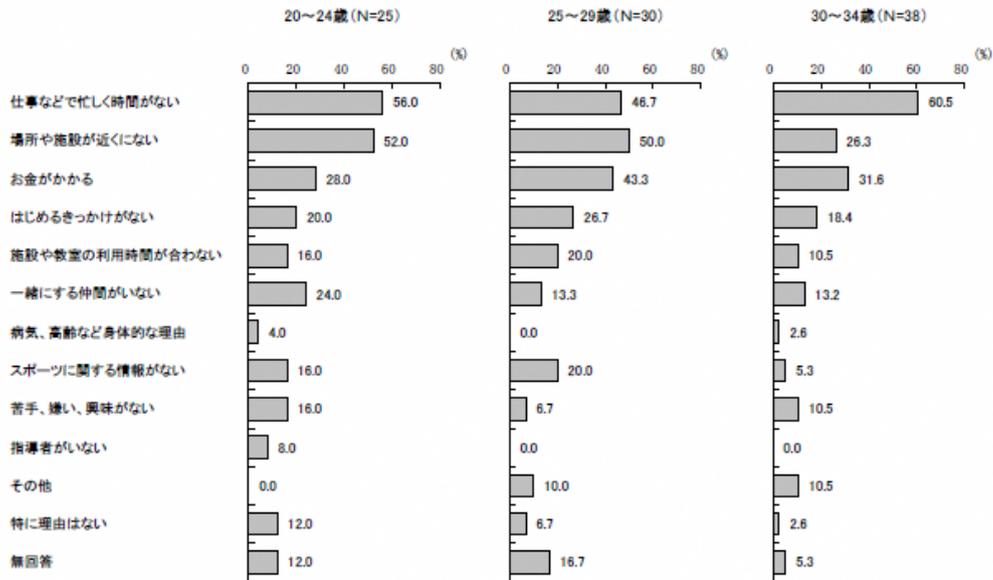
性別でみると、大きな差異はみられない。

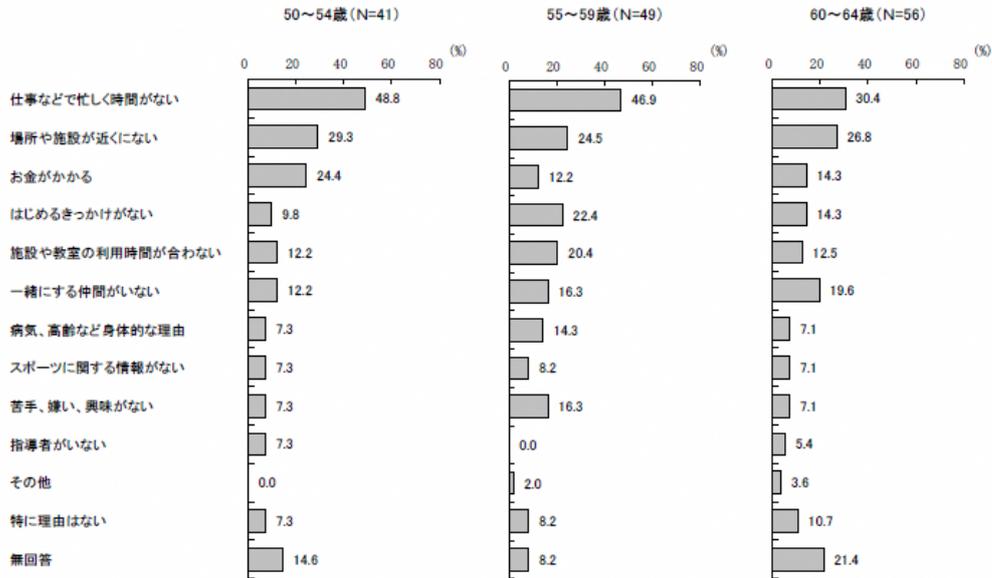
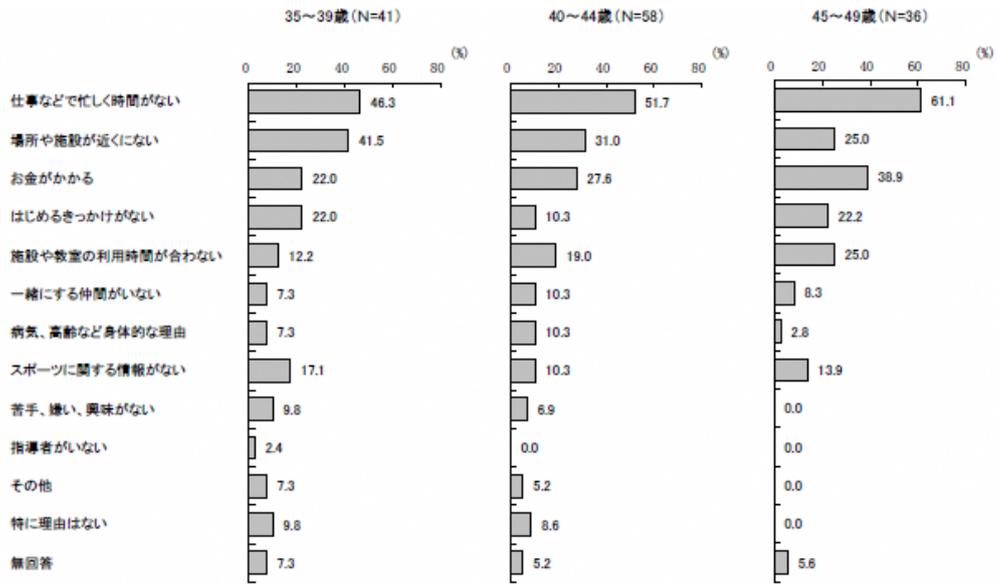
【性別】

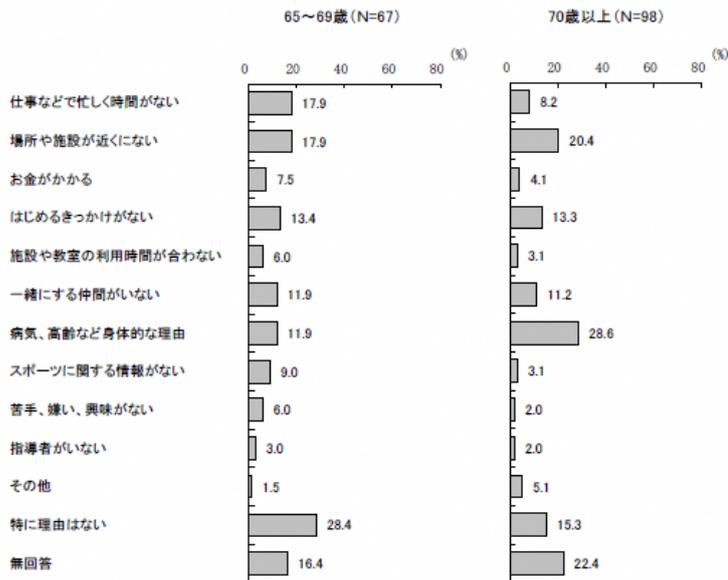


年代別でみると、他の年代に比べ、30～34歳、45～49歳で「仕事などで忙しく時間がない」の割合が高く、6割を超えている。また、20～24歳、25～29歳で「場所や施設が近くにない」の割合が高く、約5割となっている。

【年代別】

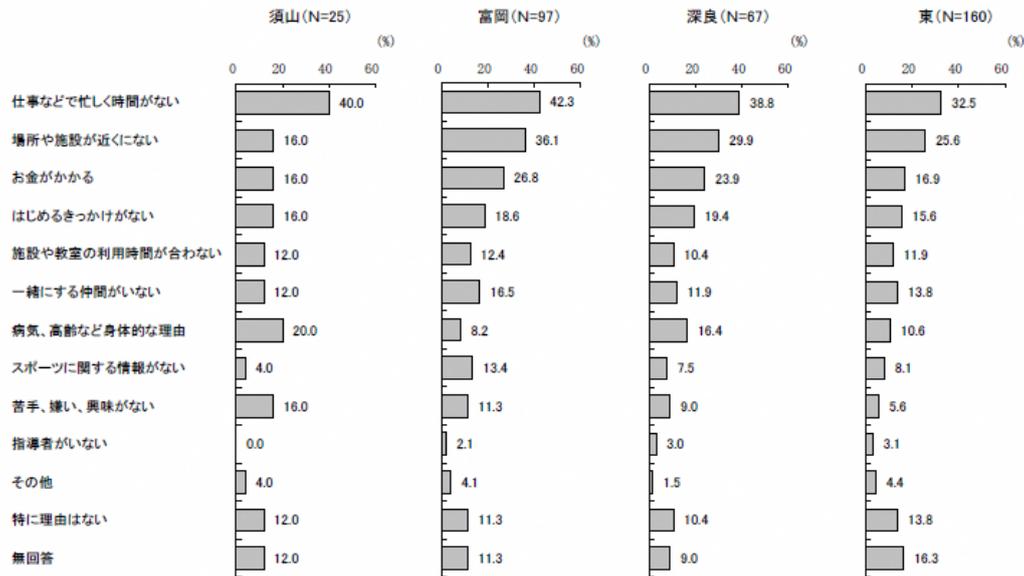


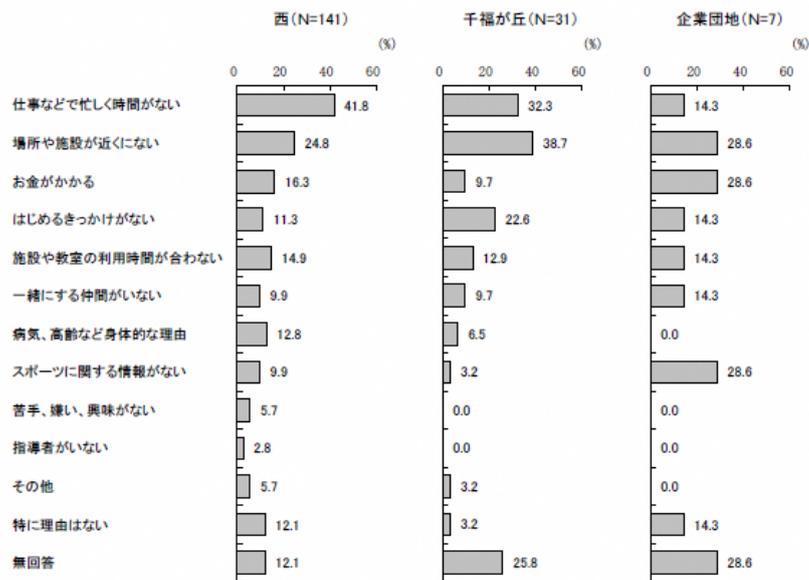




居住地区別で見ると、他の地区に比べ、富岡、千福が丘で「場所や施設が近くにない」の割合が高く、約4割となっている。

【居住地区別】





図表 13

3 平成26年度裾野市教育に関するアンケート抜粋

I 調査概要

1 調査の目的

本調査は、裾野市における明確な教育施策の中長期的ビジョンを示すための、裾野市教育振興基本計画の策定に向けた基礎資料とすることを目的とする。

2 調査設計

(1) 対象地域：裾野市全域

(2) 対象者

- ① 裾野市内の小学5年生および中学2年生（児童・生徒） 1,017人（悉皆調査）
- ② ①の保護者 1,017人（悉皆調査）
- ③ 裾野市在住の20歳以上の男女（一般市民） 800人（標本調査）

(3) 調査期間

- ① 平成26年7月1日～7月4日
- ② 平成26年7月1日～7月4日
- ③ 平成26年7月24日～8月7日

(4) 調査方法：

- ① 学校配布・学校回収
- ② 学校配布・学校回収
- ③ 郵送配布・郵送回収（お礼兼督促状 1回送付）

3 調査内容

①児童・生徒

- ・回答者の属性
- ・学校生活について
- ・地域の歴史や文化について
- ・読書について
- ・普段の生活について
- ・食について
- ・近所の人との交流について
- ・学校以外の行事や活動について

②保護者

- ・回答者の属性
- ・お子さんについて
- ・子どもの教育について

③一般市民

- ・回答者の属性
- ・学習活動について
- ・文化財や文化施設について
- ・裾野市の子どもたちについて
- ・裾野市の教育施策や教育事業について

4 回収状況

		対象者数	有効回収数	有効回収率
児童・生徒	小学生	502	479	95.4%
	中学生	515	477	92.6%
保護者	小学生保護者	502	420	83.7%
	中学生保護者	515	466	90.5%
一般市民		800	357	44.6%

図表 14

5 注意事項

※回答は各質問の回答者数（n）を奇数とした百分率（%）で示してある。

※百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため百分率の合計が 100%にならないことがある。

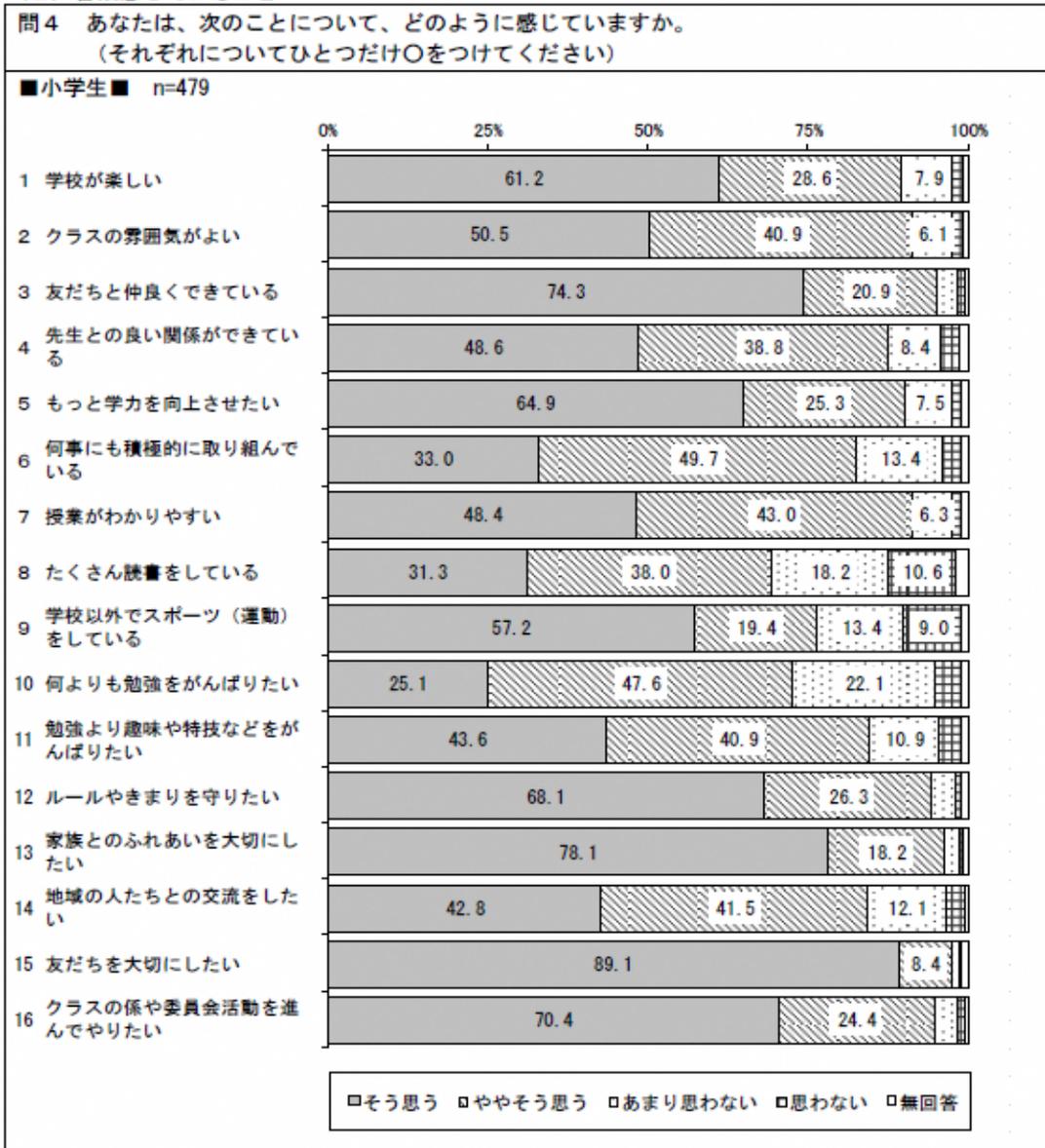
※1つの質問に2つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が 100%を超える場合がある。

※帯グラフでは5%未満は表記していない。

※一部設問、選択肢の文言を省略している箇所がある。

2 学校生活について

(2) 普段感じていること

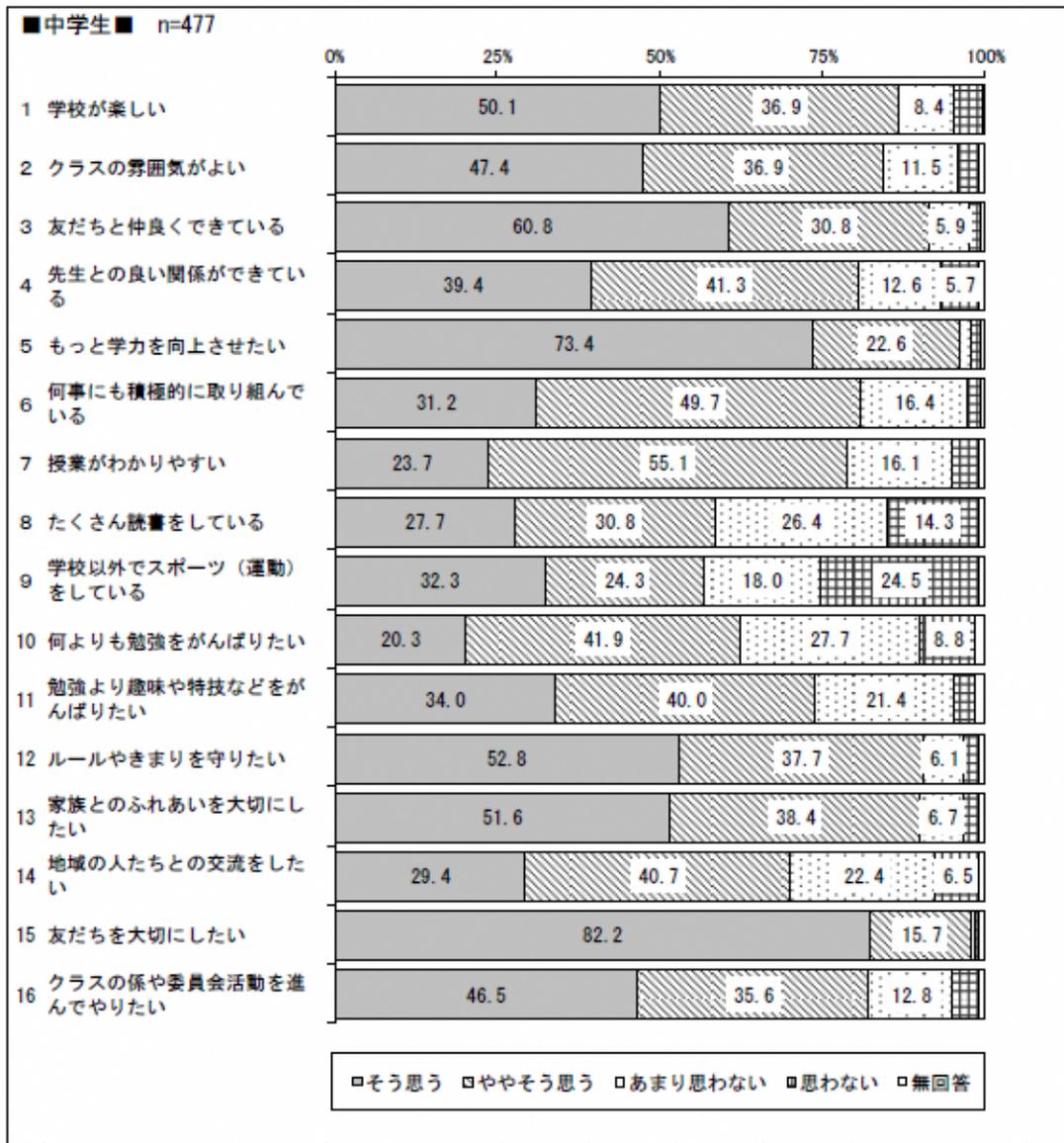


【小学生】

普段感じていることで、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』が多い項目は、“15 友だちを大切にしたい”(97.5%)、“13 家族とのふれあいを大切にしたい”(96.3%)、“3 友だちと仲良くできている”(95.2%)であり、いずれも9割台後半となっている。

他方、『そう思う』が少ない項目は、“8 たくさん読書をしている”(69.3%)、“10 何よりも勉強をがんばりたい”(72.7%)、“9 学校以外でスポーツ(運動)をしている”(76.6%)となっている。

図表 15



【中学生】

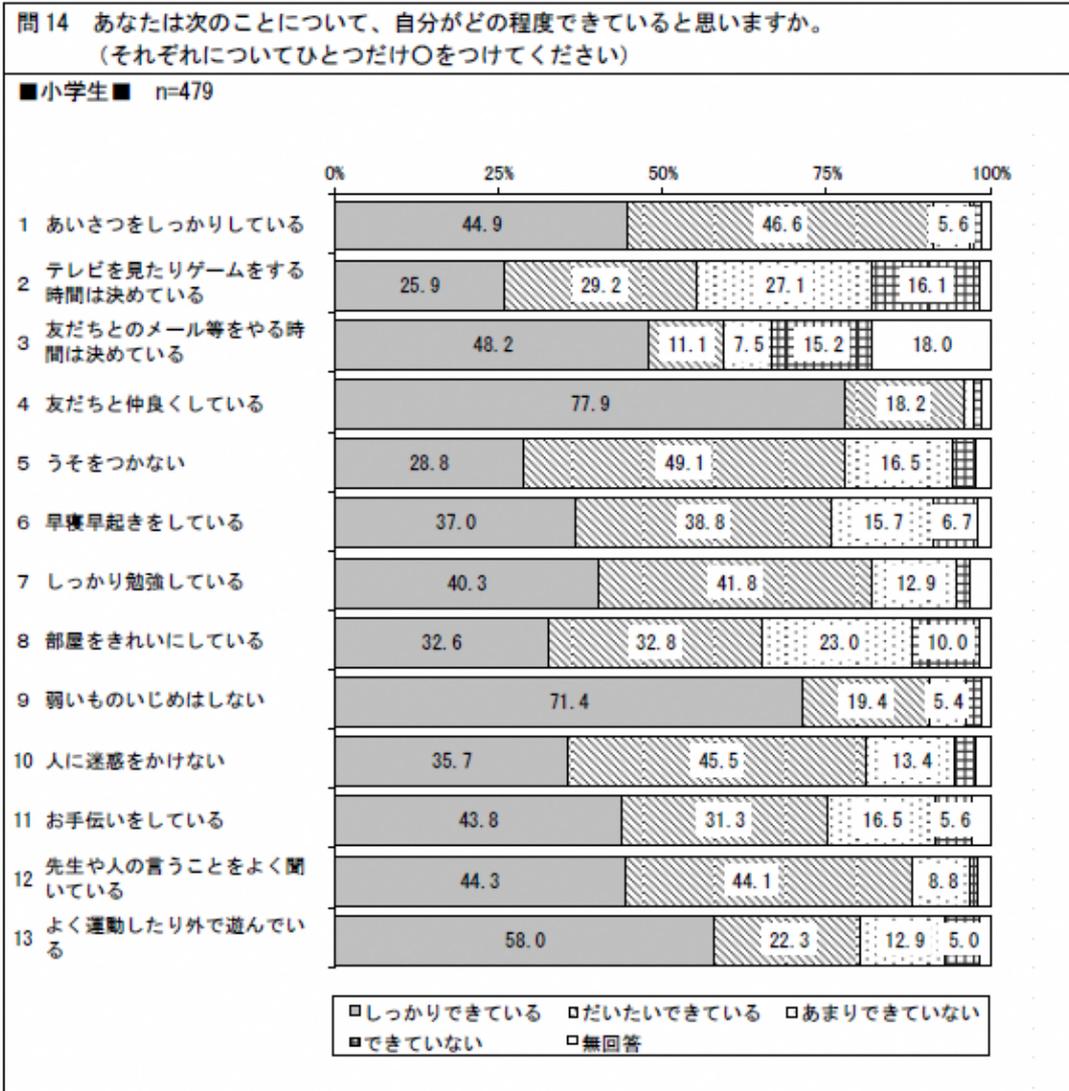
普段感じていることで、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』が多い項目は、「15 友だちを大切にしたい」（97.9%）、「5 もっと学力を向上させたい」（96.0%）、「3 友だちと仲良くできている」（91.6%）、「12 ルールやきまりを守りたい」（90.5%）、「13 家族とのふれあいを大切にしたい」（90.0%）であり、いずれも9割台となっている。

他方、『そう思う』が少ない項目は、「9 学校以外でスポーツ（運動）をしている」（56.6%）、「8 たくさん読書をしている」（58.5%）、「10 何よりも勉強をがんばりたい」（62.2%）となっている。

図表 16

5 普段の生活について

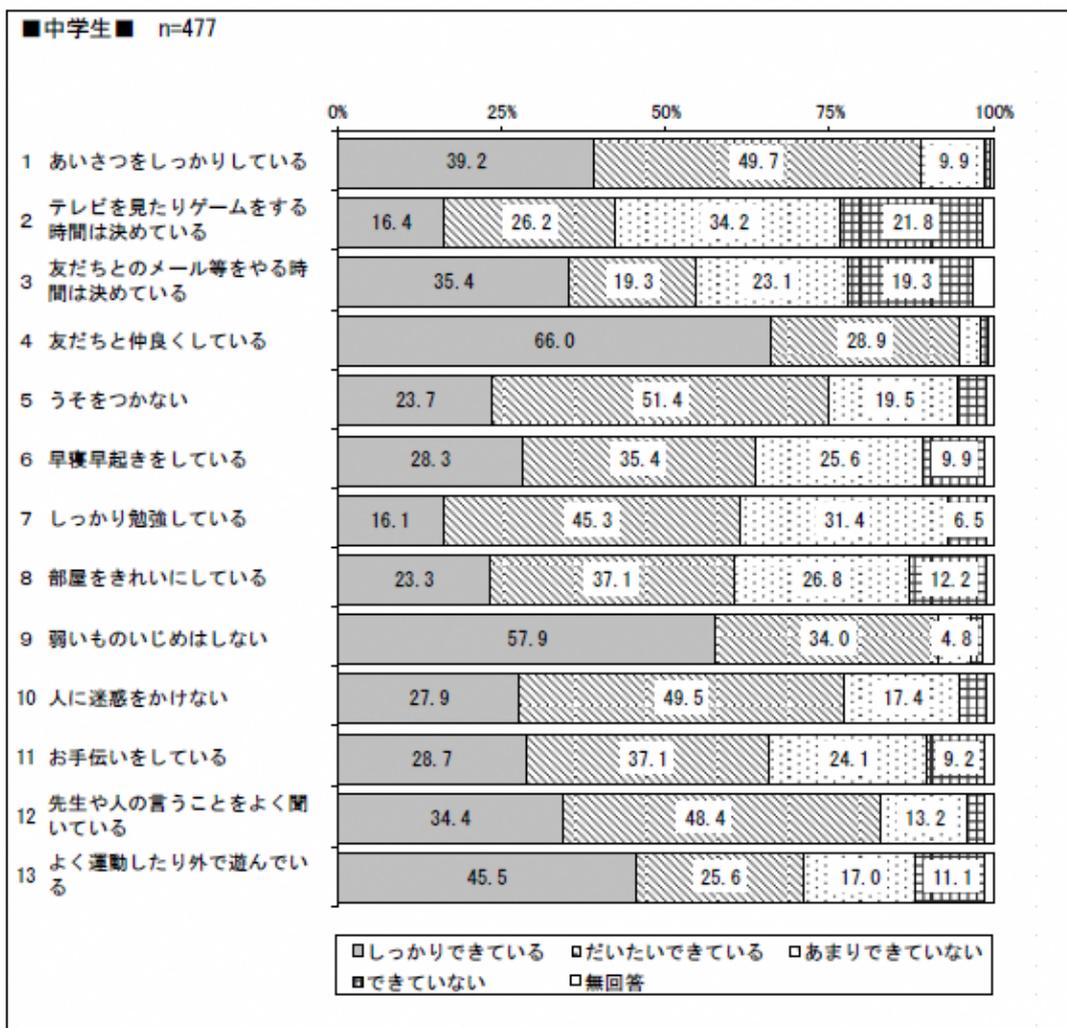
(1) できていること



【小学生】

できていることで、「しっかりできている」と「だいたいできている」を合わせた『できている』が多い項目は、“4 友だちと仲良くしている” (96.1%) が9割台半ばと最も多くなっている。次いで、“1 あいさつをしっかりしている” (91.5%)、“9 弱いものいじめはしない” (90.8%)、“12 先生や人の言うことをよく聞いている” (88.4%) となっている。

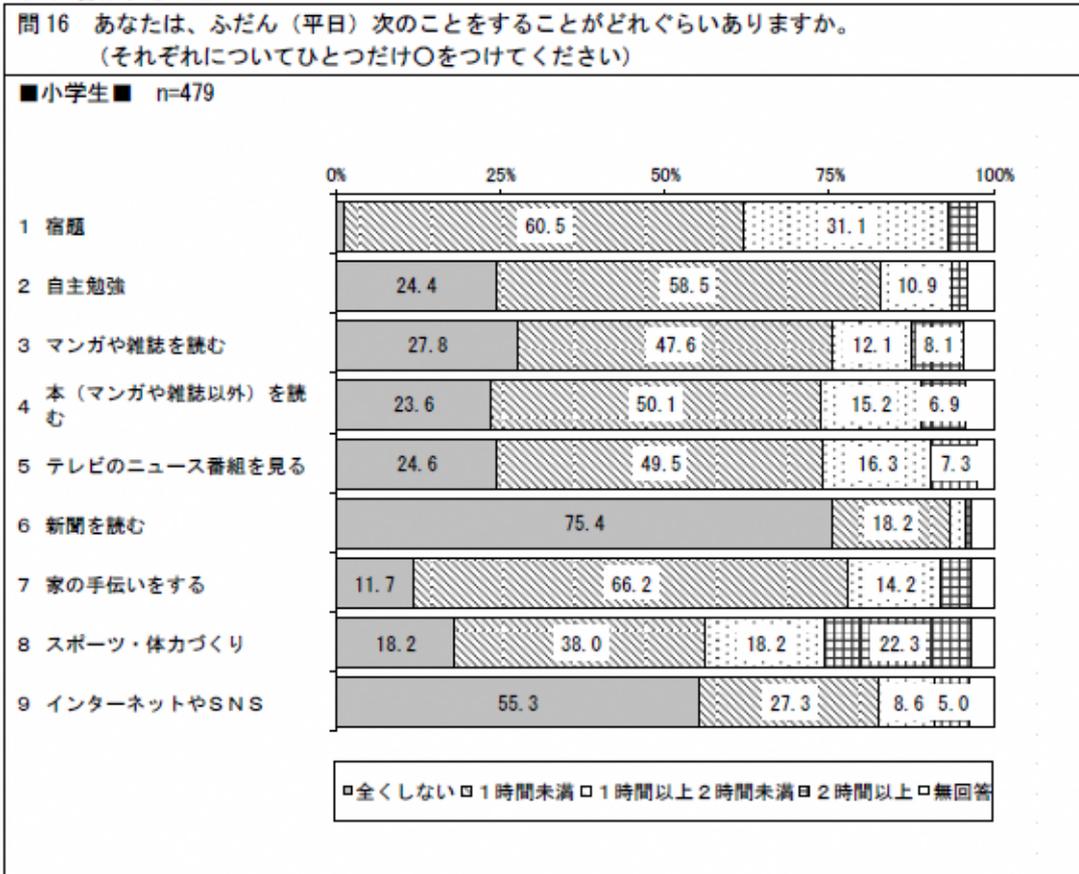
図表 17



【中学生】
 できていることで、「しっかりできている」と「だいたいできている」を合わせた『できている』が多い項目は、“4 友だちと仲良くしている” (94.9%)、“9 弱いものいじめはしない” (91.9%)、“1 あいさつをしっかりしている” (88.9%) となっている。

図表 18

(3) 普段すること



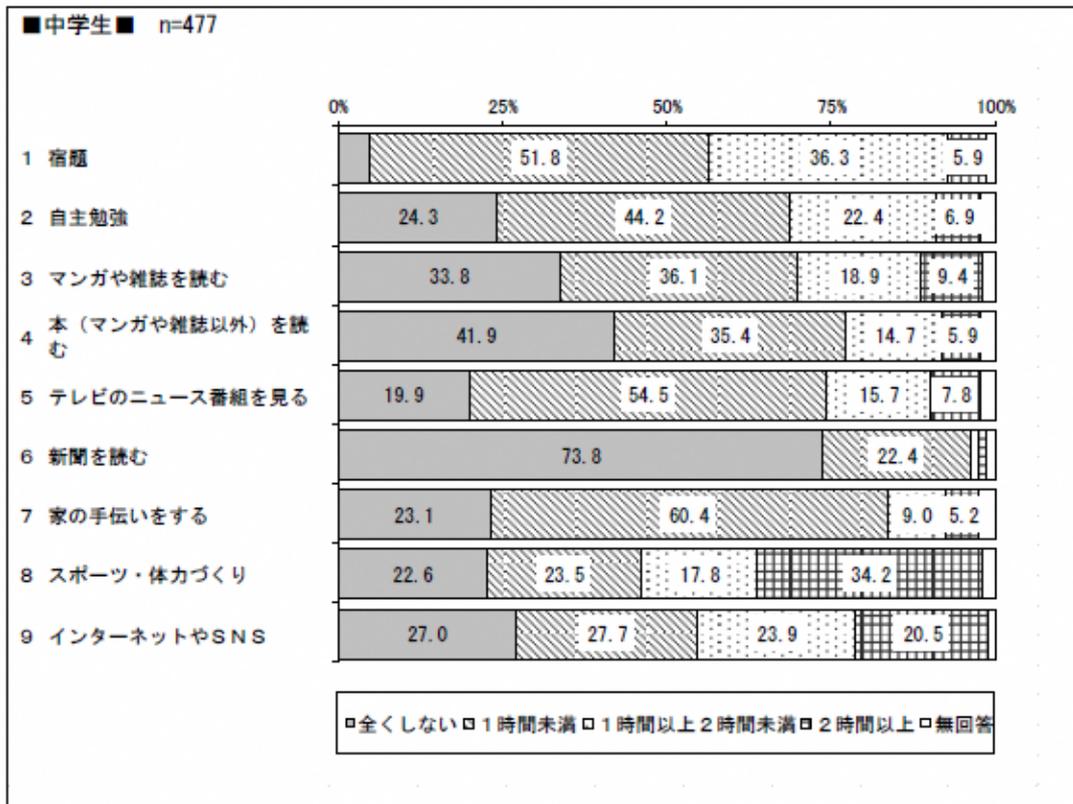
【小学生】

普段することで、「2時間以上」が多い項目は、「8 スポーツ・体力づくり」（22.3%）となっている。

「1時間未満」が多い項目は、「7 家の手伝いをする」（66.2%）、「1 宿題」（60.5%）、「2 自主勉強」（58.5%）、「4 本（マンガや雑誌以外）を読む」（50.1%）、となっている。

「全くしない」が多い項目は、「6 新聞を読む」（75.4%）、「9 インターネットやSNS」（55.3%）となっている。

図表 19



【中学生】

普段することで、「2時間以上」が多い項目は、「8 スポーツ・体力づくり」(34.2%)、「9 インターネットやSNS」(20.5%)となっている。

「1時間未満」が多い項目は、「7 家の手伝いをする」(60.4%)、「5 テレビのニュース番組を見る」(54.5%)、「1 宿題」(51.8%)、となっている。

「全くしない」が多い項目は、「6 新聞を読む」(73.8%)が7割台半ばとなっている。

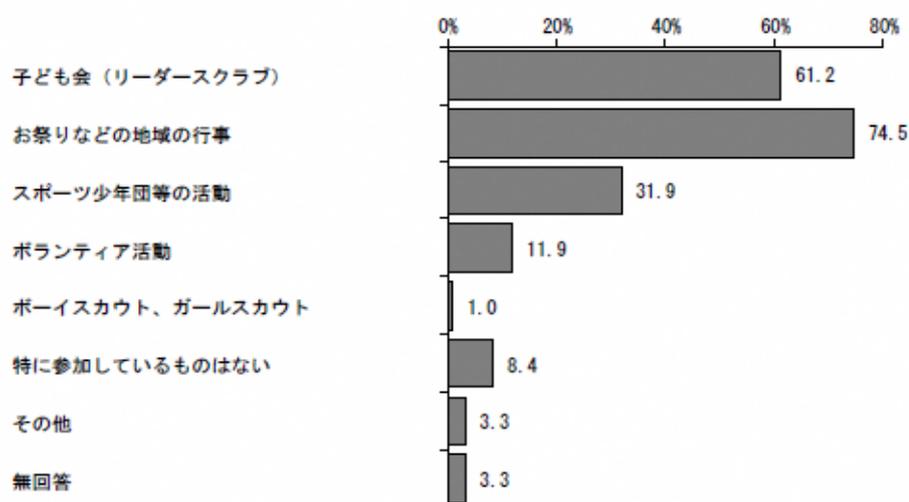
図表 20

8 学校以外の行事や活動について

(1) 参加したことがある学校以外の行事や活動

問 21 あなたは学校以外の行事や活動に参加していますか。
(あてはまるものにすべて○を付けてください)

■小学生 ■ n=479

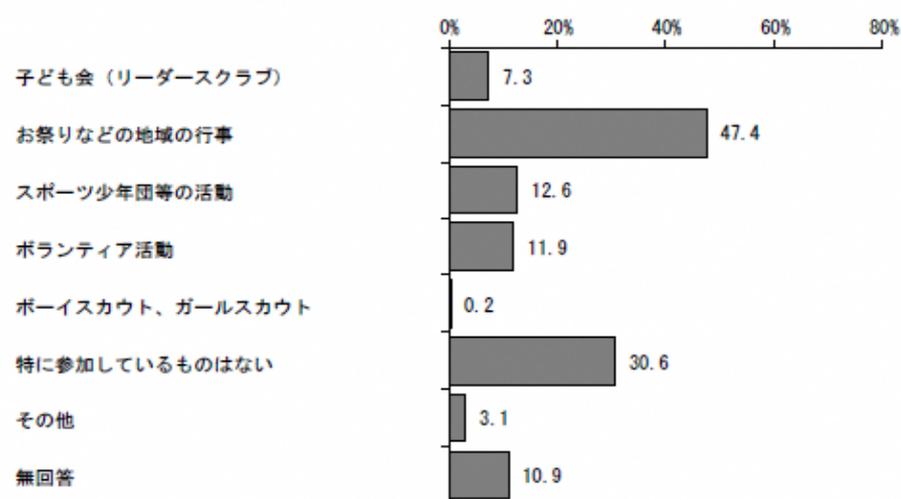


【小学生】

参加したことがある学校以外の行事や活動は、「お祭りなどの地域の行事」(74.5%)が7割台半ばと最も多くなっている。次いで、「子ども会 (リーダーズクラブ)」(61.2%)、「スポーツ少年団等の活動」(31.9%)となっている。

図表 21

■中学生 ■ n=477



【中学生】

参加したことがある学校以外の行事や活動は、「お祭りなどの地域の行事」(47.4%)が約5割と最も多くなっている。他方で、「特に参加しているものはない」(30.6%)が次いで多くなっている。

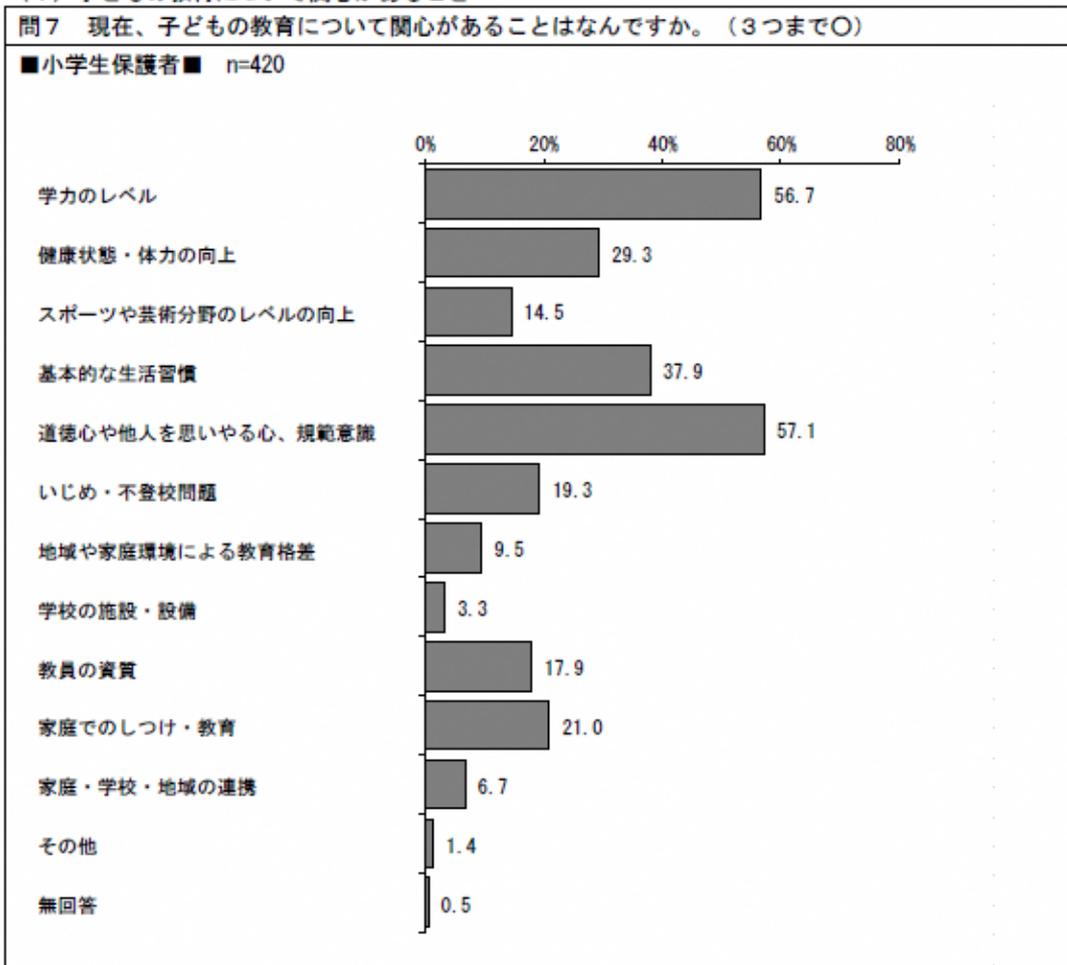
図表 22

Ⅱ 調査結果

< ii 保護者編 >

3 子どもの教育について

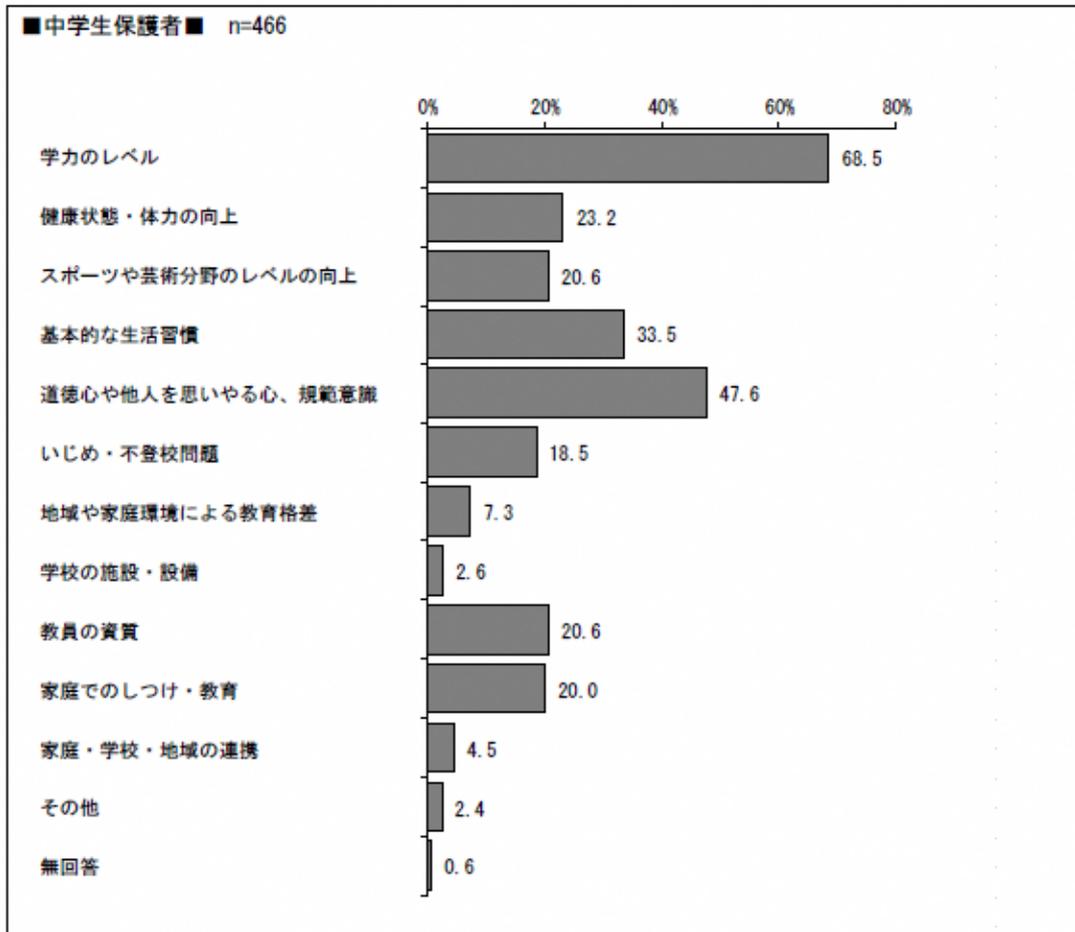
(1) 子どもの教育について関心があること



【小学生保護者】

子どもの教育について関心があることは、「道徳心や他人を思いやる心、規範意識」(57.1%)、「学力のレベル」(56.7%)が5割台と多くなっている。

図表 23



【中学生保護者】

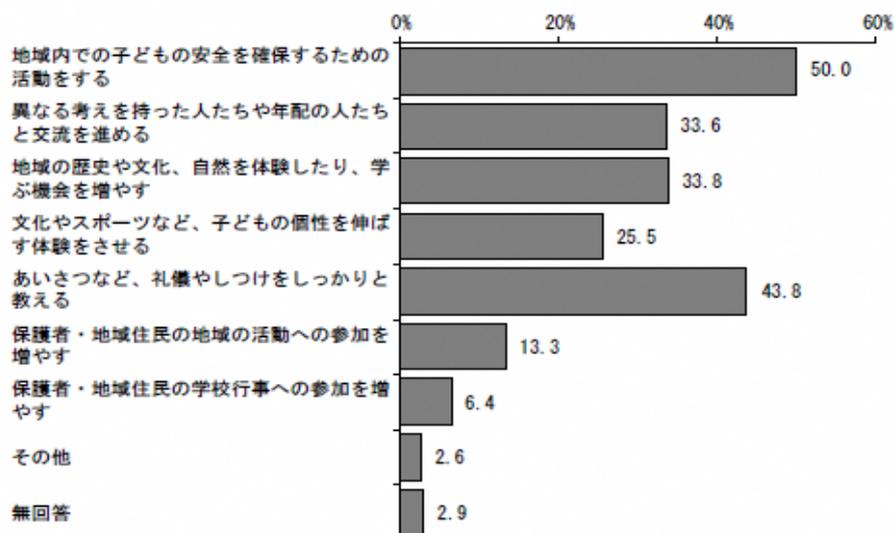
子どもの教育について関心があることは、「学力のレベル」(68.5%)が約7割と最も多くなっている。次いで、「道徳心や他人を思いやる心、規範意識」(47.6%)、「基本的な生活習慣」(33.5%)となっている。

図表 24

(7) 育児をするうえで地域で力を入れるべきこと

問13 子どもを育てるうえで、地域で力を入れるべきことはどんなことだと思いますか。
(3つまで〇)

■小学生保護者 ■ n=420

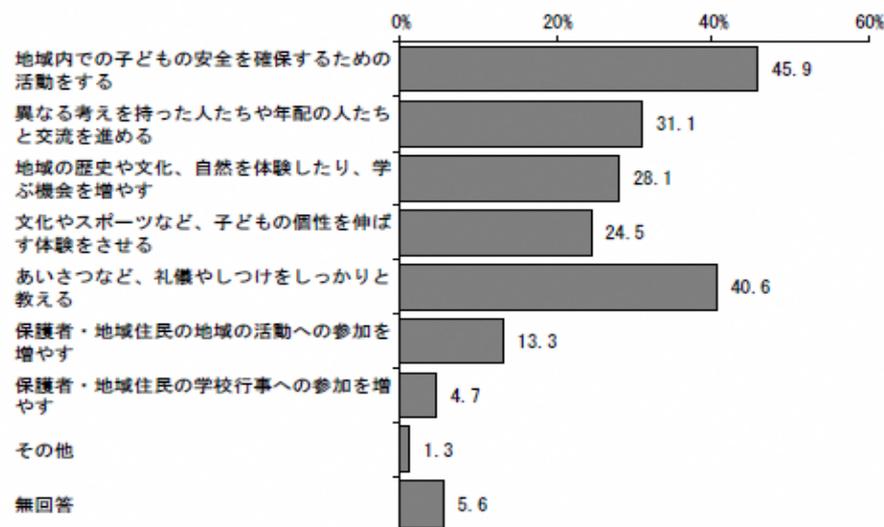


【小学生保護者】

育児をするうえで地域で力を入れるべきことは、「地域内での子どもの安全を確保するための活動をする」(50.0%)が5割と最も多く、次いで、「あいさつなど、礼儀やしつけをしっかりと教える」(43.8%)となっている。

図表 25

■中学生保護者 ■ n=466



【中学生保護者】

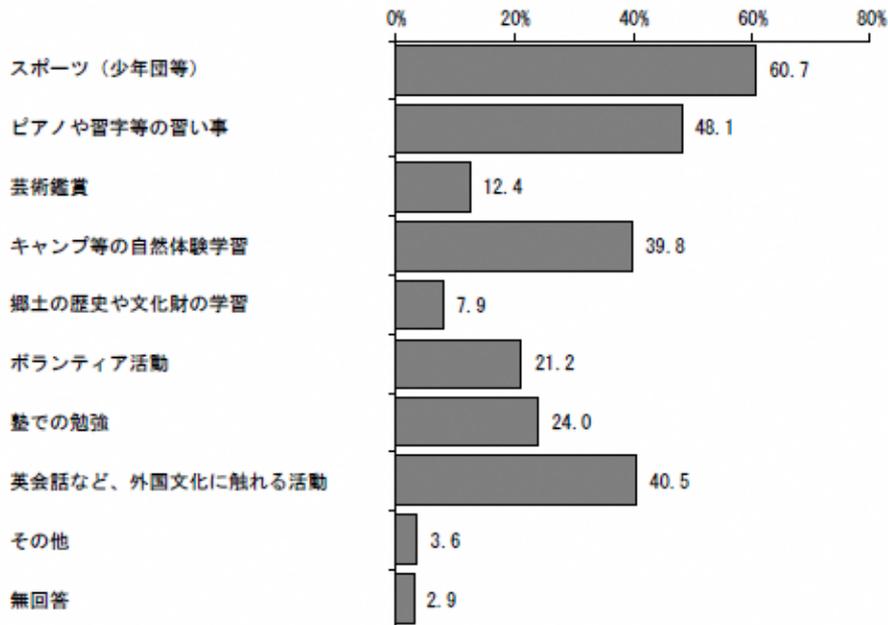
育児をするうえで地域で力を入れるべきことは、「地域内での子どもの安全を確保するための活動をする」(45.9%)が4割台半ばと最も多く、次いで、「あいさつなど、礼儀やしつけをしっかりと教える」(40.6%)となっている。

図表 26

(12) 学校以外で子どもたちにやらせたい（やっている）こと

問18 学校以外で、子どもたちにやらせたい（やっている）ことはありますか。
（当てはまるものすべてに○）

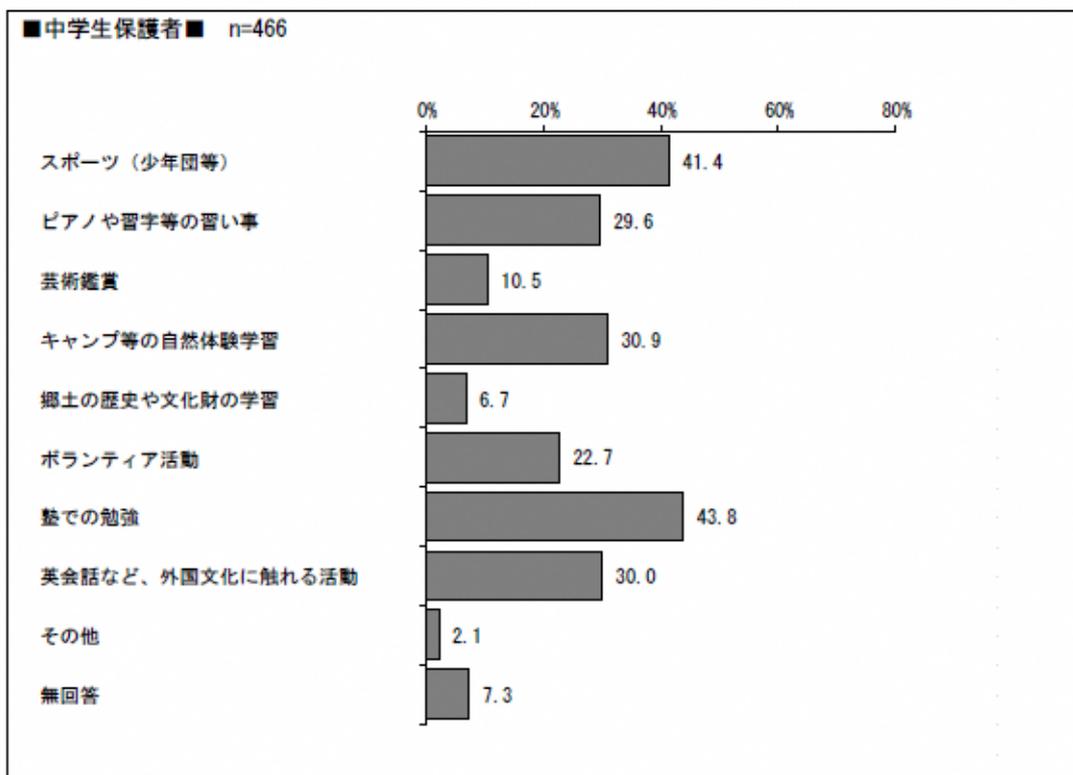
■小学生保護者 ■ n=420



【小学生保護者】

学校以外で子どもたちにやらせたい（やっている）ことは、「スポーツ（少年団等）」（60.7%）が約6割と最も多くなっている。次いで「ピアノや習字等の習い事」（48.1%）、「英会話など、外国文化に触れる活動」（40.5%）、「キャンプ等の自然体験学習」（39.8%）となっている。

図表 27



【中学生保護者】

学校以外で子どもたちにやらせたい（やっている）ことは、「塾での勉強」（43.8%）、「スポーツ（少年団等）」（41.1%）が4割台と多くなっている。「キャンプ等の自然体験学習」（30.9%）、「英会話など、外国文化に触れる活動」（30.0%）、「ピアノや習字等の習い事」（29.6%）は、3割前後となっている。

図表 28

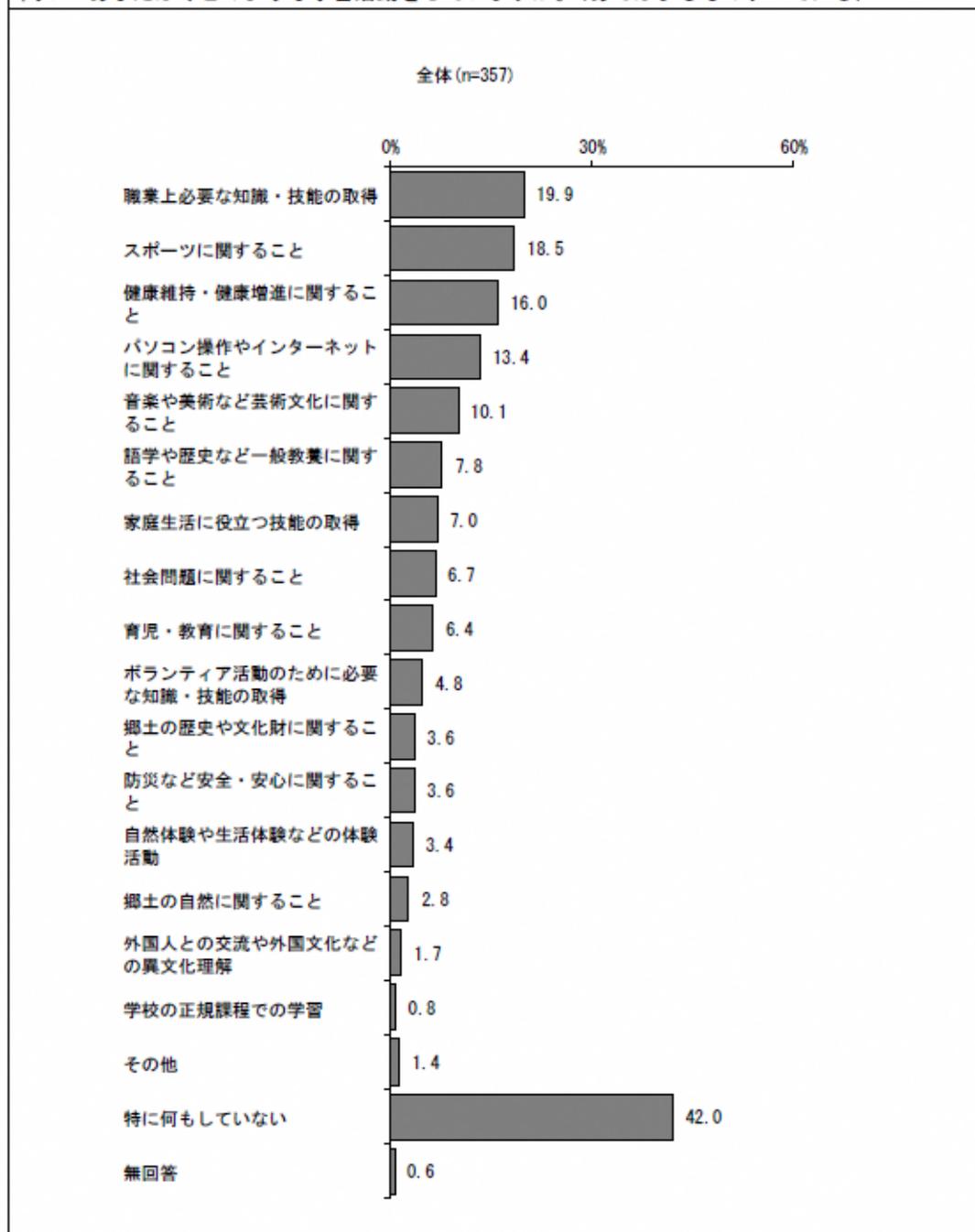
Ⅱ 調査結果

< iii 一般市民編 >

2 学習活動について

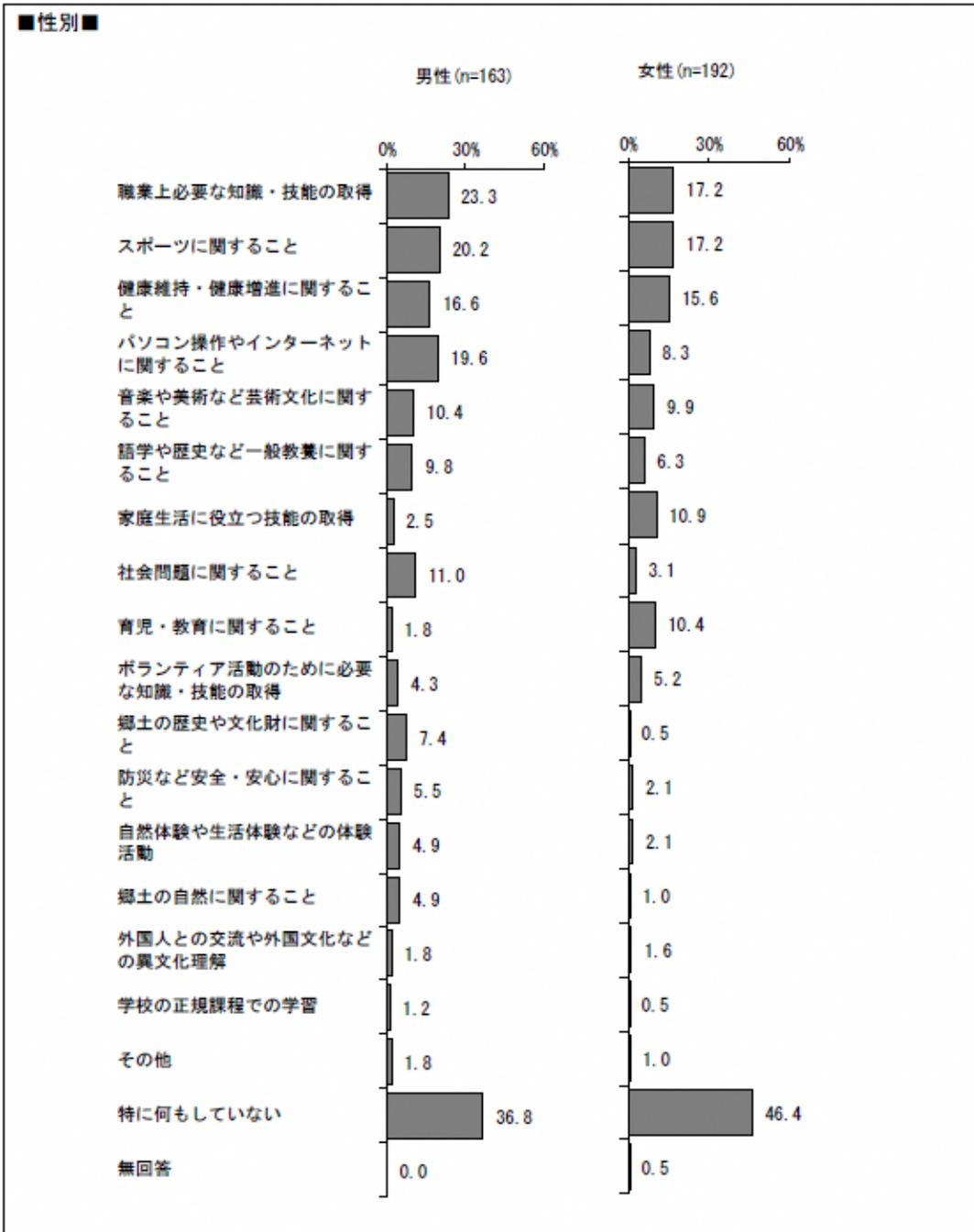
(1) 現在行っている学習活動

問5 あなたは今どのような学習活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)



【全体】

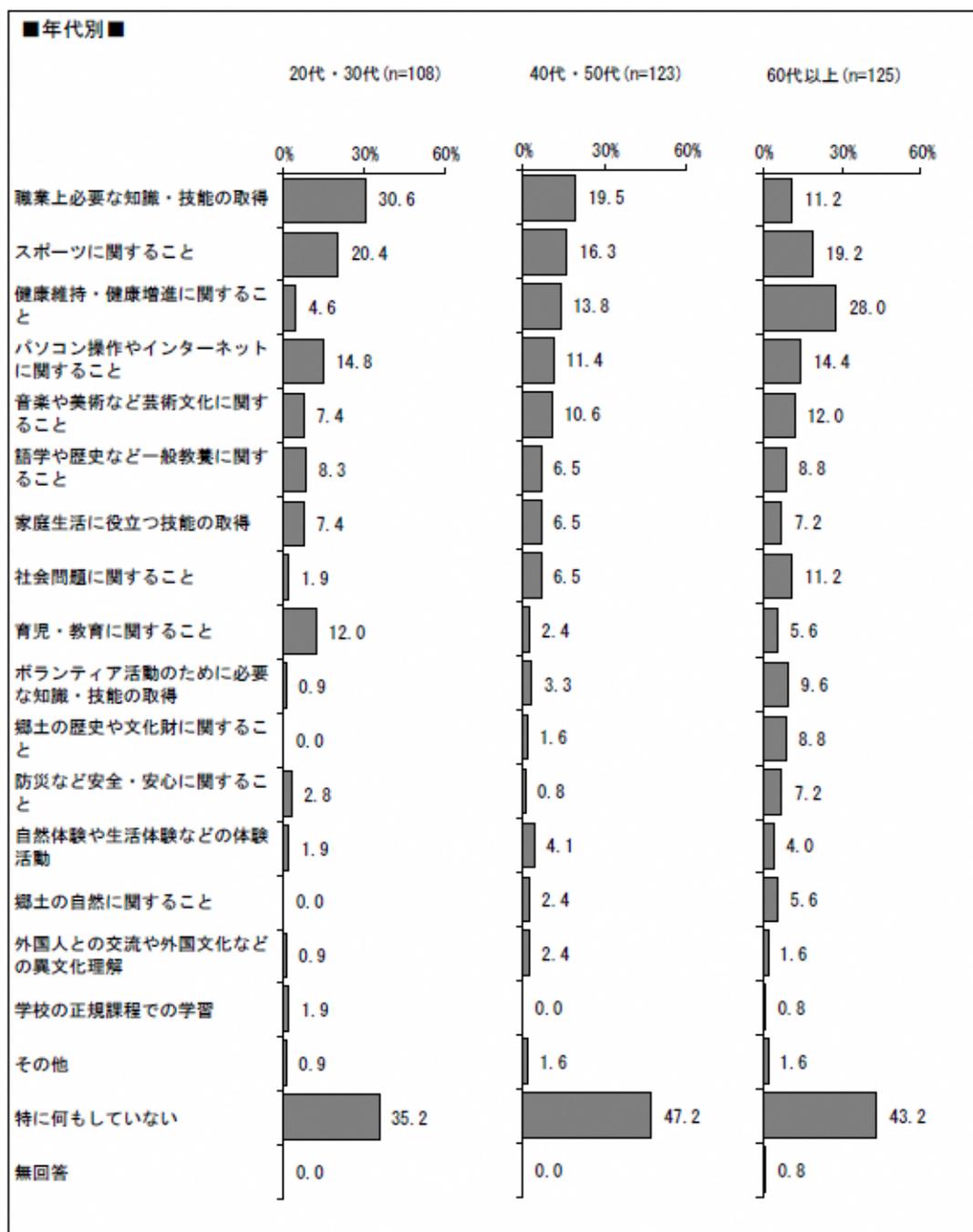
現在行っている学習活動は、「職業上必要な知識・技能の取得」(19.9%)、「スポーツに関すること」(18.5%)、「健康維持・健康増進に関すること」(16.0%)、「パソコン操作やインターネットに関すること」(13.4%)、「音楽や美術など芸術文化に関すること」(10.1%)が1割以上となっている。他方で、「特に何もしていない」(42.0%)が4割を超えて多くなっている。



【性別】

男性は、「職業上必要な知識・技能の取得」(23.3%)、「スポーツに関すること」(20.2%)、「パソコン操作やインターネットに関すること」(19.6%)、「健康維持・健康増進に関すること」(16.6%)となっている一方、「特に何もしていない」(36.8%)が3割台半ばと多くなっている。

女性は、「職業上必要な知識・技能の取得」(17.2%)、「スポーツに関すること」(17.2%)、「健康維持・健康増進に関すること」(15.6%)となっている一方、「特に何もしていない」(46.4%)が4割台半ばと多くなっている。



【年代別】

20代・30代は、「職業上必要な知識・技能の取得」(30.6%)、「スポーツに関すること」(20.4%)が多くなっている一方、「特に何もしていない」(35.2%)となっている。

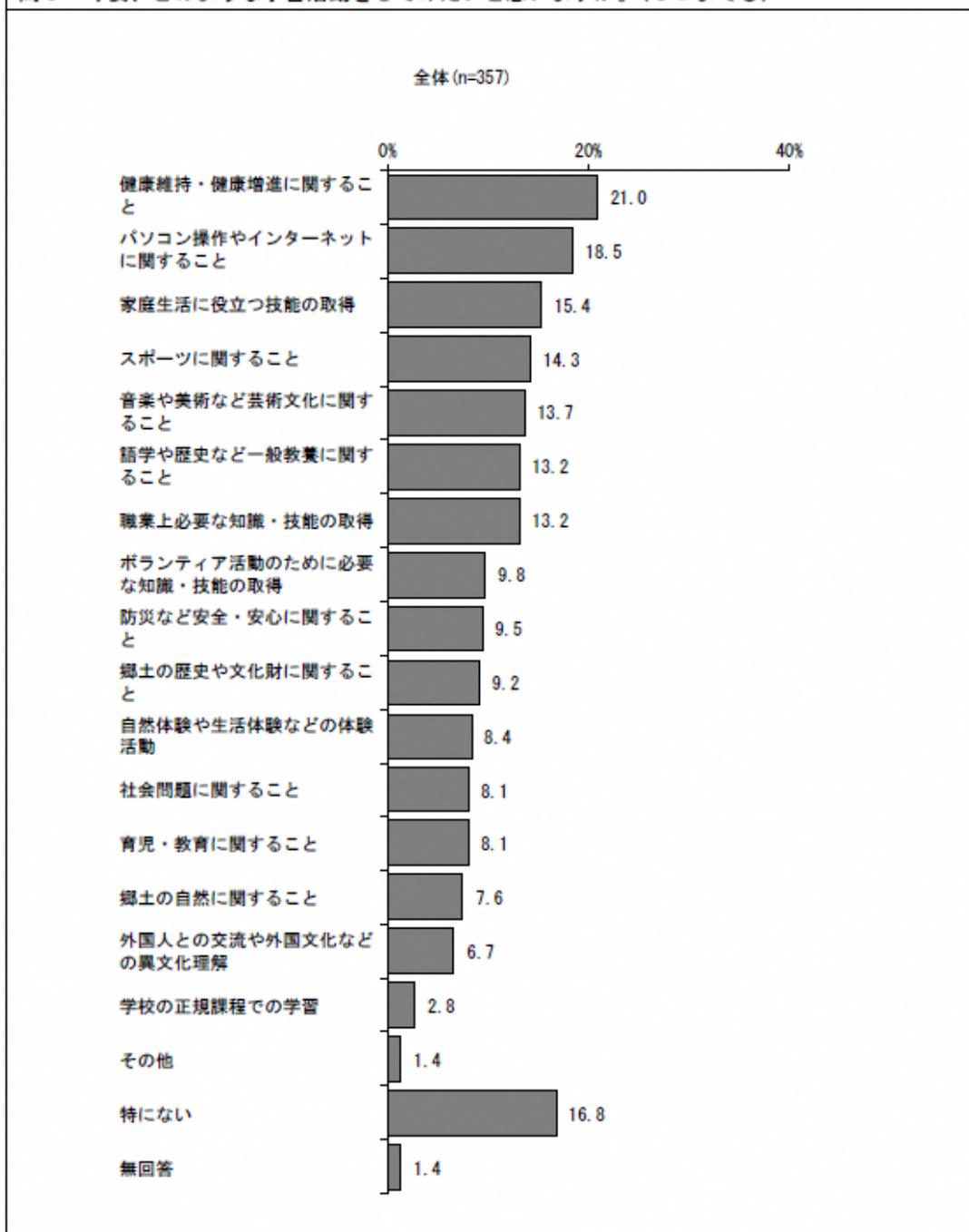
40代・50代は、「職業上必要な知識・技能の取得」(19.5%)、「スポーツに関すること」(16.3%)が多くなっている一方、「特に何もしていない」(47.2%)が約5割と多くなっている。

60代以上は、「健康維持・健康増進に関すること」(28.0%)が多くなっている一方、「特に何もしていない」(43.2%)が4割を超えて多くなっている。

図表 29

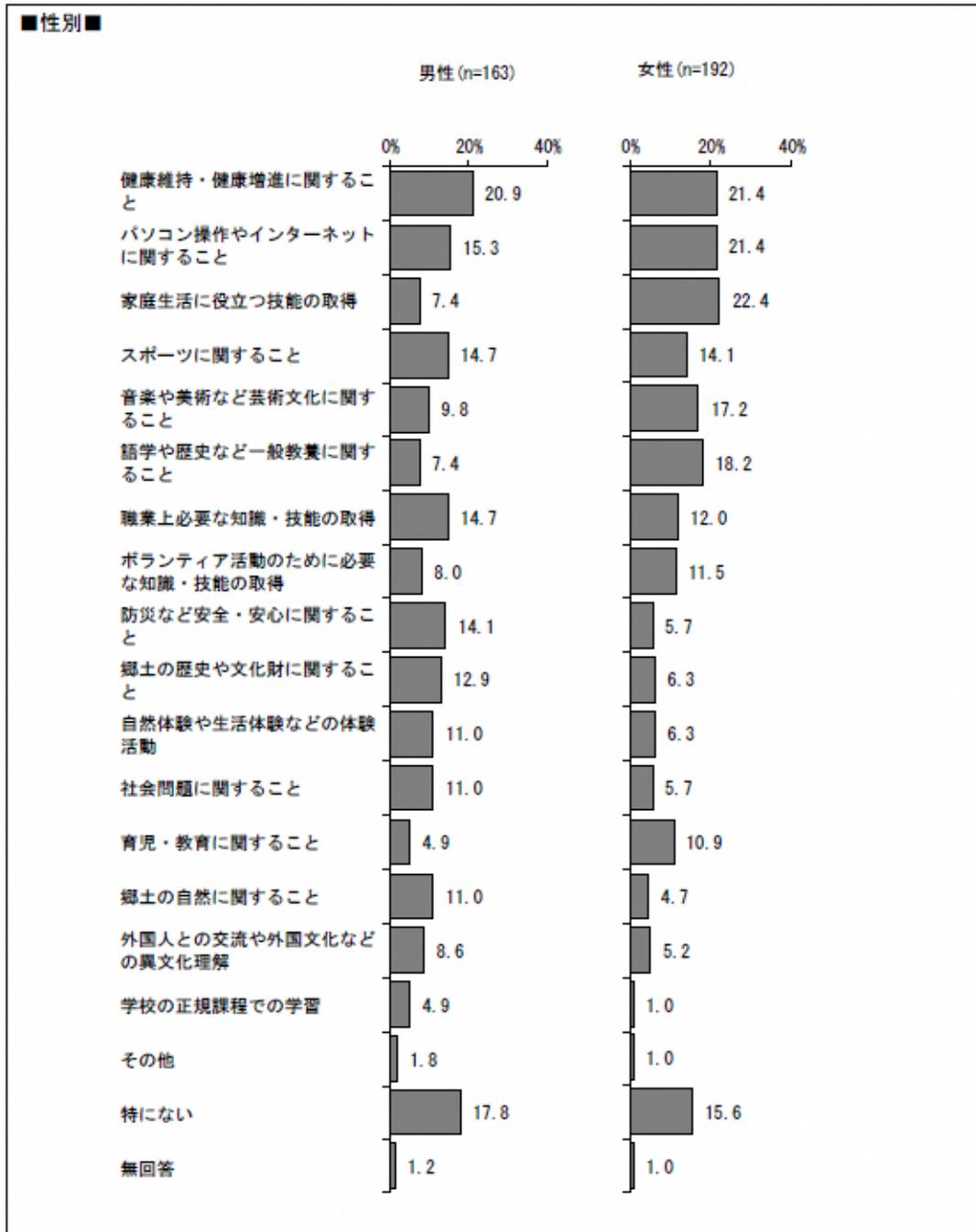
(2) 今後行ってみたい学習活動

問6 今後、どのような学習活動をしてみたいと思いますか。(3つまで○)



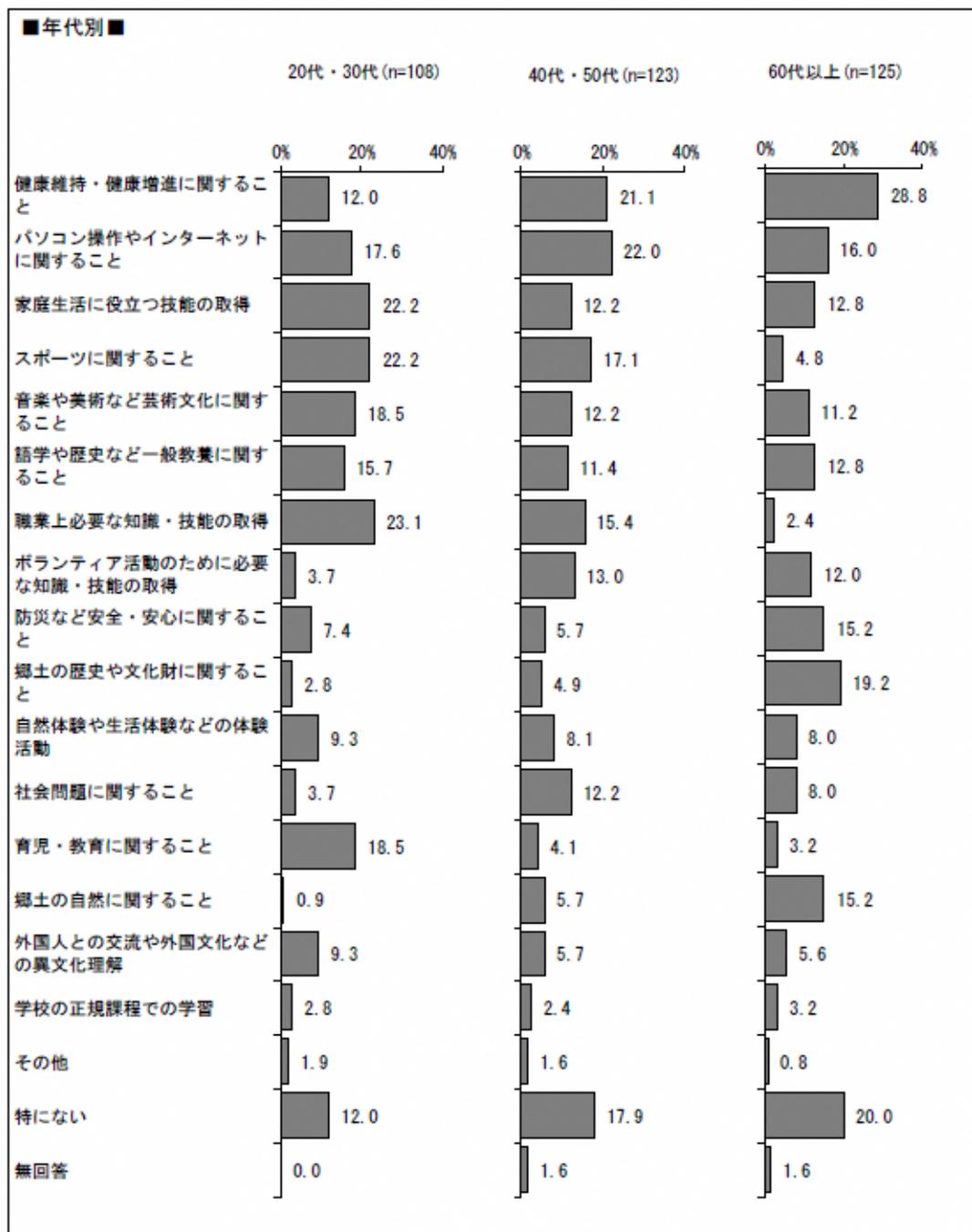
【全体】

今後行ってみたい学習活動は、「健康維持・健康増進に関すること」(21.0%)、「パソコン操作やインターネットに関すること」(18.5%)などが多くなっている。他方で、「特にない」(16.8%)は1割台半ばとなっている。



【性別】

男性は、「健康維持・健康増進に関すること」(20.9%)が2割を超えて最も多くなっている。
 女性は、「家庭生活に役立つ技能の取得」(22.4%)、「健康維持・健康増進に関すること」(21.4%)、「パソコン操作やインターネットに関すること」(21.4%)が2割を超えて多くなっている。



【年代別】

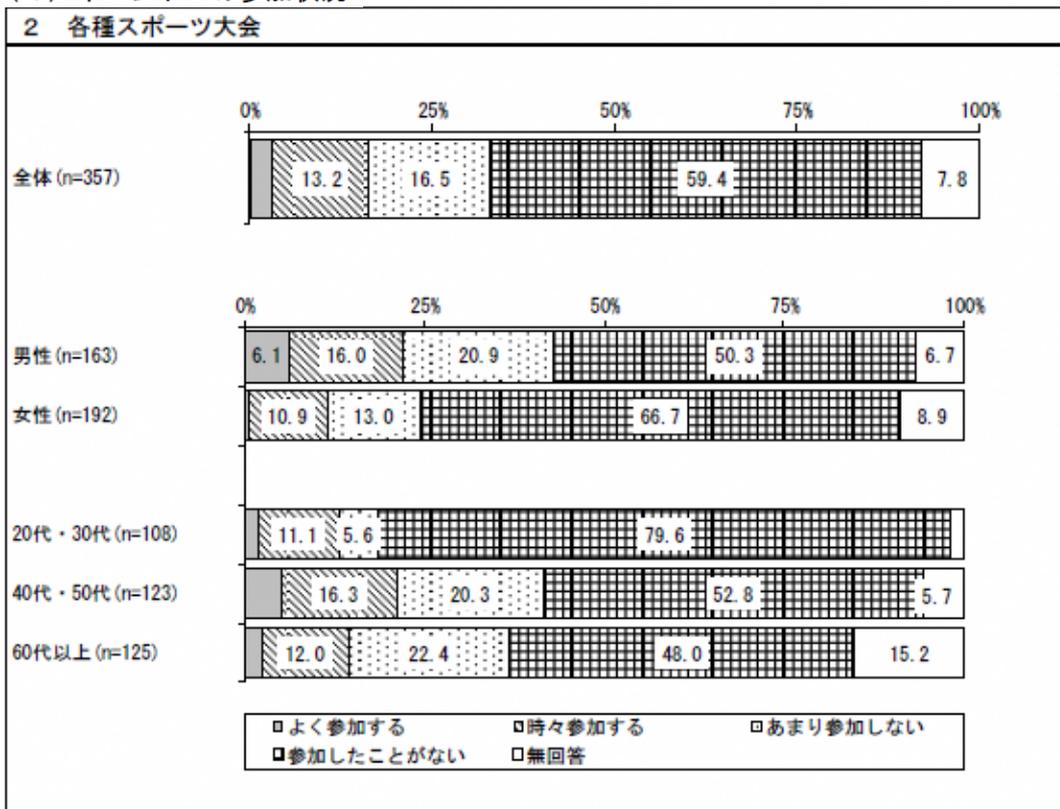
20代・30代は、「職業上必要な知識・技能の取得」(23.1%)、「家庭生活に役立つ技能の取得」(22.2%)、「スポーツに関すること」(22.2%)が2割を超えて最も多くなっている。

40代・50代は、「パソコン操作やインターネットに関すること」(22.0%)、「健康維持・健康増進に関すること」(21.1%)が2割を超えて多くなっている。

60代以上は、「健康維持・健康増進に関すること」(28.8%)が約3割と最も多くなっている。

図表 30

(4) イベントへの参加状況



【全体】

“2 各種スポーツ大会”への参加状況は、「参加したことがない」(59.4%)が多くなっている。「よく参加する」と「時々参加する」を合わせた『参加する』が16.3%と1割台半ばとなっている。

【性別】

男性は、『参加する』が22.1%と2割を超えている。

女性は、『参加する』が11.4%となっている。

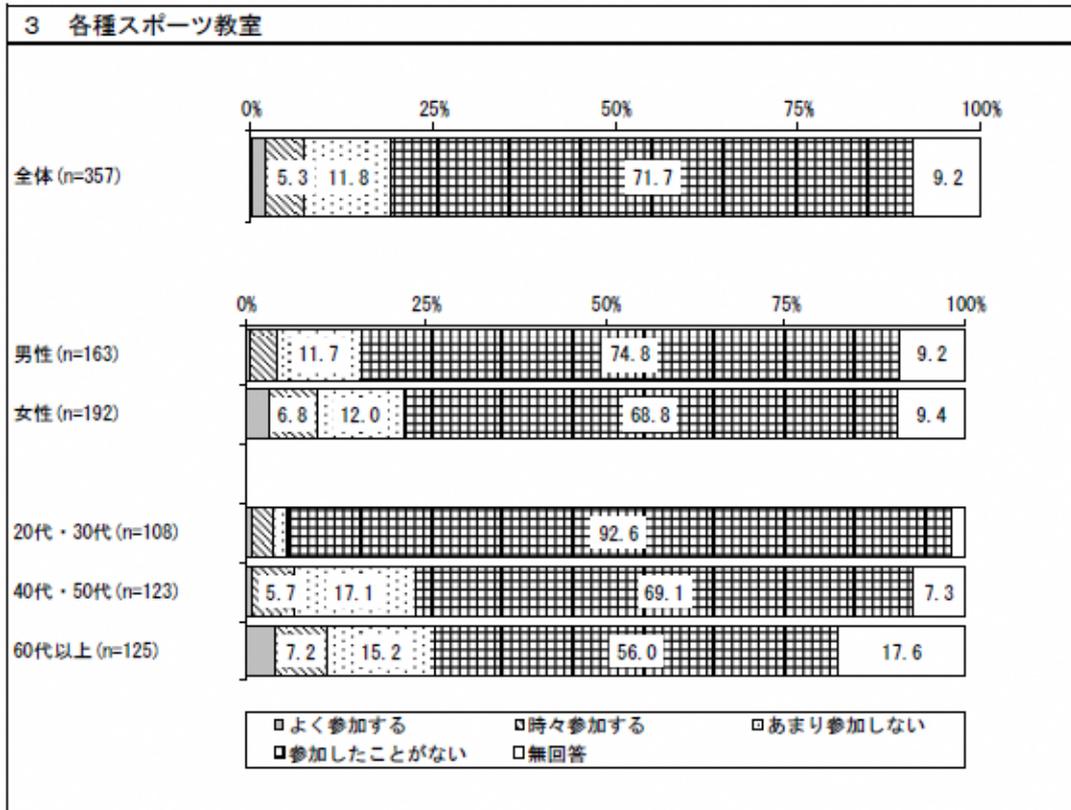
【年代】

20代・30代は、『参加する』が13.0%となっている。

40代・50代は、『参加する』が21.1%と2割を超えている。

60代以上は、『参加する』が14.4%と1割台半ばとなっている。

図表 31



【全体】

“3 各種スポーツ教室”への参加状況は、「参加したことがない」(71.7%)が多くなっている。「よく参加する」と「時々参加する」を合わせた『参加する』が7.3%と1割未満となっている。

【性別】

男性は、『参加する』が4.3%となっている。

女性は、『参加する』が9.9%となっている。

【年代】

20代・30代は、『参加する』が3.7%となっている。

40代・50代は、『参加する』が6.5%となっている。

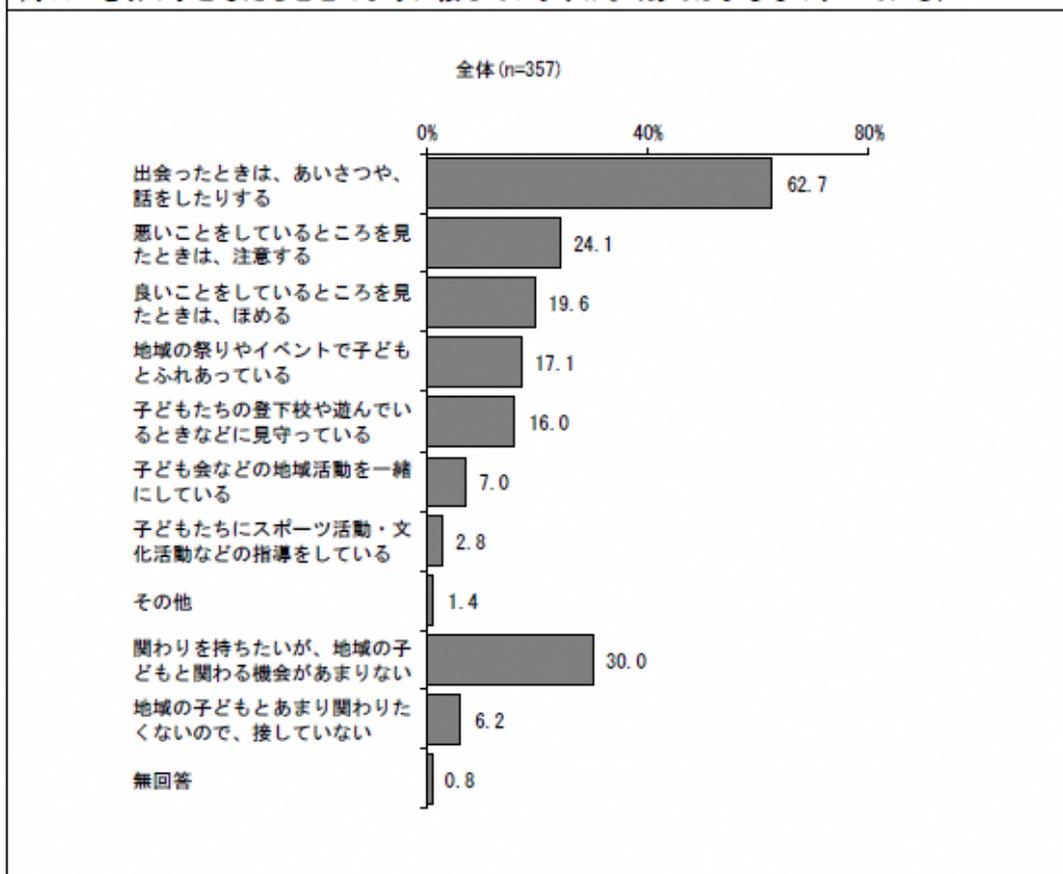
60代以上は、『参加する』が11.2%と1割を超えている。

図表 32

4 裾野市の子どもたちについて

(1) 地域の子どもたちとの接し方

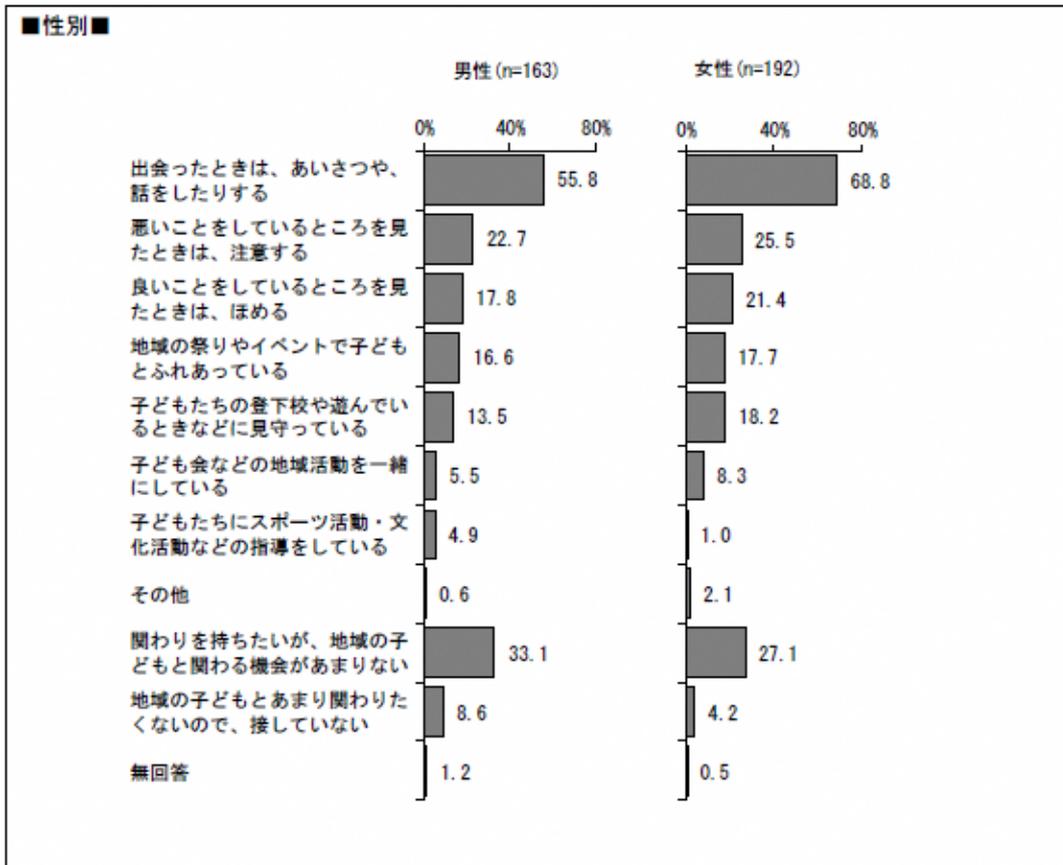
問 14 地域の子どもたちとどのように接していますか。(あてはまるものすべてに○)



【全体】

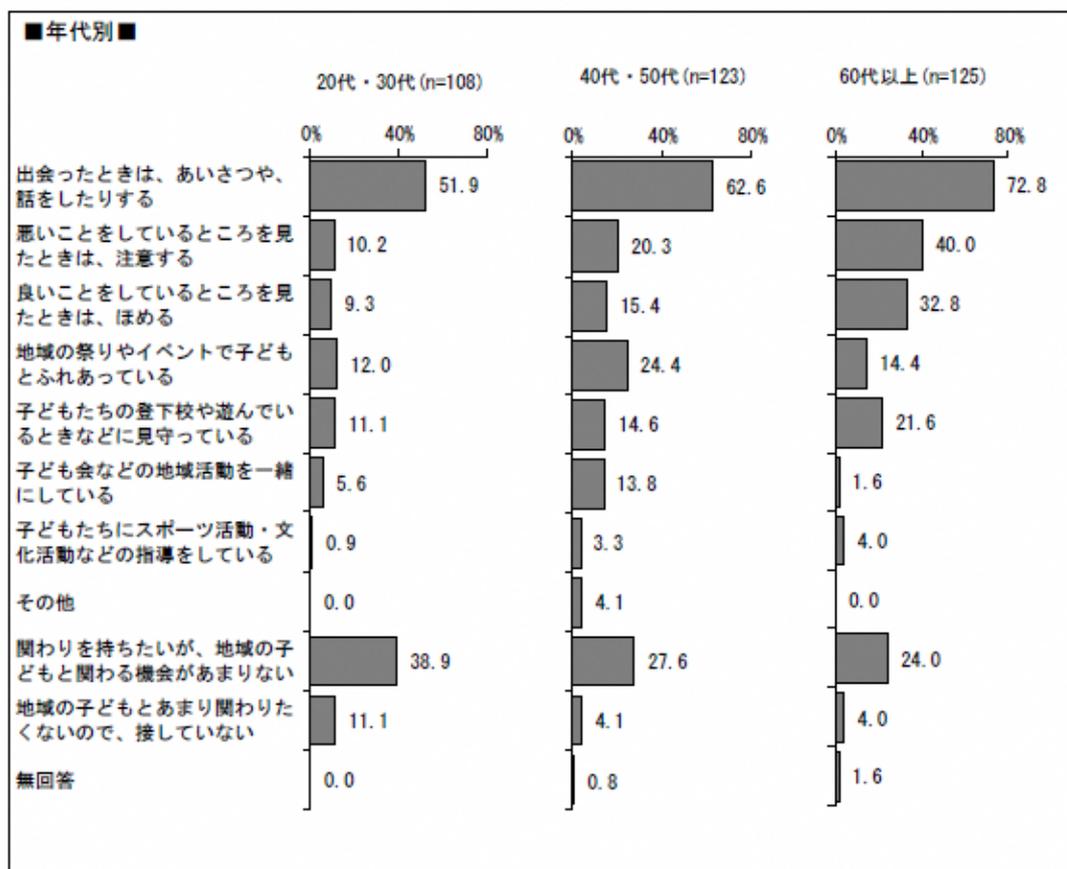
地域の子どもたちとの接し方は、「出会ったときは、あいさつや、話をしたりする」(62.7%)が6割を超えて最も多く、次いで、「悪いことをしているところを見たときは、注意する」(24.1%)、「良いことをしているところを見たときは、ほめる」(19.6%)となっている。

他方、「関わりを持ちたいが、地域の子どもと関わる機会があまりない」(30.0%)が多くなっている。



【性別】

男性は、「出会ったときは、あいさつや、話をしたりする」(55.8%)が5割半ばと最も多くなっている。他方、「関わりを持ちたいが、地域の子どものと関わる機会があまりない」が33.1%となっている。女性も、「出会ったときは、あいさつや、話をしたりする」(68.8%)が約7割と最も多くなっている。



【年代別】

20代・30代は、「出会ったときは、あいさつや、話をしたりする」(51.9%)が5割を超えて最も多くなっている。他方、「関わりを持ちたいが、地域の子とも関わる機会があまりない」が38.9%となっている。

40代・50代は、「出会ったときは、あいさつや、話をしたりする」(62.6%)が6割を超えて最も多くなっている。

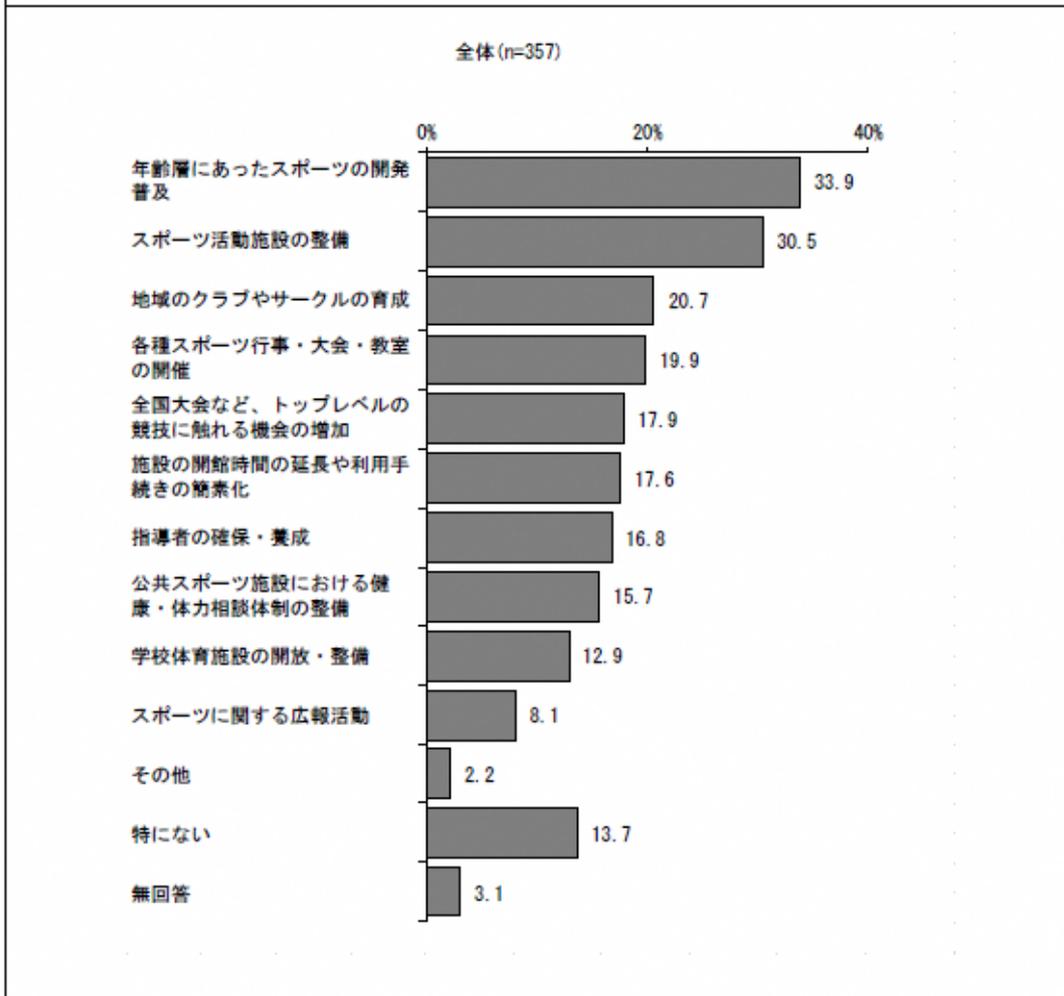
60代以上は、「出会ったときは、あいさつや、話をしたりする」(72.8%)が7割を超えて最も多くなっている。次いで、「悪いことをしているところを見たときは、注意する」(40.0%)、「良いことをしているところを見たときは、ほめる」(32.8%)となっている。

図表 33

5 裾野市の教育施策や教育事業について

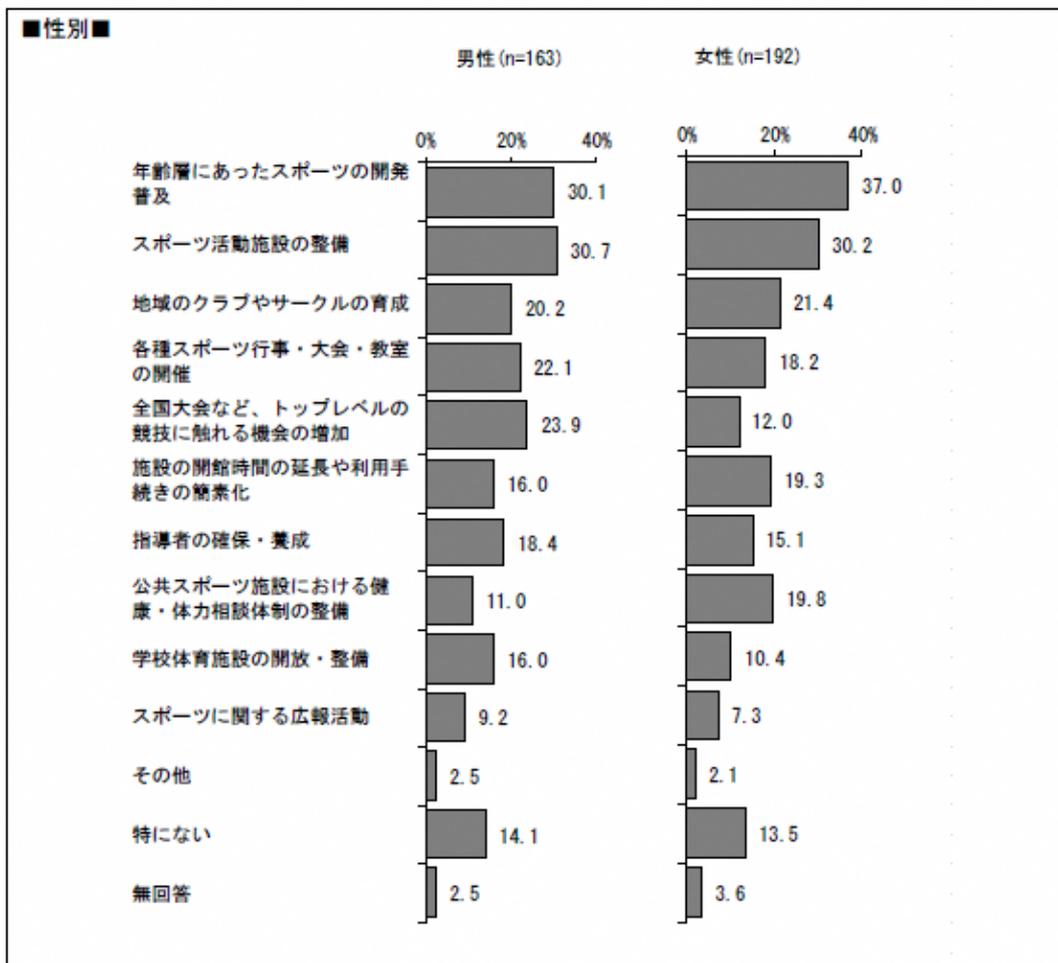
(3) 特に力を入れて行う必要のあるスポーツ活動に関する教育施策や事業

問 18 裾野市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業は何ですか。
18-3 スポーツ活動について (3つまで○)



【全体】

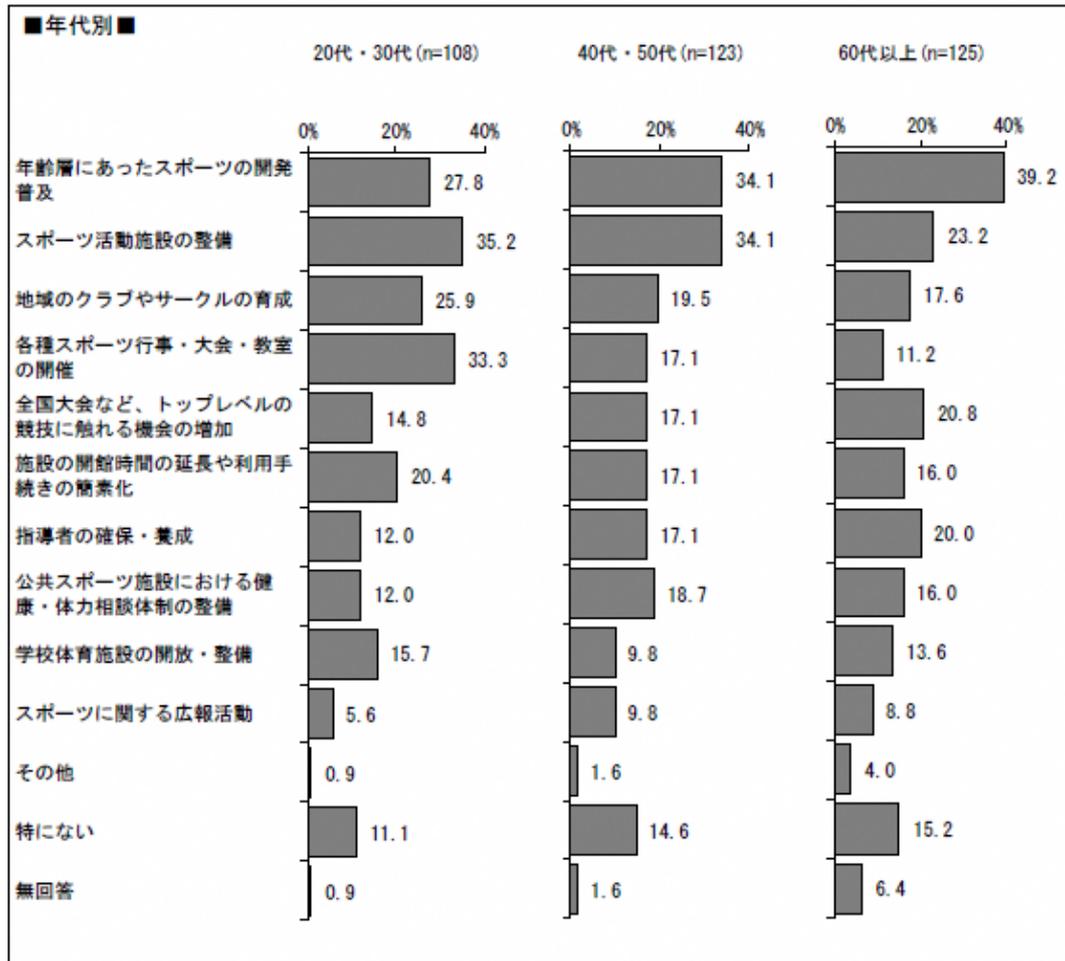
特に力を入れて行う必要のあるスポーツ活動に関する教育施策や事業は、「年齢層にあったスポーツの開発普及」(33.9%)、「スポーツ活動施設の整備」(30.5%)が3割台と多くなっている。



【性別】

男性は、「スポーツ活動施設の整備」(30.7%)、「年齢層にあったスポーツの開発普及」(30.1%)が約3割と多くなっている。

女性は、「年齢層にあったスポーツの開発普及」(37.0%)、「スポーツ活動施設の整備」(30.2%)が3割台と多くなっている。



【年代別】

20代・30代は、「スポーツ活動施設の整備」(35.2%)、「各種スポーツ行事・大会・教室の開催」(33.3%)が3割台と多くなっている。

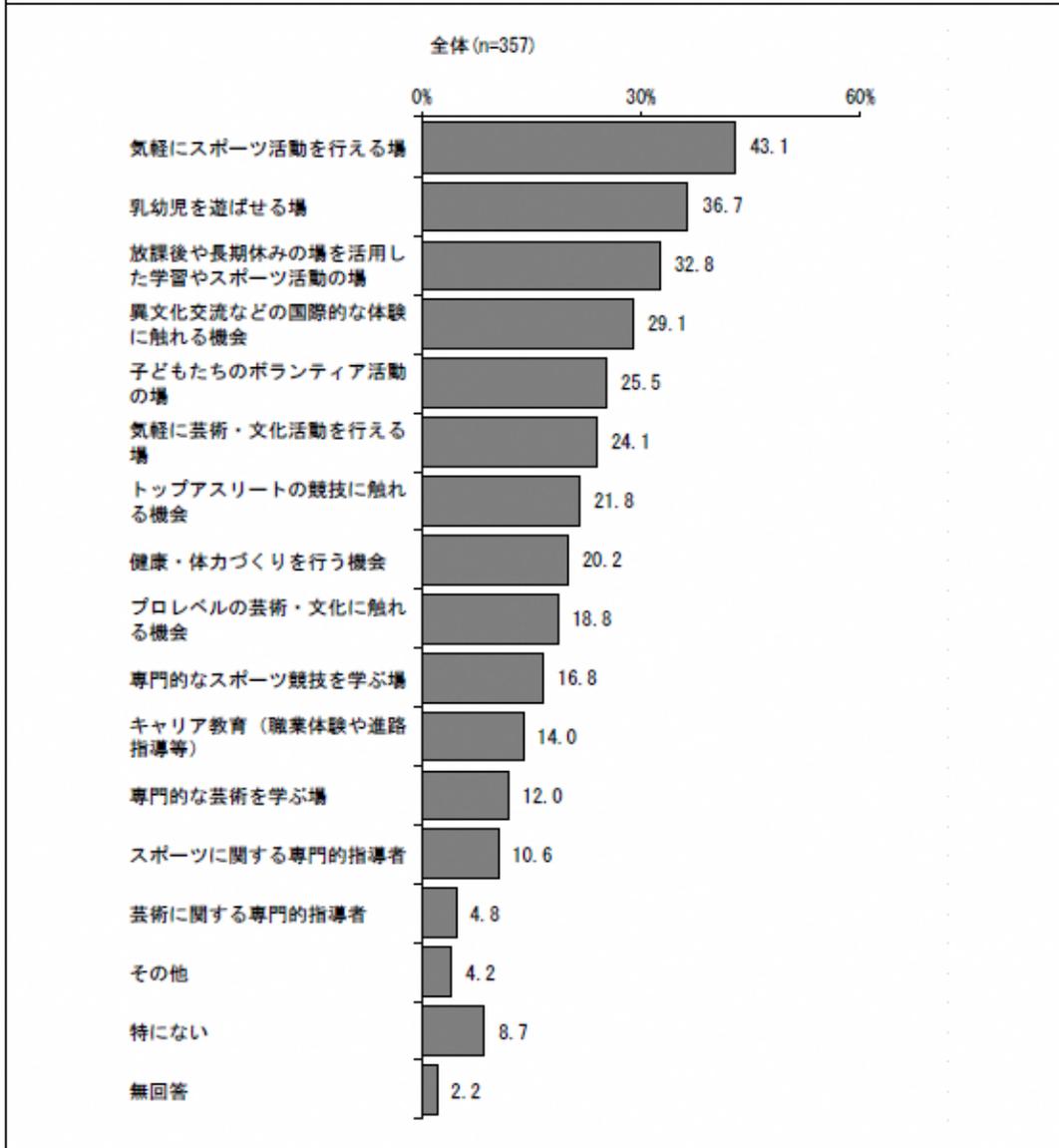
40代・50代は、「年齢層にあったスポーツの開発普及」(34.1%)、「スポーツ活動施設の整備」(34.1%)が3割台半ばと多くなっている。

60代以上は、「年齢層にあったスポーツの開発普及」(39.2%)が約4割と最も多くなっている。

図表 34

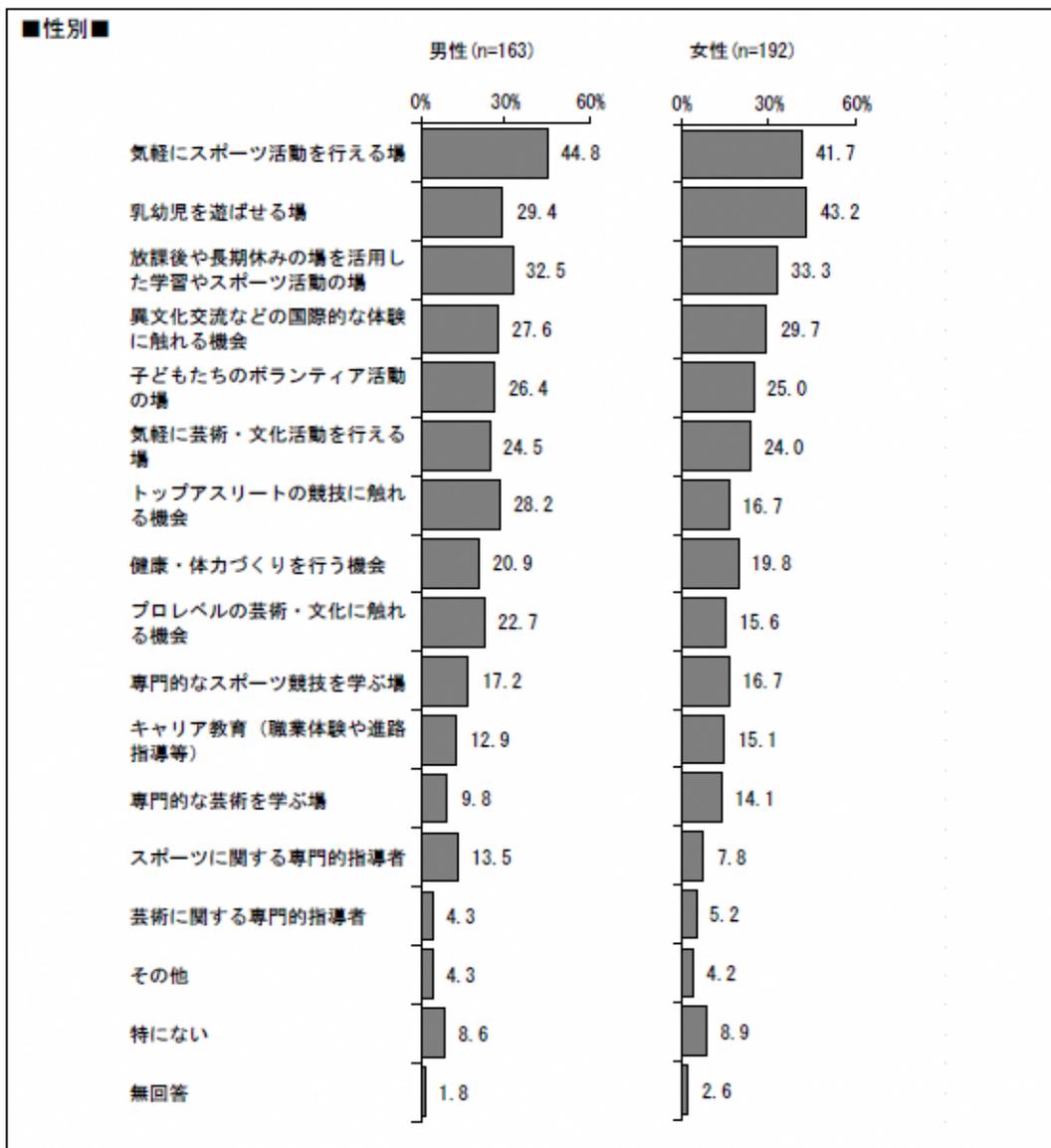
(5) 子どもの生涯学習に不足しているもの

問 20 子どもに対する生涯学習について不足しているものは何だと思えますか。(5つまで○)



【全体】

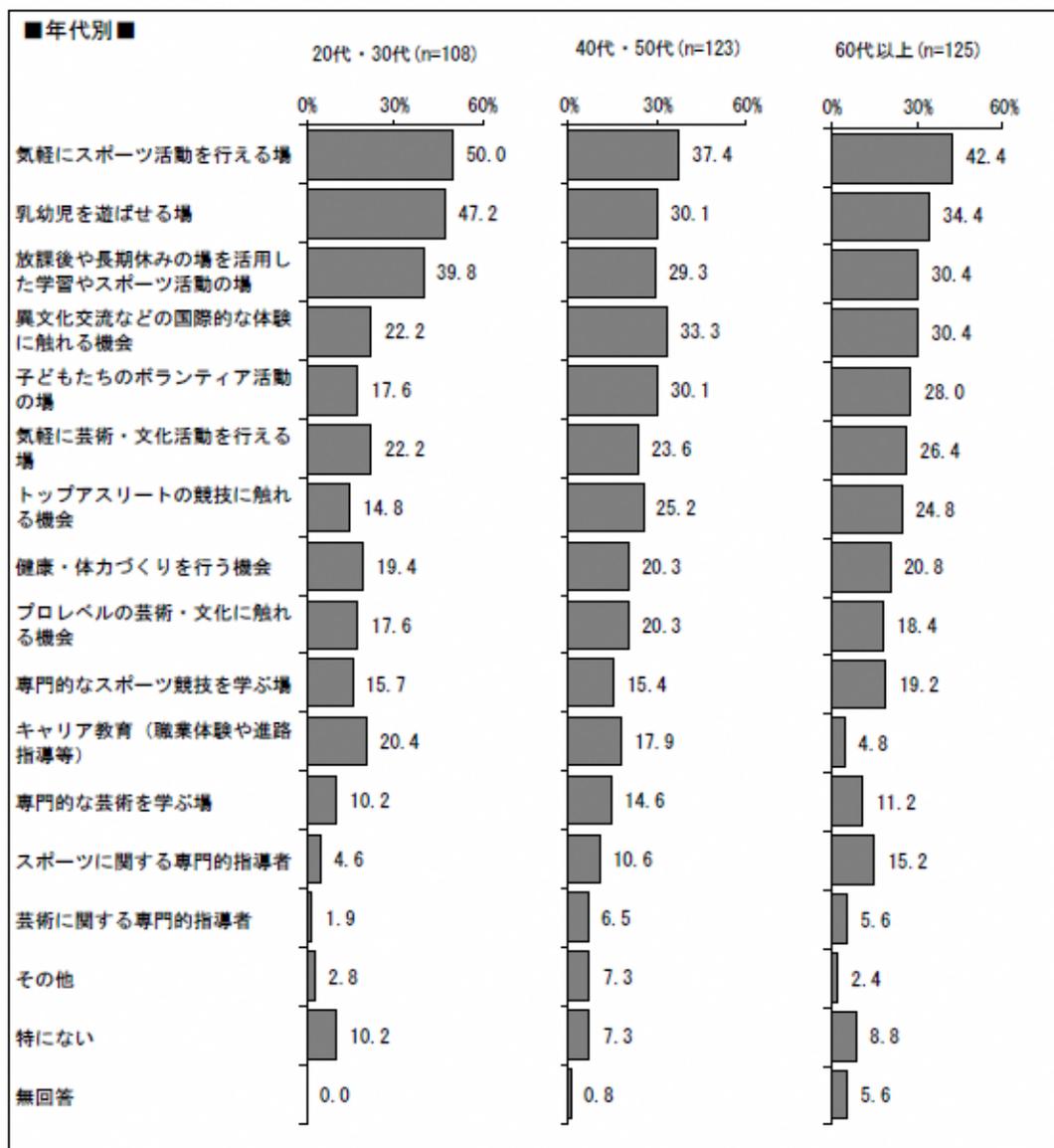
子どもの生涯学習に不足しているものは、「気軽にスポーツ活動を行える場」(43.1%)が4割台半ばと最も多くなっている。次いで、「乳幼児を遊ばせる場」(36.7%)、「放課後や長期休みの場を活用した学習やスポーツ活動の場」(32.8%)となっている。



【性別】

男性は、「気軽にスポーツ活動を行える場」（44.8%）が4割台半ばと最も多くなっている。

女性は、「乳幼児を遊ばせる場」（43.2%）、「気軽にスポーツ活動を行える場」（41.7%）が4割台と多くなっている。



【年代別】

20代・30代は、「気軽にスポーツ活動を行える場」（50.0%）、「乳幼児を遊ばせる場」（47.2%）が5割前後と最も多くなっている。次いで、「放課後や長期休みの場を活用した学習やスポーツ活動の場」（39.8%）となっている。

40代・50代は、「気軽にスポーツ活動を行える場」（37.4%）が約4割と最も多くなっている。次いで、「異文化交流などの国際的な体験に触れる機会」（33.3%）、「乳幼児を遊ばせる場」（30.1%）、「子どもたちのボランティア活動の場」（30.1%）となっている。

60代以上は、「気軽にスポーツ活動を行える場」（42.4%）が4割を超えて最も多くなっている。

図表 35

4 平成24～26年全日本少年サッカー大会来場者アンケート集計

※平成25年・26年のデータは、NPO法人裾野市スポーツ協会に委託の「裾野市スポーツ推進事業に関する調査報告書」から集計

1 アンケート総数

H24	H25	H26	計
286	101	274	661

単位：人

図表 36

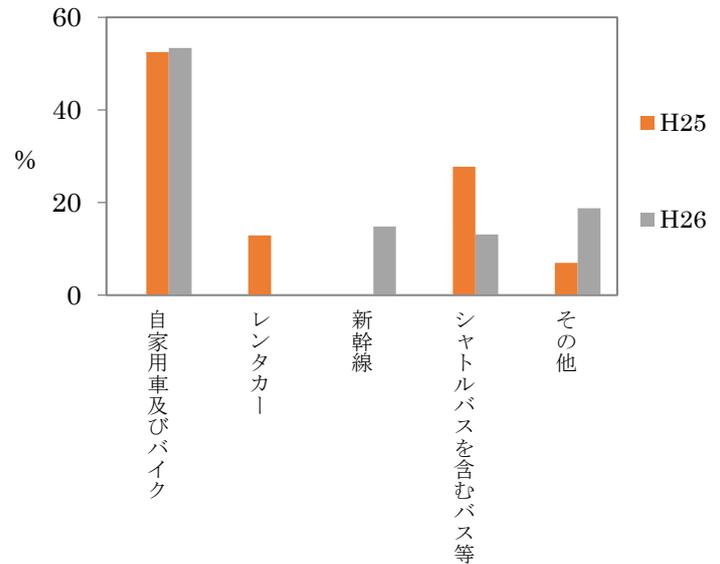
2 旅行手段

	H24	H25	H26
自家用車及びバイク		53	151
レンタカー		13	
新幹線			42
シャトルバスを含むバス等		28	37
その他		7	53
計		101	283

*平成26年は複数回答有

単位：人

旅行手段として、約50%が「自家用車及びバイク」を使用していることがわかる。遠方からの来場者に関しては10%程度が新幹線を利用している。

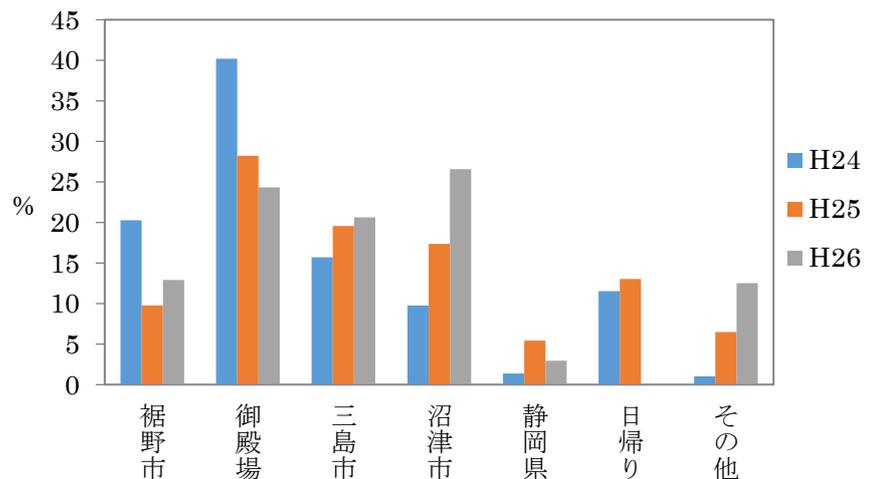


図表 37

3 宿泊場所

	H24	H25	H26
裾野市	58	9	35
御殿場市	115	26	66
三島市	45	18	56
沼津市	28	16	72
静岡県	4	5	8
日帰り	33	12	
その他	3	6	34
計	286	92	271

単位：人



宿泊場所についてのアンケート結果

図表 38

宿泊場所に関しては、平成24年度は御殿場市が最も宿泊場所選ばれていたが、年々減少し平成26年には沼津市に宿泊する人の割合が最も高くなっている。

裾野市に関しては平成25年度にいったん宿泊者の割合が低くなったが、平成26年には平成24年度ほどではないが宿泊場所として選ばれる割合が高くなっている。

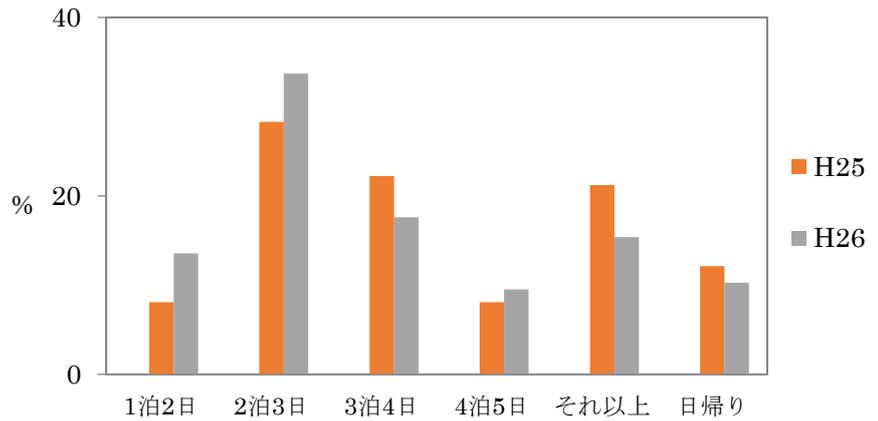
近隣県からの来場者に関しては日帰りの来場者も10%程度みられる。

4 宿泊日数

	H24	H25	H26
1泊2日		8	37
2泊3日		28	92
3泊4日		22	48
4泊5日		8	26
それ以上		21	42
日帰り		12	28
計		99	273

単位：人

宿泊日数として2泊3日が最も多く、続いて3泊4日、それ以上、となっている。夏休み期間ということもあり、比較的滞在日数を長く取る傾向がみられる。



宿泊日数についてのアンケート結果

図表 39

5 サッカー観戦以外の観光先

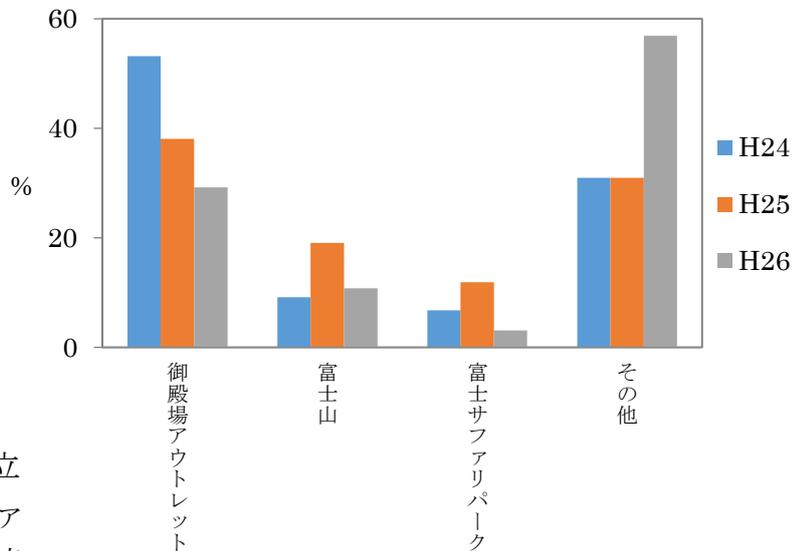
	H24	H25	H26
御殿場アウトレット	134	16	19
富士山	23	8	7
富士サファリパーク	17	5	2
その他	78	13	37
計	252	42	65

単位：人

*こどもの国、海、温泉などはその他にカウント

御殿場アウトレットに訪れる来場者が目立っている。それ以外には富士山や富士サファリパークといった家族で楽しめる場所が観光地として選ばれている。

なお、アンケート総数が平成25年度以降低下したのは、集計方法に変更があったためである。



サッカー観戦以外の観光先についてのアンケート結果

図表 40

5 裾野市営スポーツ施設の利用状況推移

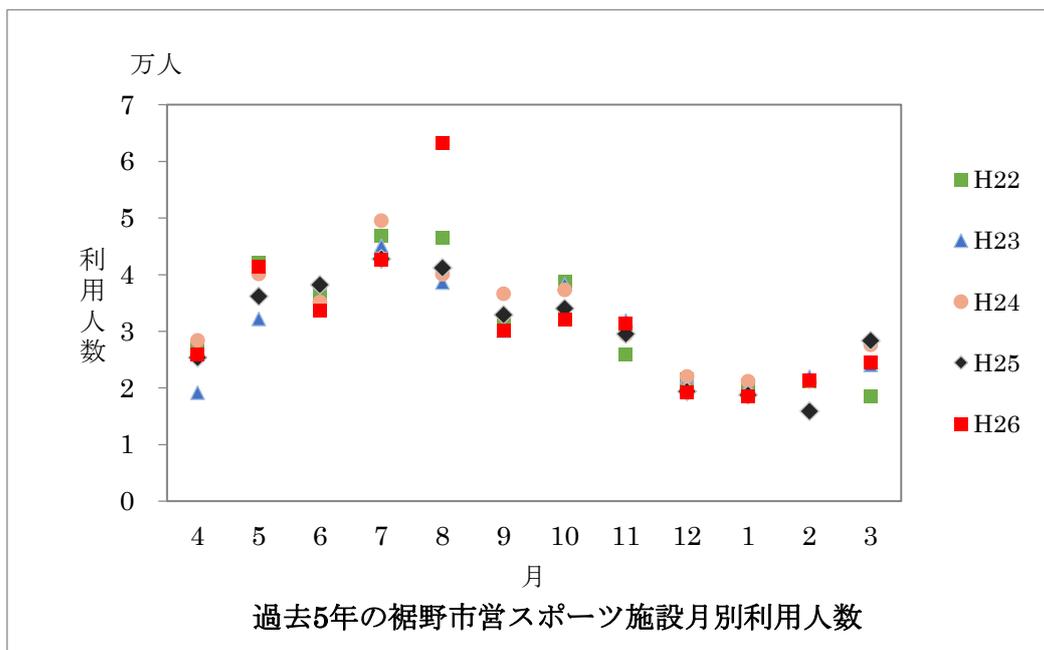
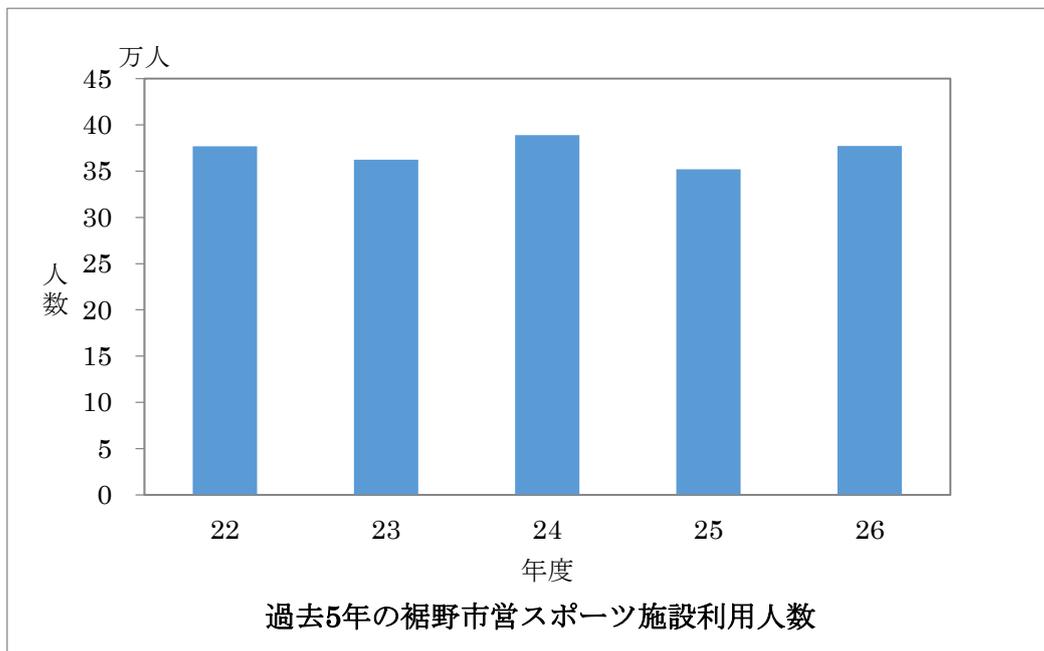
※裾野市営スポーツ施設…市民体育館、総合グラウンド、運動公園、学校体育施設、市営プールの総称

(1) 裾野市営スポーツ施設の利用状況

裾野市営スポーツ施設の月別利用状況（過去5年）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
年度	22	26,920	42,107	36,798	46,779	46,437	31,468	38,713	25,933	21,584	20,552	21,124	18,583	376,998
	23	19,148	32,203	38,581	45,094	38,599	30,089	38,342	31,918	21,980	20,174	21,975	24,093	362,196
	24	28,434	40,129	35,167	49,552	40,109	36,632	37,353	29,442	22,051	21,221	21,160	27,641	388,891
	25	25,382	36,172	38,242	42,798	41,215	32,942	34,044	29,540	19,405	18,782	15,926	28,352	362,800
	26	25,878	41,430	33,719	42,627	63,256	30,100	32,002	31,455	19,284	18,573	21,299	24,454	384,077

単位：人

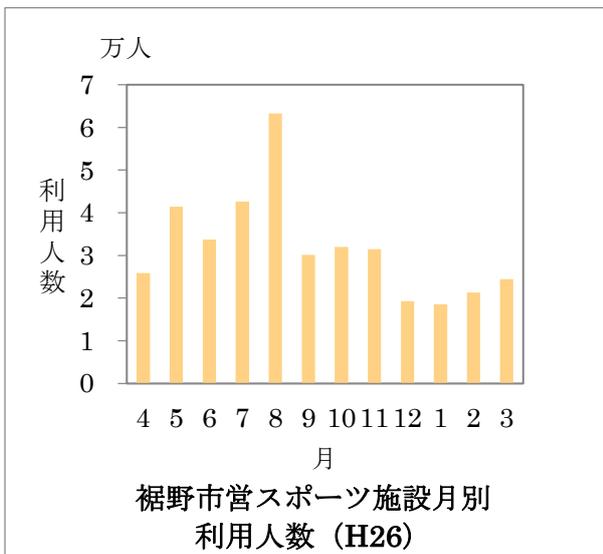
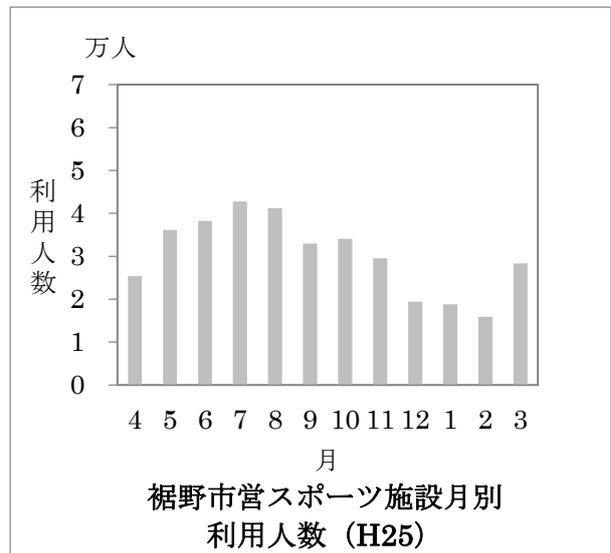
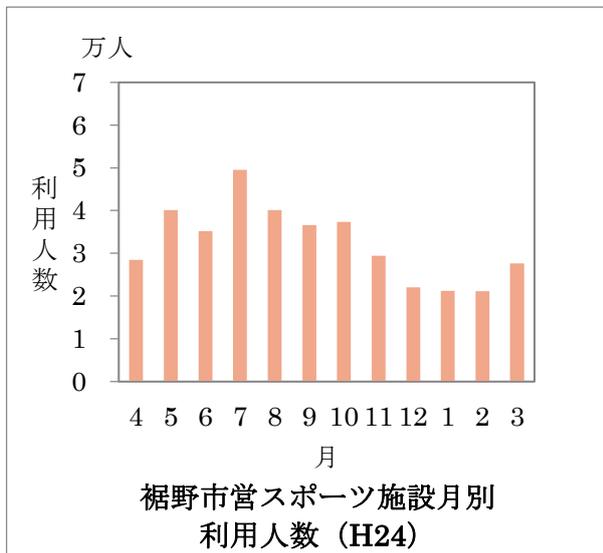
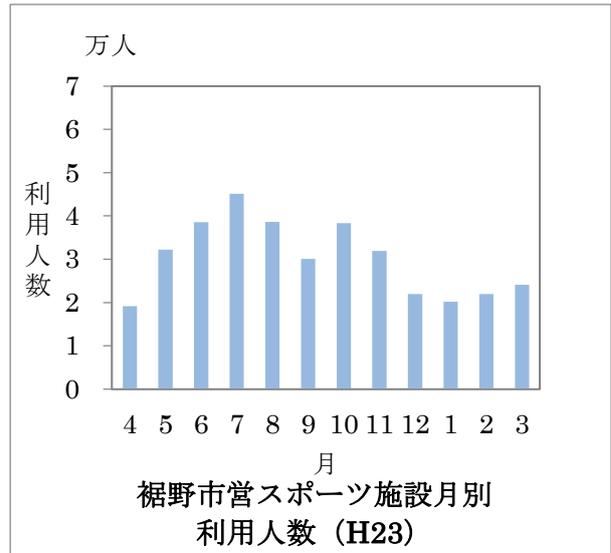
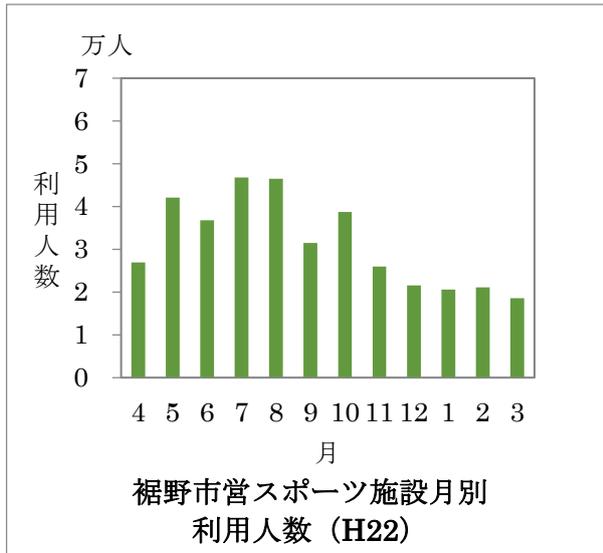


裾野市営スポーツ施設全体の利用人数は、過去5年でほぼ横ばいとなっている。

裾野市営スポーツ施設の月別利用人数に着目すると、7月、8月の利用が多く、一方で12月～3月は利用人数が少なくなっている。夏に利用が多い理由として、市立水泳場が開場することが考えられる。後述するように、市立水泳場は8月におよそ5千人が利用している。

逆に、冬になると屋外スポーツ施設では日照時間の減少や積雪の影響、気温の低さなどがあり、利用人数が少なくなっていると思われる。気温の低さは屋内体育施設利用人数にも影響がある可能性がある。

平成26年度8月は他の年度に比べて利用人数が多くなっている。これは後述するように、運動公園の利用者が大幅に増えたことに起因すると考えられる。



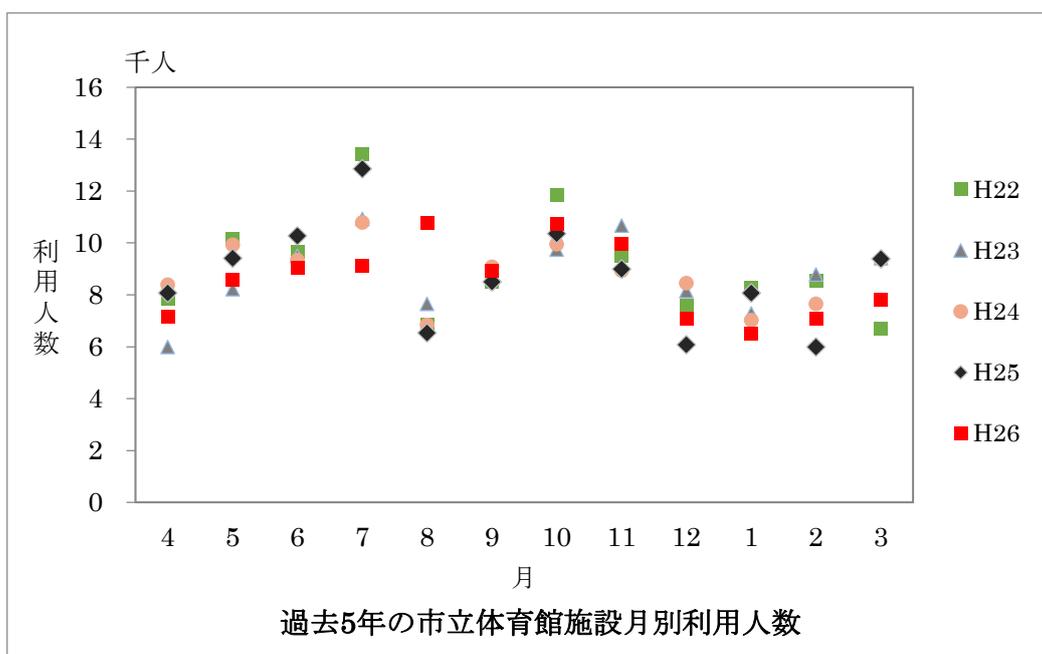
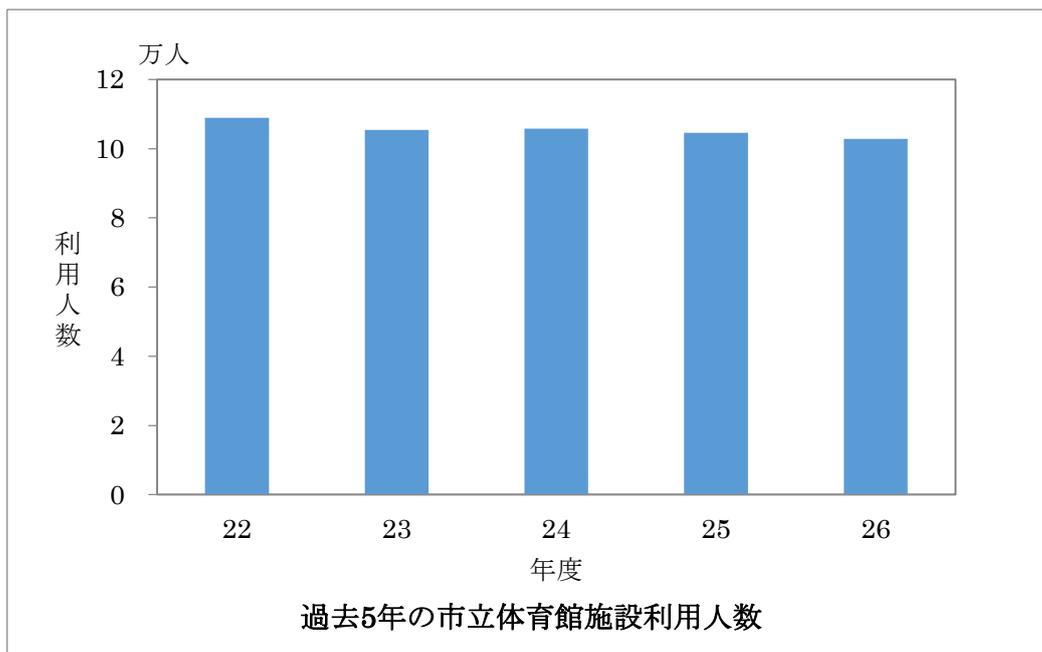
図表 41

(2) 裾野市民体育館の利用状況

裾野市市民体育館の月別利用状況（過去5年）

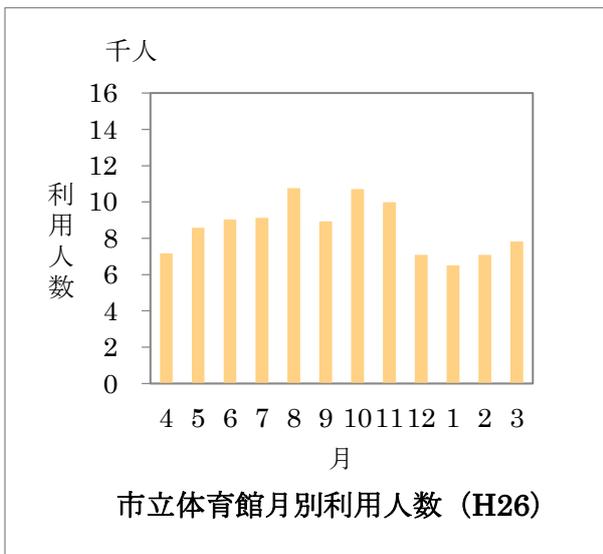
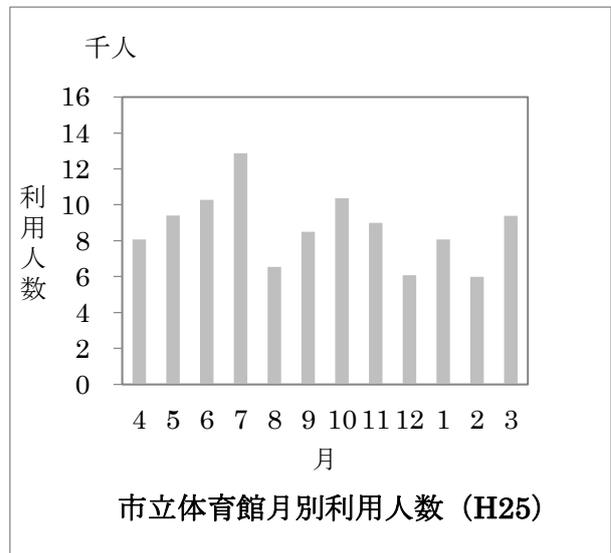
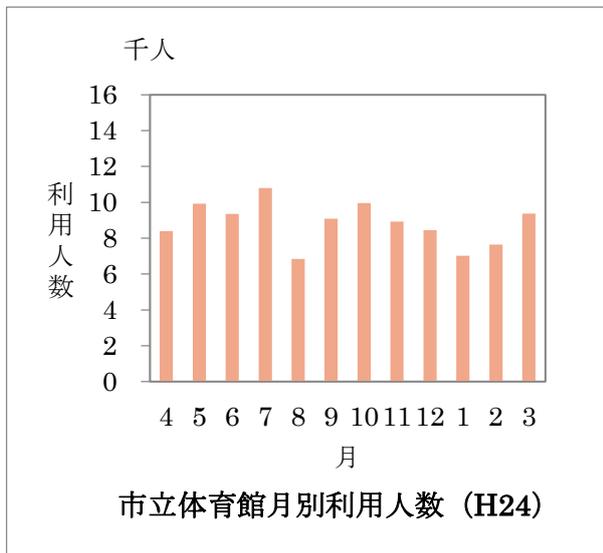
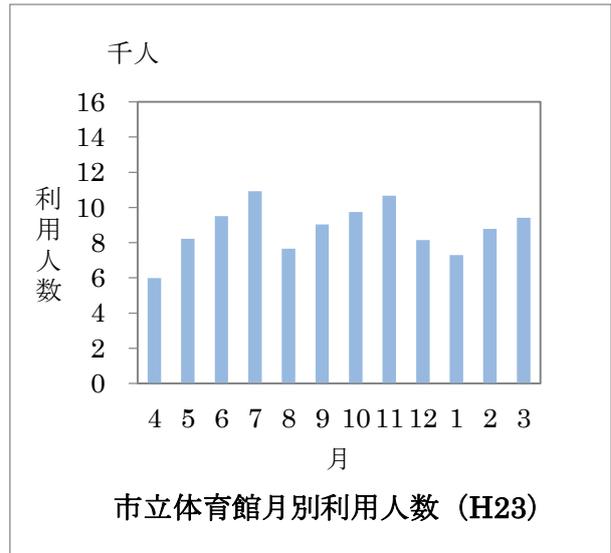
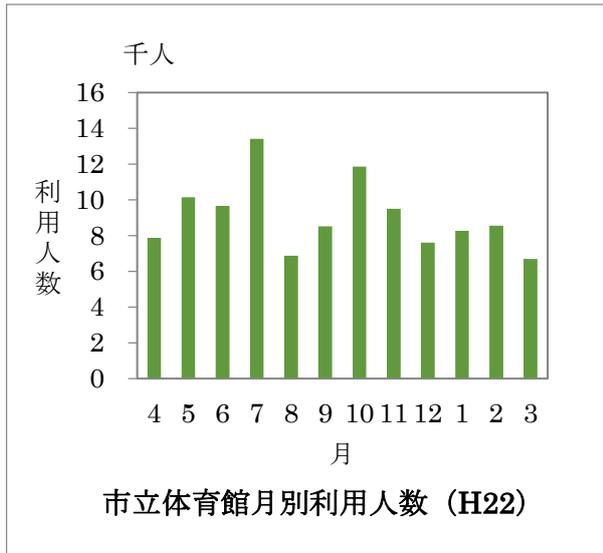
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
年度	22	7,870	10,138	9,651	13,416	6,870	8,505	11,847	9,488	7,596	8,267	8,543	6,693	108,884
	23	5,997	8,226	9,510	10,923	7,652	9,042	9,748	10,669	8,144	7,292	8,793	9,410	105,406
	24	8,397	9,928	9,346	10,799	6,841	9,084	9,958	8,930	8,450	7,023	7,652	9,363	105,771
	25	8,070	9,410	10,280	12,865	6,538	8,506	10,361	8,992	6,077	8,073	5,990	9,395	104,557
	26	7,171	8,586	9,037	9,127	10,762	8,931	10,716	9,987	7,091	6,497	7,078	7,819	102,802

単位：人



市民体育館に関しては、過去5年間で利用者は横ばい、もしくは若干の減少傾向となっている。

月別の利用状況を見ると年間を通して利用があるが、冬の利用が少ないことがわかる。これは、屋外施設ほど顕著ではないにせよ、日照時間の短さや気温の低さによるものであると考えられる。7月、10月の利用が他の月に比べて多い傾向があるが、7月は中体連が、10月は各種スポーツ大会が開催されることが多いためであると推察される。



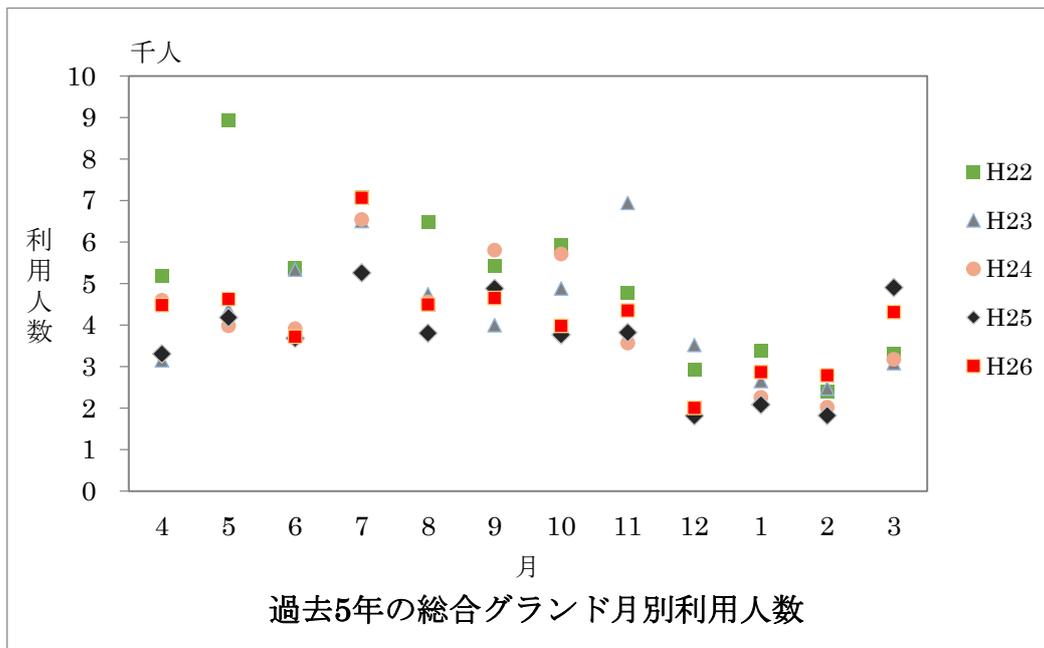
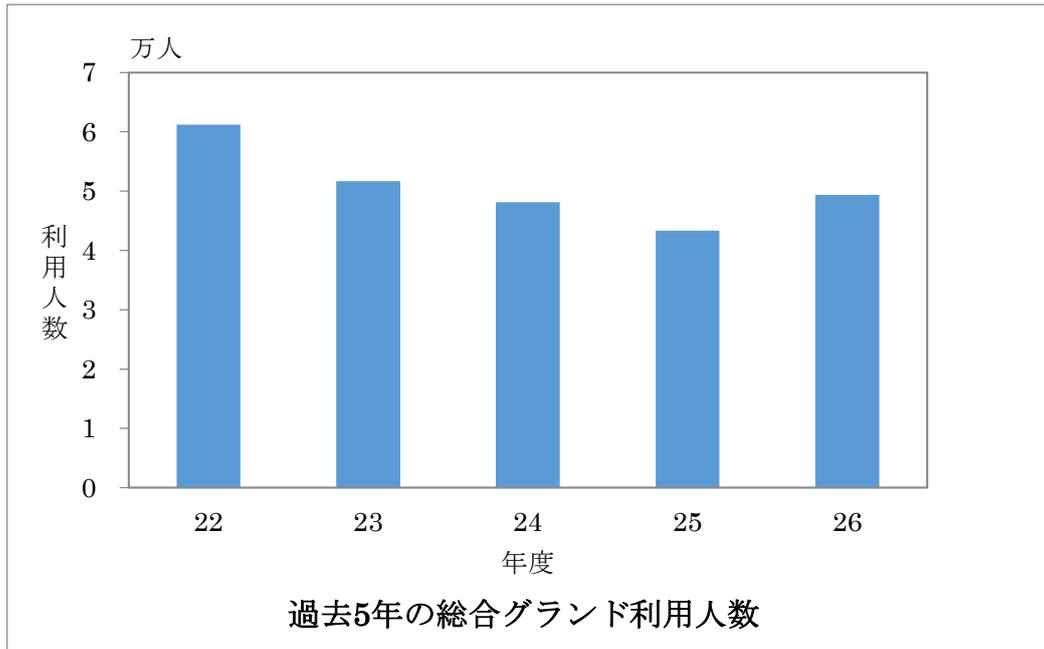
図表 42

(3) 裾野市総合グラウンド利用状況

裾野市総合グラウンドの月別利用状況（過去5年）

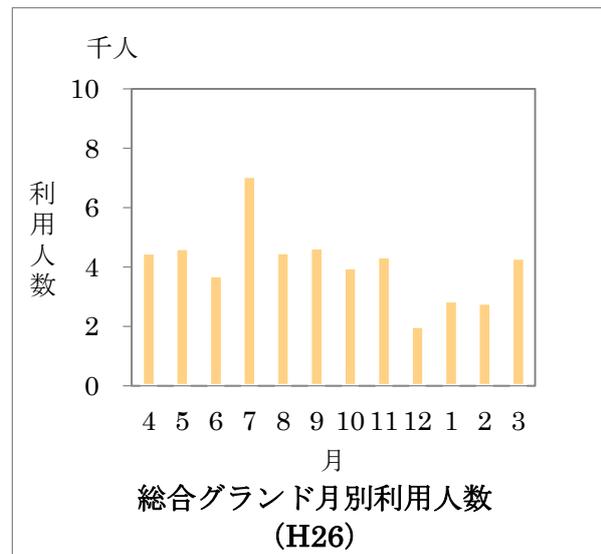
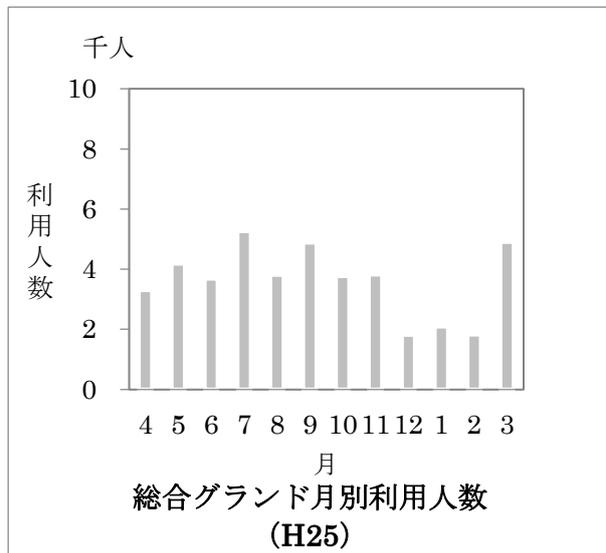
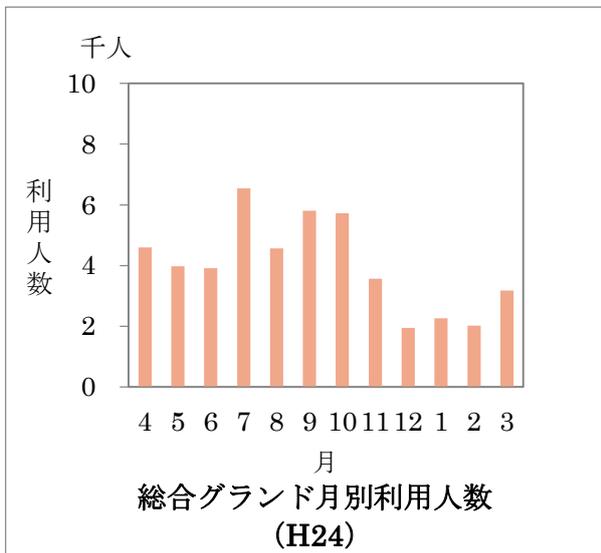
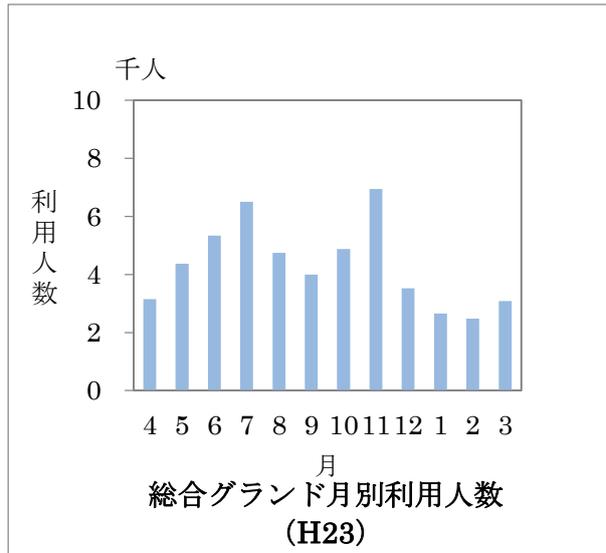
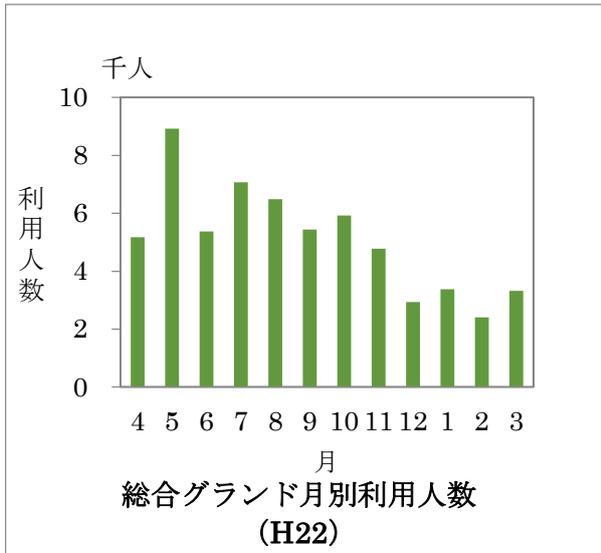
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
年度	22	5,176	8,927	5,370	7,073	6,488	5,439	5,920	4,775	2,938	3,381	2,411	3,326	61,224
	23	3,152	4,367	5,336	6,504	4,744	3,998	4,882	6,947	3,520	2,652	2,478	3,083	51,663
	24	4,600	3,981	3,916	6,542	4,564	5,810	5,717	3,568	1,942	2,261	2,021	3,180	48,102
	25	3,305	4,181	3,687	5,263	3,808	4,881	3,771	3,822	1,816	2,087	1,823	4,906	43,350
	26	4,485	4,628	3,719	7,064	4,496	4,656	3,986	4,354	2,008	2,871	2,789	4,313	49,369

単位：人



総合グラウンドは、過去5年間で利用人数が減少傾向にあるといえる。

月別の利用状況を見ると、他の施設と同じく春夏の利用が多く、冬は少なくなっている。他の施設に比べて月の利用状況にばらつきが大きいのは、屋外施設のため、その時々天候状態やグラウンドコンディションに影響を受けやすいためだと思われる。



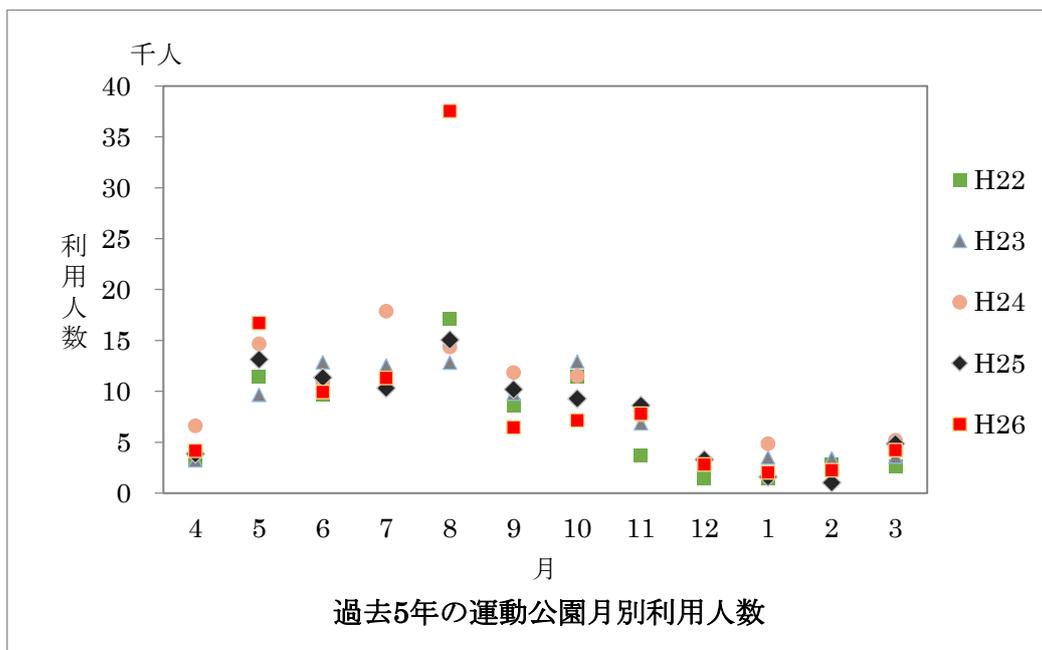
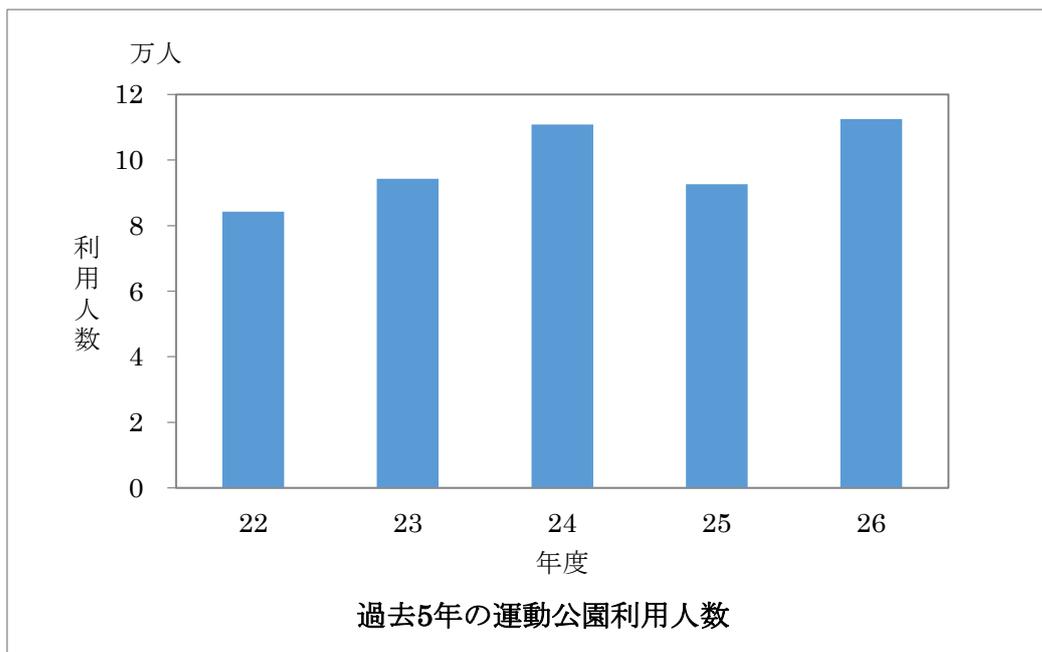
図表 43

(4) 裾野市運動公園の利用状況

裾野市運動公園の月別利用状況（過去5年）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
年度	22	3,211	11,466	9,738	10,683	17,090	8,557	11,459	3,705	1,463	1,398	2,783	2,678	84,231
	23	3,239	9,659	12,867	12,537	12,828	9,788	12,929	6,875	3,056	3,500	3,435	3,593	94,306
	24	6,620	14,678	10,847	17,873	14,361	11,849	11,525	7,670	3,242	4,876	2,132	5,216	110,889
	25	3,852	13,138	11,360	10,320	15,068	10,205	9,277	8,640	3,309	1,609	1,022	4,848	92,648
	26	4,174	16,716	9,941	11,311	37,550	6,456	7,140	7,816	2,823	2,031	2,274	4,230	112,462

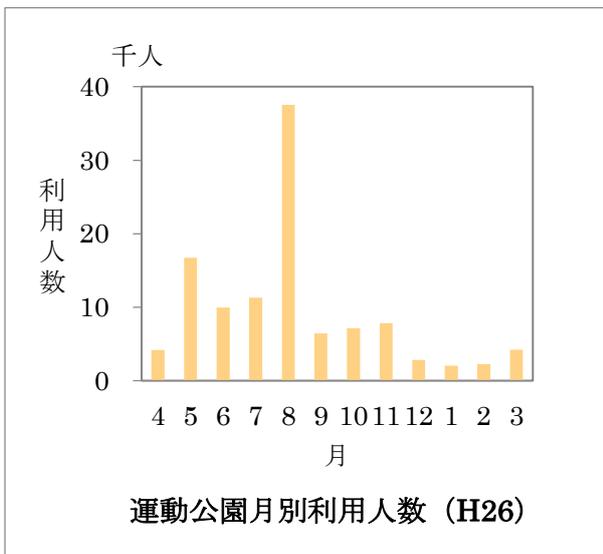
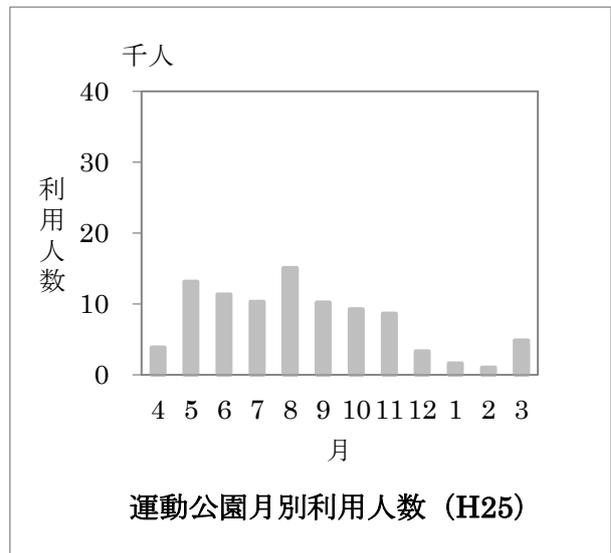
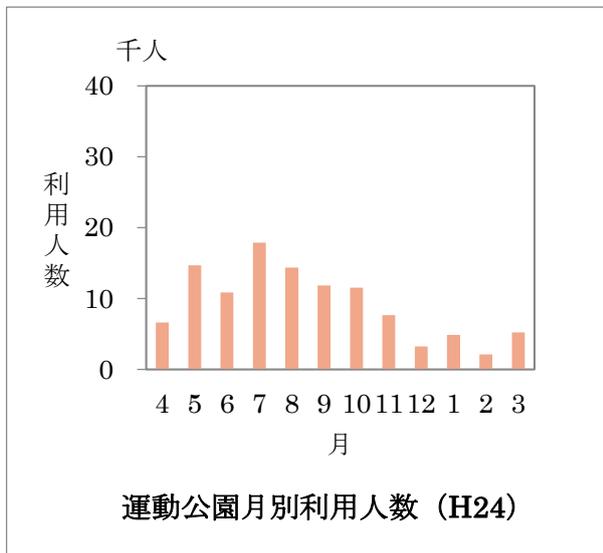
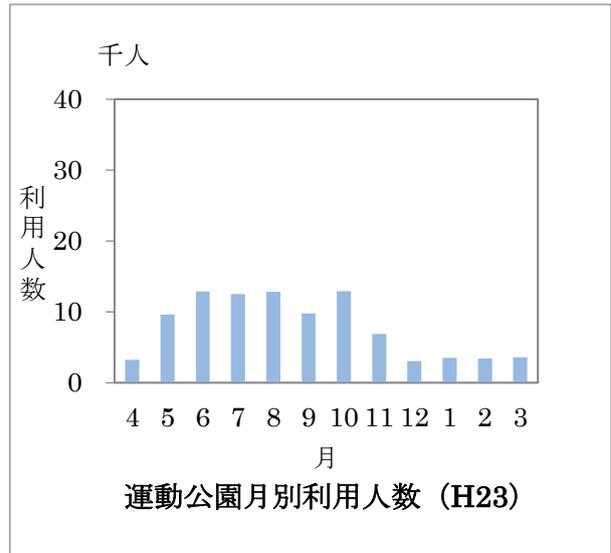
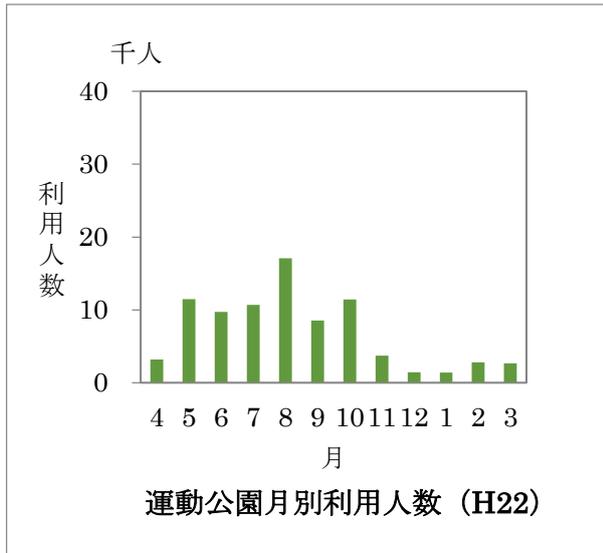
単位：人



運動公園は全体的に増加傾向となっている。

月別の利用人数に注目すると、春夏の利用が多く冬の利用は少ないことがわかるが、他の施設に比べてその差が大きいことがわかる。これは、運動公園はテニスや陸上種目の利用が多く、より気温差や天候に左右されやすいためであると思われる。

また、平成 26 年度の 8 月の利用人数が他の年度に比べて 2 倍近く多いが、これは大規模な大会が開催されたわけではなく、いくつかの大会や合宿（中学親善野球大会、高野連主催大会、ラグビー大会等）が重なったためであると推察される。



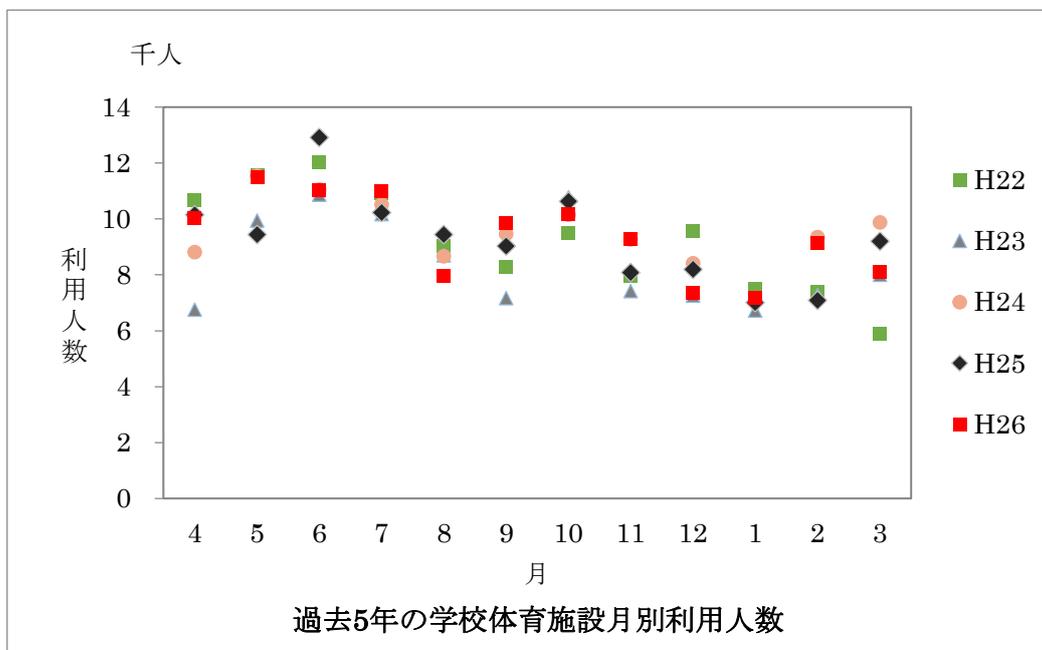
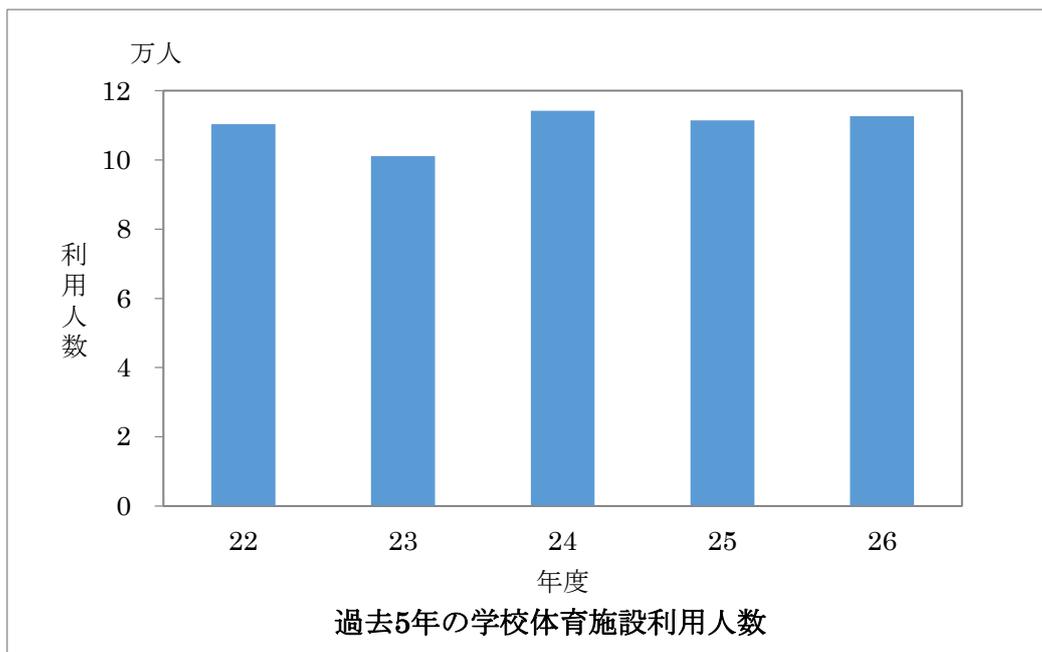
図表 44

(5) 学校体育施設の利用状況

施設の月別利用状況（過去5年）

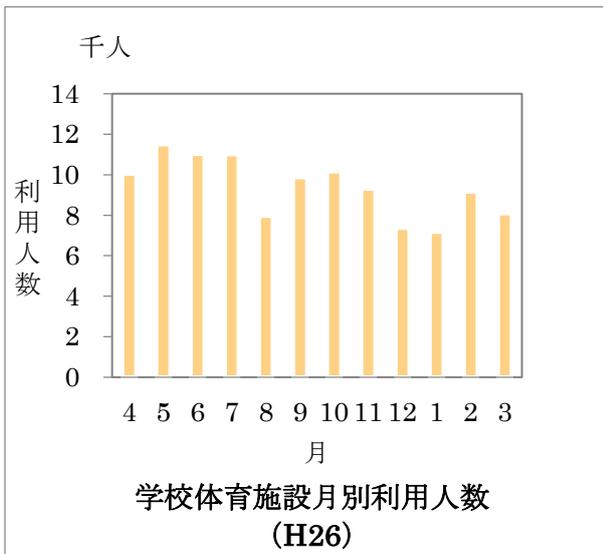
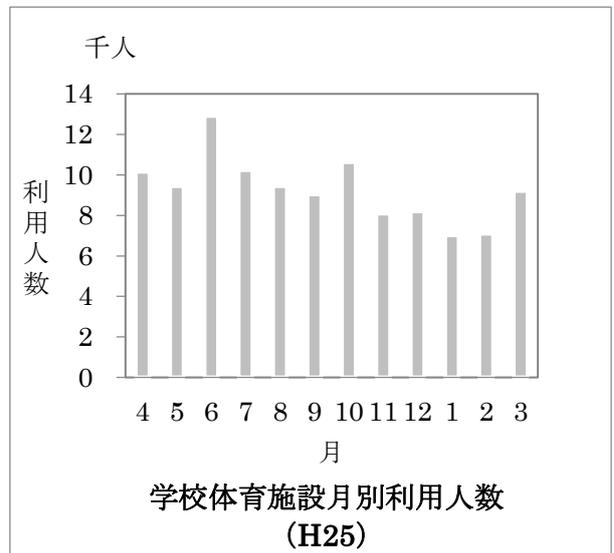
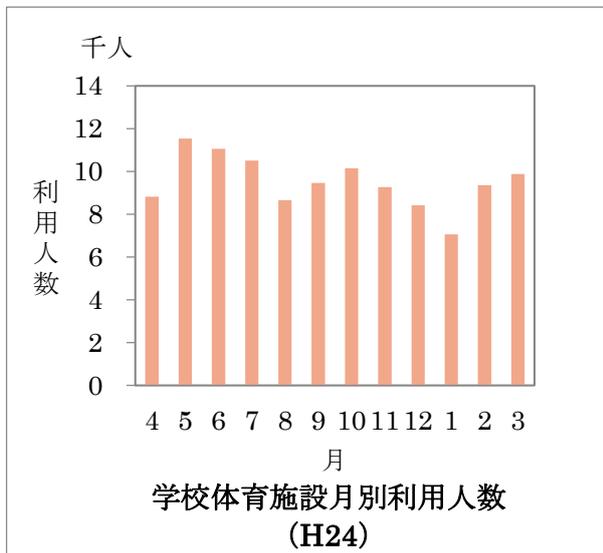
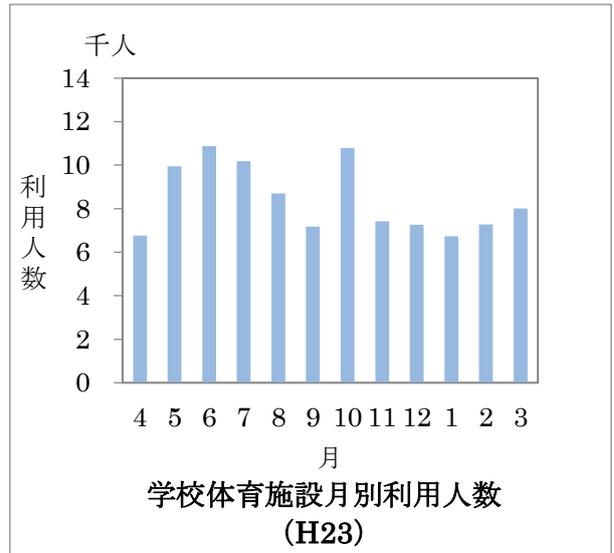
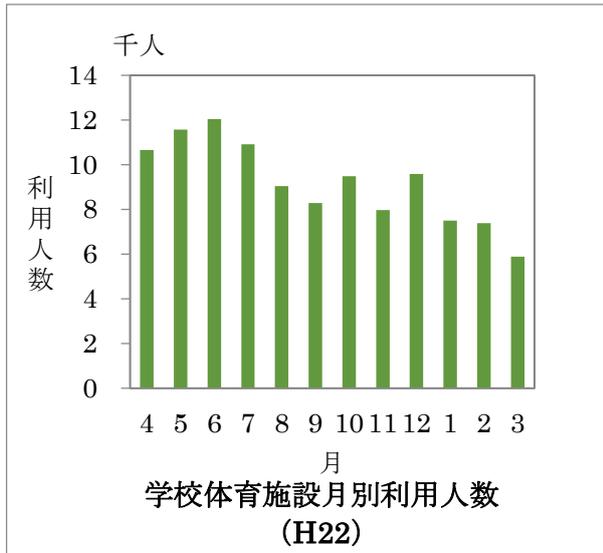
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
年度	22	10,663	11,576	12,039	10,921	9,050	8,291	9,487	7,965	9,587	7,506	7,387	5,886	110,358
	23	6,760	9,951	10,868	10,178	8,697	7,175	10,783	7,427	7,260	6,730	7,269	8,007	101,105
	24	8,817	11,542	11,058	10,515	8,665	9,463	10,153	9,274	8,417	7,061	9,355	9,882	114,202
	25	10,155	9,443	12,915	10,231	9,448	9,034	10,635	8,086	8,203	7,013	7,091	9,203	111,457
	26	10,048	11,500	11,022	11,006	7,971	9,868	10,160	9,298	7,362	7,174	9,158	8,092	112,659

単位：人



学校体育施設の利用は、過去5年で横ばいとなっている。これは、施設に対し利用団体が多く、飽和状態となっていることが原因の一つであると考えられる。学校体育施設は中学校の場合、部活動などのために休日も使用ができない場合も多く、団体の数に対して数が不足しており、市民が利用できる体育施設の確保が必要となっている。

月別の利用状況を見ると、6月と10月に特に利用が多いことがわかる。6月は、梅雨の影響で体育館に利用が集中するためであると思われる。10月は体育の日があり、スポーツ大会を開催することが多いため、利用人数も増加していると推察される。



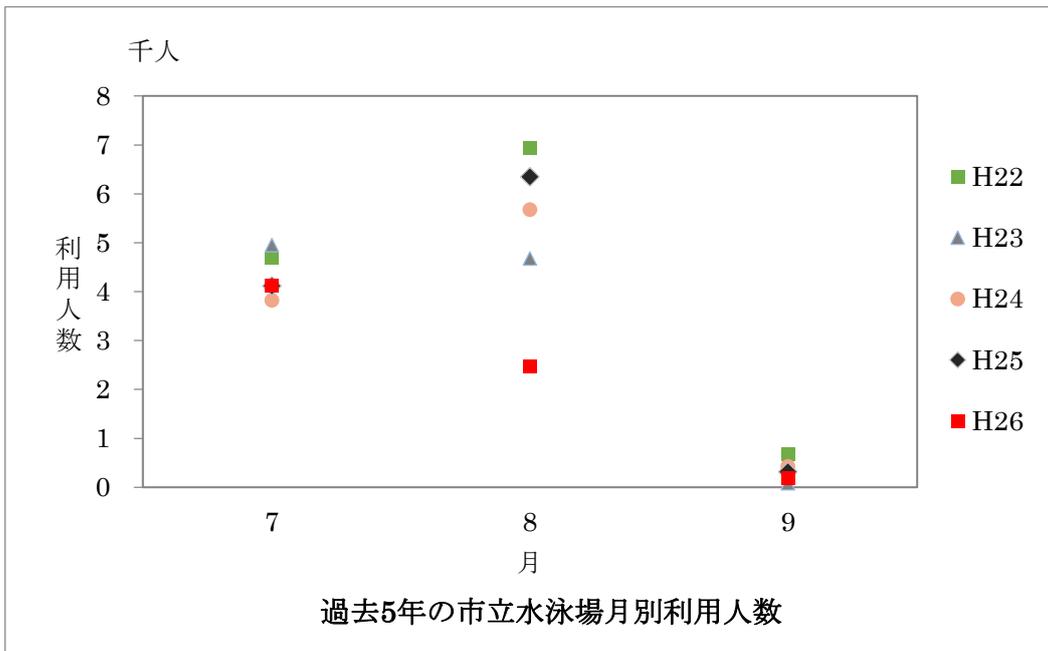
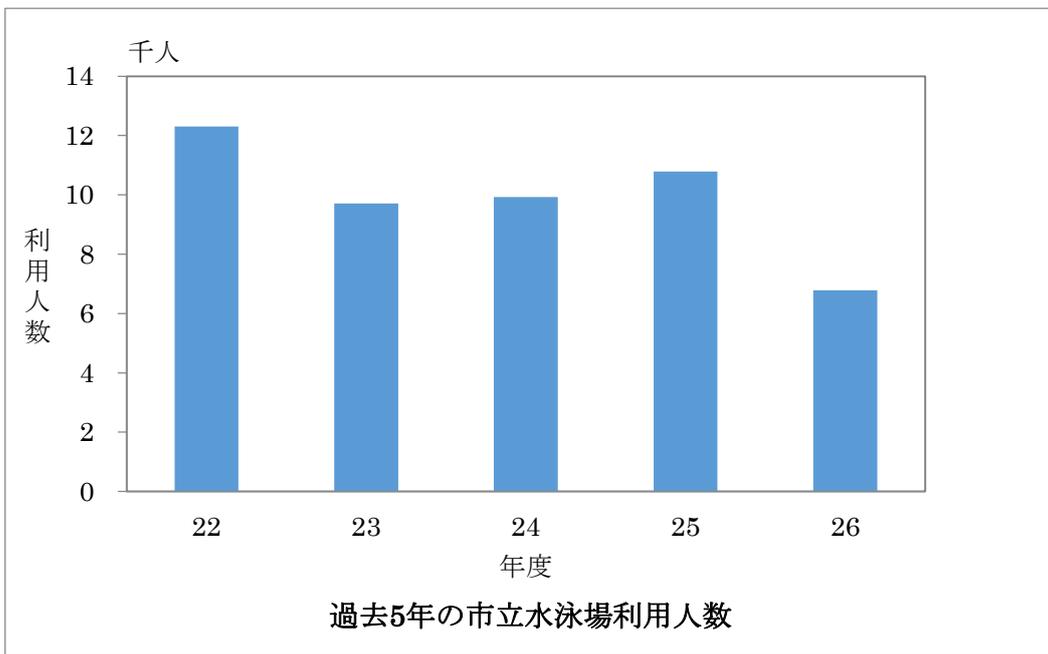
図表 45

(6) 市立水泳場の利用状況

裾野市運動公園の月別利用状況（過去5年）

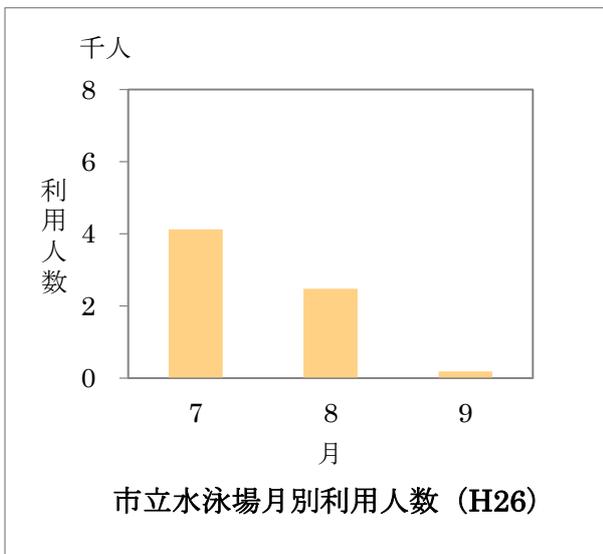
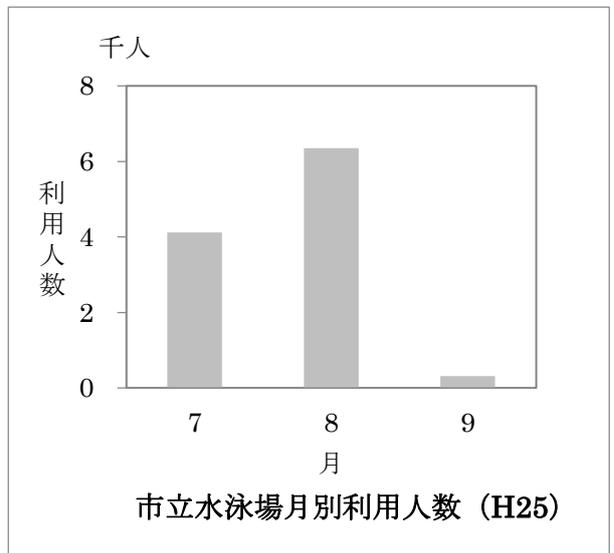
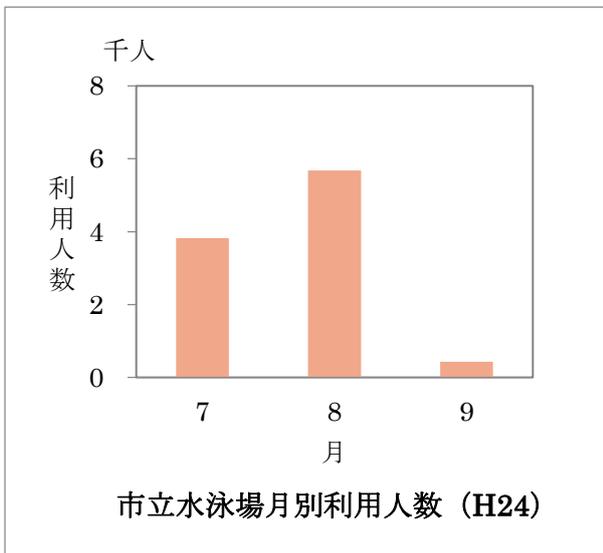
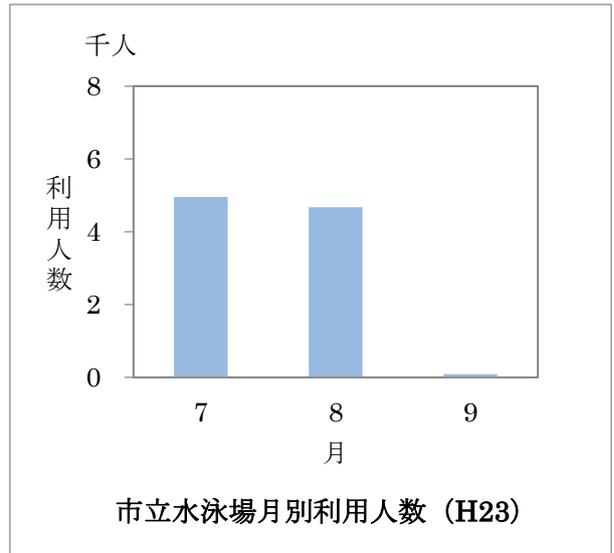
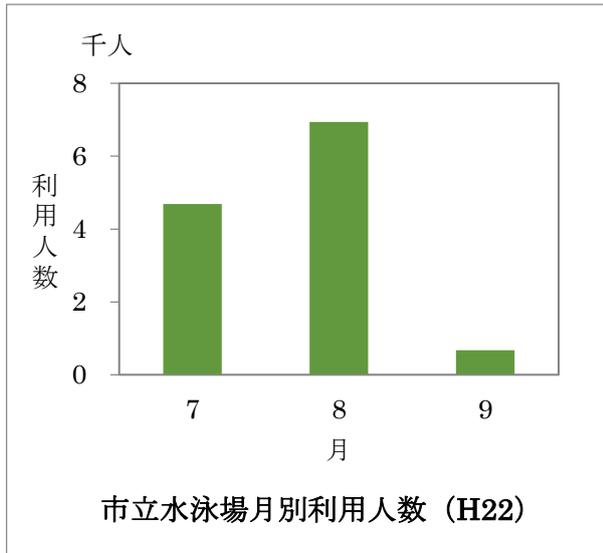
月		7	8	9	計
年度	22	4,686	6,939	676	12,301
	23	4,952	4,678	86	9,716
	24	3,823	5,678	426	9,927
	25	4,119	6,353	316	10,788
	26	4,119	2,477	189	6,785

単位：人



市立水泳場の利用状況は、減少傾向であるといえる。

また、平成 26 年度の利用人数は、他の年度に比べて約半分程度となっているが、これは天候の影響によるものだと考えられる。静岡地方気象台によると、平成 26 年 8 月前半は台風、中旬以降は湿った空気や気圧の谷、前線などの影響により曇りや雨となった日が多かった。このため、利用人数が伸び悩んだと推定される。



図表 46

6 裾野市のスポーツイベント（平成25～27年度）

	事業名	主催	開催日	開催場所
平成25年度	第34回静岡県クラブ男子ソフトボール選手権大会	裾野市ソフトボール協会	平成25年3月31日～4月14日	裾野市総合グラウンド 他
	ウルトラトレイル・マウントフジ第2回大会	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会	平成25年4月26～28日	富士山周辺11市町村
	第37回富士裾野高原マラソン大会	裾野市陸上競技協会	平成25年5月12日	裾野市運動公園陸上競技場周辺
	第35回東京大学オリエンテーリングクラブ大会	東京大学オリエンテーリングクラブ	平成25年6月2日	裾野市葛山 他
	静岡県シニアサッカーリーグ 40歳・50歳	裾野市サッカー協会	平成25年6月30日	裾野市運動公園陸上競技場
	太極音カップ少年サッカー大会	裾野市サッカー協会	平成25年7月14日	裾野市運動公園陸上競技場
	第37回全日本少年サッカー大会	富士山すそ支援委員会	平成25年7月28日～8月3日	時之栖裾野グラウンド 他
	第30回静岡県中学親善野球大会兼日韓親善交歓会	静岡県中学親善野球大会実行委員会	平成25年8月6～7日	裾野市運動公園野球場 他
	第10回ドリームカップ	中部東海身体障害者野球連盟静岡支部	平成25年8月10～11日	裾野市運動公園野球場 他
	第13回ファンケルクランシク	ファンケルクランシク大会実行委員会	平成25年8月16～18日	裾野カンツリー倶楽部
	2013Mt. FUJIエコサイクリング	公益財団法人 日本サイクリング協会	平成25年9月7～8日	富士山周辺11市町村
	平成25年度 ゴルフ観光振興事業「第1回(2013)富士山裾野ゴルフ大会」	裾野市観光協会	平成25年9月11日	東名カントリークラブ
	JFAキッズ(U-6)サッカーフェスティバル2013静岡 裾野&御殿場	裾野市サッカー協会	平成25年9月14日	裾野市運動公園陸上競技場
	第9回富士山一周ドリームウォーク	日本富士山協会・富士急トラベル	平成25年10月5日～平成26年9月9日	富士山周辺13市町村
	スタンレーレディスゴルフトーナメント	スタンレー電気株式会社	平成25年10月11～13日	東名カントリークラブ
	静岡県シニアサッカーリーグ 40歳～70歳の部	裾野市サッカー協会	平成25年11月10日	裾野市運動公園陸上競技場
	トヨタ ガズレーシング フェスティバル 2013	トヨタ自動車株式会社	平成25年11月10日	富士スピードウェイ
	第15回WJBLバスケットボール女子日本リーグ裾野大会[シャンソン VS 羽田]	裾野市バスケットボール協会	平成25年11月24日	裾野市民体育館
	第5回全日本少年春季軟式野球大会兼第15回静岡県中学校新人野球大会	裾野市野球連盟	平成25年11月24～30日	裾野市運動公園野球場
	第14回静岡県市町対抗駅伝競走大会	静岡県市町対抗駅伝競走大会裾野市実行委員会	平成25年11月30日	静岡市内
第10回東地区環境美化史跡探訪ウォーキング大会	東地区区長会	平成26年1月19日	東地区区内各所	
富士山国際雪合戦	富士山国際雪合戦大会実行委員会	平成26年2月15日	裾野市運動公園やすらぎの広場	
富士スピードウェイ主催レース・イベント(平成26年度)	富士スピードウェイ株式会社	平成26年4月19日～12月7日	富士スピードウェイ	
ウルトラトレイル・マウントフジ第3回大会	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会	平成26年4月25～27日	富士山周辺11市町村	
第38回富士裾野高原マラソン大会	裾野市陸上競技協会	平成26年5月11日	裾野市運動公園陸上競技場周辺	
第16回日本フットボールリーグ第13節[アスルクラド沼津 VS 横浜武蔵FC]	裾野市サッカー協会	平成26年6月6日	裾野市運動公園陸上競技場	
2014FIFAワールドカップパブリックビューイング	NPO法人裾野市スポーツ協会	平成26年6月15日～平成26年7月14日	東地区コミュニティセンター市民体育館	
第11回ドリームカップ	中部東海身体障害者野球連盟静岡支部	平成26年7月5～6日	裾野市運動公園野球場 他	
太極音カップ少年サッカー大会	裾野市サッカー協会	平成26年7月20日	裾野市運動公園陸上競技場	
静岡県身体障害者福祉会東部ブロック連絡協議会 第3回フライングディスク交流会	静岡県身体障害者福祉会・東部ブロック連絡協議会	平成26年7月27日	裾野市民体育館	
第59回静岡県一般男子選抜ソフトボール大会	裾野市ソフトボール協会	平成26年7月27日～8月10日	裾野市総合グラウンド 他	
ゴルフダイジェスト ドラゴン日本選手権 代表決定戦	株式会社ゴルフダイジェスト	平成26年8月2～3日	東名カントリークラブ	
第38回全日本少年サッカー大会	富士山すそ支援委員会	平成26年8月3～9日	時之栖裾野グラウンド 他	
第31回静岡県中学親善野球大会	静岡県中学親善野球大会実行委員会	平成26年8月5～6日	裾野市運動公園野球場 他	
Mt.FUJIエコサイクリング2014	公益財団法人 日本サイクリング協会	平成26年9月6～7日	富士山周辺、山中湖周辺	
JFAキッズ(U-6)サッカーフェスティバル2014静岡 裾野&御殿場	静岡県サッカー協会	平成26年9月13日	裾野市運動公園陸上競技場	
静岡県シニアサッカーリーグ 40歳・50歳	裾野市サッカー協会	平成26年9月21日	裾野市運動公園陸上競技場	
第10回富士山一周ドリームウォーク	日本富士山協会・富士急トラベル	平成26年10月4日～平成27年9月8日	富士山周辺13市町村	
スタンレーレディスゴルフトーナメント	スタンレー電気株式会社	平成26年10月10～12日	東名カントリークラブ	
静岡県シニアサッカーリーグ 40歳・50歳	裾野市サッカー協会	平成26年11月9日	裾野市運動公園陸上競技場	
トヨタ ガズレーシング フェスティバル 2014	トヨタ自動車株式会社	平成26年11月23日	富士スピードウェイ	
第15回静岡県市町対抗駅伝競走大会	静岡県市町対抗駅伝競走大会裾野市実行委員会	平成26年12月6日	静岡市内	
日本初スキー記念イベント	日本発スキー記念日イベント実行委員会	平成26年12月27日、28日	スノータウンイエティ	
第11回東地区環境美化史跡探訪ウォーキング大会	東地区区長会・東地区青少年育成連絡会	平成27年1月18日	東地区区内各所	
裾野西SSS招待サッカー大会	裾野西サッカースポーツ少年団育成会	平成27年1月24・25日、2月11日、2月21・22日	西小グラウンド、東小グラウンド	
ECO Car Cup 2015 Valentine's Days	富士スピードウェイ株式会社	平成27年2月14日	富士スピードウェイ	
富士スピードウェイ主催レース・イベント	富士スピードウェイ株式会社	平成27年4月1日～平成28年3月31日	富士スピードウェイ	
第32回全日本少年軟式野球時之栖トーナメント静岡県大会	裾野市野球連盟	平成27年4月19～25日	裾野市運動公園野球場 他	
第2回静岡県中学生硬式野球選手権大会	静岡県中学生硬式野球	平成27年5月9～17日	裾野市運動公園野球場 他	
第39回富士裾野高原マラソン大会	裾野市陸上競技協会	平成27年5月10日	裾野市運動公園陸上競技場周辺	
2015年 インタープロトシリーズ	株式会社 インタープロトモータースポーツ	平成27年5月16日～12月5日	富士スピードウェイ	
障がい者スポーツ振興事業～パリンピック アスリートの挑戦～	公益社団法人 裾野青年会議所	平成27年6月27日	裾野市民体育館	
静岡県シニアサッカーリーグ 40歳・50歳	裾野市サッカー協会	平成27年6月28日	裾野市運動公園陸上競技場	
第12回ドリームカップ	中部東海身体障害者野球連盟静岡支部	平成27年7月4～5日	裾野市運動公園野球場 他	
第16回太極音カップ少年サッカー大会	裾野市サッカー協会	平成27年7月18日	裾野市運動公園陸上競技場	
JFAフットボールフューチャープログラム トレセン研修会U-12	富士山すそ支援委員会	平成27年7月29日～8月2日	時之栖裾野グラウンド 他	
第32回静岡県中学親善野球大会	静岡県中学親善野球大会実行委員会	平成27年8月4～5日	裾野市運動公園野球場 他	
第15回ファンケルクランシク	株式会社ファンケル	平成27年8月21～23日	裾野カンツリー倶楽部	
JFAキッズ(U-6)サッカーフェスティバル2015静岡 裾野&御殿場	静岡県サッカー協会	平成27年9月12日	裾野市運動公園陸上競技場	
すそウォーキング大会	裾野市	平成27年9月12日、10月3日、10日、28日、平成28年1月1日	裾野市内	
第17回日本フットボールリーグ第9節[アスルクラド沼津 VS MIOびわこ滋賀]	裾野市サッカー協会	平成27年9月13日	裾野市運動公園陸上競技場	
平成27年度ゴルフ観光振興事業「第3回富士山裾野ゴルフ大会」	裾野市観光協会	平成27年9月25日	裾野カンツリー倶楽部	
ウルトラトレイル・マウントフジ第4回大会	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会	平成27年9月25～27日	富士山周辺11市町村	
静岡県シニアサッカーリーグ 40歳の部	裾野市サッカー協会	平成27年9月27日	裾野市運動公園陸上競技場	
ラグビーワールドカップ2015 パブリックビューイング	静岡県・裾野市・裾野市教育委員会・御殿場市	平成27年10月3日	時之栖	
第11回富士山一周ドリームウォーク	日本富士山協会・富士急トラベル	平成27年10月3日～平成28年3月7日	富士山周辺13市町村	
スタンレーレディスゴルフトーナメント	スタンレー電気株式会社	平成27年10月9～11日	東名カントリー倶楽部	
静岡県シニアサッカーリーグ 40歳の部	裾野市サッカー協会	平成27年10月29日	裾野市運動公園陸上競技場	
第1回富士山一周国際駅伝	富士山一周国際駅伝実行委員会	平成27年11月14～15日	富士山周辺9市町	
トヨタ ガズレーシング フェスティバル 2015	トヨタ自動車株式会社	平成27年11月22日	富士スピードウェイ	
桜セブンズ(七人制女子ラグビー日本代表)応援バスツアー	裾野市ラグビーフットボール協会	平成27年11月29日	東京秩父宮ラグビー場	
第16回静岡県市町対抗駅伝競走大会	静岡県市町対抗駅伝競走大会裾野市実行委員会	平成27年12月5日	静岡市内	
裾野西SSS招待サッカー大会	裾野西サッカースポーツ少年団	平成28年1月11日、2月11日、3月12日、13日	西小グラウンド	
第12回東地区環境美化史跡探訪ウォーキング大会	東地区区長会・東地区青少年育成連絡会	平成28年1月17日	平松佐野原神社～西地区方面	
富士山国際雪合戦	富士山国際雪合戦大会実行委員会	平成28年2月6日	裾野市運動公園やすらぎの広場	
コーディネートショントレーニング親子体験会	NPO法人裾野市スポーツ協会	平成28年2月11日	裾野市文化センター	
第5回 K-mix 42.195km リレーマラソン in 御殿場	一般社団法人42.195kmリレーマラソン協会 中・西日本	平成28年3月26日	御殿場運動公園	

凡例：平成25年4月1日から平成28年3月31日の間に開催された裾野市または裾野市教育委員会が主催または後援あるいは実行委員会に加わったスポーツイベント

7 裾野市スポーツ推進審議会条例

平成 23 年 12 月 9 日 条例第 17 号

裾野市スポーツ振興審議会条例(昭和 49 年裾野市条例第 15 号)の全部を改正する。

(設置)

第 1 条 スポーツ基本法(平成 23 年法律第 78 号。以下「法」という。)第 31 条の規定に基づき、裾野市スポーツ推進審議会(以下「審議会」という。)を置く。

(職務)

第 2 条 審議会は、次に掲げるスポーツの推進に関する重要事項について裾野市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の諮問に応じ調査審議し、及びこれらの事項に関して教育委員会に建議する。

- (1) 法第 10 条第 1 項に規定する地方スポーツ推進計画に関すること
- (2) 法第 35 条の規定により補助金の交付について意見を述べること。
- (3) スポーツの施設及び設備の整備施設又は設備の運営又は整備に関すること。
- (4) スポーツの指導者の養成及びその資質の向上に関すること。
- (5) スポーツ事業の実施及び奨励に関すること。
- (6) スポーツ顕彰対象者の選考に関すること。
- (7) スポーツの団体の育成に関すること。
- (8) スポーツの事故の防止に関すること。
- (9) スポーツの技術水準の向上に関すること。
- (10) 前各号に掲げるもののほか、スポーツの推進に関すること。

(組織)

第 3 条 審議会は、委員 20 人以内で組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから教育委員会が市長の意見を聴いて任命し、又は委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 関係行政機関の職員
- (3) スポーツ団体の代表者

3 審議会に会長及び副会長を起し、委員の互選より定める。

(委員の任期)

第 4 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長の職務)

第5条 会長は、会務を総理する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 審議会は、会長が招集する。

2 審議会は、委員の半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数を持って決し、可否同数のときは会長の決するところによる。

(庶務)

第7条 審議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営その他必要な事項は、教育委員会で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現に改正前の裾野市スポーツ振興審議会条例(以下「改正前の条例」という。)第3条第2項の規定により任命又は委嘱された裾野市スポーツ振興審議会(以下「旧審議会」という。)の委員である者は、この条例の施行の日に、第3条第2項の規定により、審議会の員として任命又は委嘱されたものとみなす。この場合において、任命又は委嘱されたものとみなされる者の任期は、第4条第1項の規定にかかわらず、同日における旧審議会の委員としての任期の残任期間と同一の期間とする。

3 この条例の施行の際現に改正前の条例第3条第3項の規定により選任された会長又は副会長である者は、それぞれ、この条例の施行の日に、第3条第3項の規定により審議会の会長又は副会長として選任されたものとみなす。

附 則(平成26年条例第3号)抄

(施行期日)

1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。

8 裾野市スポーツ推進委員設置規則

平成 23 年 12 月 26 日 教委規則第 6 号

裾野市体育指導委員設置規則(昭和 49 年裾野市教育委員会規則第 11 号)の全部を次のように改正する。

(趣旨)

第 1 条 この規則は、スポーツ基本法(平成 23 年法律第 78 号)第 32 条第 2 項の規定に基づきスポーツ推進委員(以下「委員」という。)の職務その他必要な事項を定めるものとする。

(職務)

第 2 条 委員は、市民のスポーツの推進に関し、その分担する地域又は事項について次の職務を行う。

- (1) スポーツの推進のための事業の実施に係る連絡調整を行うこと。
 - (2) スポーツの実技の指導を行うこと。
 - (3) 市民のスポーツ活動の促進のための組織の育成を図ること。
 - (4) 教育機関の行うスポーツの行事又は事業に関し、協力すること。
 - (5) スポーツ団体その他の団体の行うスポーツに関する行事又は事業に関し、求めに応じ協力すること。
 - (6) 市民一般に対し、スポーツについての理解を深めること。
 - (7) 前各号に掲げるもののほか、市民のスポーツの推進のための指導助言を行うこと。
- 2 前項の規定により委員が分担する地域又は事項は、教育長が定める。

(定数)

第 3 条 委員の定数は、23 人以内とする。

(委嘱)

第 4 条 委員は、裾野市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が委嘱する。

(任期)

第 5 条 委員の任期は、2 年とし、再任することができる。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会は、特別の理由があるときは、委員を免職することができる。

(服務)

第 6 条 委員は、相互に密接に連絡し、協力しなければならない。

2 委員は、その職務を遂行するに当たって法令、条例及び教育委員会の定める規則並びに

規程に従わなければならない。

3 委員は、その職の信用を傷つけ、又はその職全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

(研修)

第7条 委員は、常に職務を行う上に必要な知識及び技術の修得に努めなければならない。

(報酬及び費用弁償)

第8条 委員がその職務を行うために要する報酬及び費用弁償は、裾野市特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償等に関する条例(昭和63年裾野市条例第8号)による。

(委員会)

第9条 第2条に定める職務を行うため、委員で組織する裾野市スポーツ推進委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会に、委員の互選による委員長その他の役員を置き、委員長は、委員会を代表する。

3 役員の任期は、委員の任期とする。

(会議)

第10条 委員会の会議は、委員長が招集する。

(委任)

第11条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 スポーツ基本法の施行の際現に体育指導委員である者で同法附則第4条の規定によりスポーツ推進委員とみなされたものの任期は、第5条第1項の規定にかかわらず、同法の施行の日における体育指導委員としての任期の残任期間と同一の期間とする。

9 写真一覧

No.	キャプション	頁
写真1	裾野市立水泳場	6
写真2	富士裾野高原マラソン大会	8
写真3	裾野市運動公園から望む富士山	10
写真4	ピラティス(裾野市運動公園)	13
写真5	ファミリーバドミントン(駿東地区レクスポ大会)	16
写真6	ドリームカップ(裾野市運動公園野球場)	19
写真7	第58回 国体ラグビー少年の部(裾野市陸上競技場)	24
写真8	ヘルシーパーク裾野から望む富士山	26

10 図表一覧

No.	図表名	頁
図表1	裾野市スポーツ推進計画策定フロー図	3
図表2	1回30分以上の運動をしている市民の割合(H26年度市民意識調査)	4
図表3	20歳以上の市民の各種スポーツ大会参加率(H26年度裾野市教育に関するアンケート調査)	7
図表4	20歳以上の市民の各種スポーツ教室参加率(H26年度裾野市教育に関するアンケート調査)	7
図表5	裾野市スポーツ推進計画目標フロー図	27
図表6	平成26年度裾野市民意識調査 回収状況	33
図表7	平成26年度裾野市民意識調査 回答者の属性	34-36
図表8	平成26年度裾野市民意識調査 「問8 ご自分の健康についてどのように感じていますか。」	37-38
図表9	平成26年度裾野市民意識調査 「問9 ご自分の体力についてどのように感じていますか。」	39-40
図表10	平成26年度裾野市民意識調査 「問10 この1年間でスポーツや運動(1回あたり30分程度以上)をどれくらいの頻度で行いましたか。」	41-42
図表11	平成26年度裾野市民意識調査 「問10-1 習慣的な運動によって、自分が健康を保つことができていると感じますか。」	43
図表12	平成26年度裾野市民意識調査 「問10-2 ふだん利用するスポーツ施設は次のどれですか。」	44-46
図表13	平成26年度裾野市民意識調査 「問11 スポーツや運動を頻繁に行うために、障害となっている理由はありますか。」	47-51
図表14	平成26年度裾野市教育に関するアンケート 回収状況	53
図表15	平成26年度裾野市教育に関するアンケート i 児童・生徒編 学校生活について 普段感じていること ■小学生■	54
図表16	平成26年度裾野市教育に関するアンケート i 児童・生徒編 学校生活について 普段感じていること ■中学生■	55
図表17	平成26年度裾野市教育に関するアンケート i 児童・生徒編 普段の生活について できていること ■小学生■	56
図表18	平成26年度裾野市教育に関するアンケート i 児童・生徒編 普段の生活について できていること ■中学生■	57
図表19	平成26年度裾野市教育に関するアンケート i 児童・生徒編 普段の生活について 普段すること ■小学生■	58
図表20	平成26年度裾野市教育に関するアンケート i 児童・生徒編 普段の生活について 普段すること ■中学生■	59
図表21	平成26年度裾野市教育に関するアンケート i 児童・生徒編 学校以外の行事や活動について 参加したことのある学校以外の行事や活動 ■小学生■	60
図表22	平成26年度裾野市教育に関するアンケート i 児童・生徒編 学校以外の行事や活動について 参加したことのある学校以外の行事や活動 ■中学生■	60
図表23	平成26年度裾野市教育に関するアンケート ii 保護者編 子どもの教育について 子どもの教育について関心があること ■小学生保護者■	61

No.	図表名	頁
図表24	平成26年度裾野市教育に関するアンケート ii 保護者編 子どもの教育について 子どもの教育について関心があること ■中学生保護者■	62
図表25	平成26年度裾野市教育に関するアンケート ii 保護者編 子どもの教育について 育児をするうえで地域で力を入れるべきこと ■小学生保護者■	63
図表26	平成26年度裾野市教育に関するアンケート ii 保護者編 子どもの教育について 育児をするうえで地域で力を入れるべきこと ■中学生保護者■	63
図表27	平成26年度裾野市教育に関するアンケート ii 保護者編 子どもの教育について 学校以外で子どもたちにやらせたい(やっている)こと ■小学生保護者■	64
図表28	平成26年度裾野市教育に関するアンケート ii 保護者編 子どもの教育について 学校以外で子どもたちにやらせたい(やっている)こと ■中学生保護者■	65
図表29	平成26年度裾野市教育に関するアンケート iii 一般市民編 学習活動について 現在行っている学習活動	66-68
図表30	平成26年度裾野市教育に関するアンケート iii 一般市民編 学習活動について 今後行ってみたい学習活動	69-71
図表31	平成26年度裾野市教育に関するアンケート iii 一般市民編 学習活動について イベントへの参加状況 各種スポーツ大会	72
図表32	平成26年度裾野市教育に関するアンケート iii 一般市民編 学習活動について イベントへの参加状況 各種スポーツ教室	73
図表33	平成26年度裾野市教育に関するアンケート iii 一般市民編 裾野市の子どもたちについて 地域の子どもたちとの接し方	74-76
図表34	平成26年度裾野市教育に関するアンケート iii 一般市民編 裾野市の教育施策や教育事業について 特に力を入れて行う必要のあるスポーツ活動に関する教育施策や事業	77-79
図表35	平成26年度裾野市教育に関するアンケート iii 一般市民編 裾野市の教育施策や教育事業について 子どもの生涯学習に不足しているもの	80-82
図表36	平成24～26年全日本少年サッカー大会来場者アンケート集計 アンケート総数	83
図表37	平成24～26年全日本少年サッカー大会来場者アンケート集計 旅行手段	83
図表38	平成24～26年全日本少年サッカー大会来場者アンケート集計 宿泊場所	83
図表39	平成24～26年全日本少年サッカー大会来場者アンケート集計 宿泊日数	84
図表40	平成24～26年全日本少年サッカー大会来場者アンケート集計 サッカー観戦以外の観光先	84
図表41	裾野市営スポーツ施設の利用状況推移 裾野市営スポーツ施設の利用状況	85-87
図表42	裾野市営スポーツ施設の利用状況推移 裾野市民体育館の利用状況	88-90
図表43	裾野市営スポーツ施設の利用状況推移 裾野市総合グラウンドの利用状況	91-93
図表44	裾野市営スポーツ施設の利用状況推移 裾野市運動公園の利用状況	94-96
図表45	裾野市営スポーツ施設の利用状況推移 学校体育施設の利用状況	97-99
図表46	裾野市営スポーツ施設の利用状況推移 市立水泳場の利用状況	100-102
図表47	裾野市のスポーツイベント(平成25～27年度)	103

裾野市スポーツ推進計画（平成28～32年度）

平成28年3月31日 発行

編集・発行 裾野市教育委員会

静岡県裾野市佐野1059番地

電話 055-992-1111



© 裾野市